

家庭教育指導資料

家庭教育学級の手びき

～学級の企画・運営にあたって～

平成2年度 家庭教育総合推進事業報告書



福岡県立社会教育総合センター

は　じ　め　に

家庭が、子どもの人間形成とくに心身の発達に及ぼす影響は、親はもとよりまわりの成人の人生体験によるところが大きいと言われています。

それだけに、家族相互の心の触れあう温かい家庭基盤の確立と家庭教育機能の充実が望まれています。

県教育委員会としても、家庭教育に関する親の学習機会の保障や学習活動を促進するための学級開設の奨励援助など、種々の施策を通して課題解決のため条件整備に努めています。

家庭教育企画推進委員会では、昨年度、市町村で実施されている家庭教育学級の実態調査を行い、その結果について報告書「家庭教育学級の現状と課題」を作成し配布したところです。

本年度は、その調査結果を踏まえ、家庭教育学級を開設するに当たっての企画・運営の手順と方法について、関係資料をとり入れ、「家庭教育学級の手引書」としてまとめました。

この冊子が、家庭教育学級を担当される方がたの参考となり、ひいては本県家庭教育の一層の充実強化に役立てば幸いに思います。

なお、この事業をすすめるに当たって、御尽力いただきました企画推進委員の諸先生並びに関係者の方がたに心からお礼を申し上げます。

平成 3 年 3 月

福岡県立社会教育総合センター

所 長　鹿 毛　勲　臣

家庭教育学級の手びき

～ 学級の企画・運営にあたって ～

目 次

序 活用に当たって	1
第1章 家庭教育	3
1. 現代社会における家庭教育の変化	3
2. 家庭教育の活性化を図るための取り組み	4
第2章 家庭教育学級	6
1. 家庭教育学級の目的と性格	6
2. 家庭教育学級の地域活動としての意義	7
第3章 家庭教育学級開設の手順と方法	9
1. 学級開設要項	10
開設期間／開設時間帯／開設場所／予算	
2. 学級の母体の選定と折衝	11
明日の親のための学級／乳幼児学級／	
働く親のための学級／一般的な学級	
3. 企画委員会	13
企画委員会の役割／委員会の構成／事例	
4. 学級編成	16
学級対象者の類別と規模／他学級組織との連続性／会員制か任意制か	
5. 学級生の募集	17
広報媒体と範囲／募集内容／参加増進	
6. 開級式の進め方	18
第4章 年間学習計画作成の手順と方法	20
1. 学習計画の作成ポイント	20
学習課題の把握／課題の発掘／内容の配列順位への配慮	
2. 具体的な学習計画の作り方	24
学習主題（テーマ）／学習目標／学習課題／学習内容／学習方法	
学習資料（教材）／時間配分／講師・助言者／経費配分	

第5章 学級運営	34
1. 運営委員会	34
運営委員会の仕事内容／運営委員会の構成	
2. 学習展開計画の作成の方法	36
学習課題と到達目標の設定／学習の形態	
講師・助言者の選出と折衝／教材の利用	
3. 学級の組織化	40
学級のまとまりの効果／欠席者への対応／人材の活用と育成	
4. 学習活動の評価	43
評価の基準／反省と報告	
5. 閉級式の進め方	45
第6章 個別学習展開	47
1. 学習展開過程	47
2. 担当者の留意点	48
学級組織の活用／講師・指導者との打ち合わせ	
会場の整備・点検／実践記録	
3. 学習活動展開過程－計画案例－	50
第7章 まとめ	54
1. 家庭の学習	54
2. 計画的学習	55
3. 継続的学習	56
4. 集団的学習	56
5. 情報に支えられた学習	57
6. 学級外活動	58
7. 自主学級をめざして	59
8. むすび	60
資 料	62
1. 家庭教育学級の開設および運営について	
2. 明日の親のための学級開設・運営資料（抄）	
3. 集団学習奨励費の運用について	

4. 家庭教育に関する視聴覚教材一覧（社会教育総合センター保有）
5. 家庭教育関係資料一覧（社会教育総合センター保有）
6. 平成2年度家庭教育総合推進事業の概要

表紙＝県子連会長賞

長延子ども会（上広川小学校3年） 辻 文 也

序

1. 活用に当たって

子どもが育つ環境としての家庭、親にとって養育の現場である家庭、いずれをとっても今、家庭はその機能を十分には果せなくなってきました。したがって、その機能回復のために家庭教育に関する活動が各地で活発に行われています。家庭教育が子どもの健全な成長を目標にしていることを考えると、子どもの立場に立って家庭教育を見直すことも意味があることになります。

また、子どもたちが家庭の中だけでなく、地域生活からも多くのことを学び取って育っていることを考えると、地域を視野に入れておかなければ、家庭教育を十分に把握することは出来なくなります。

そこで、総合推進事業では、家庭教育を家庭内、家庭間、家庭外教育の三つに拡大して捉え直すことにしました。すなわち家庭と地域をそれぞれ独立した別個の世界と見なすのではなく、連続した相互に依存しあうものと考えました。家庭の立場から言えば、地域も家庭の一部であるということです。地域は親が関わるべきものという考え方は、単なる理念ではありません。親の子育ての自信が地域とのつながりの深さに依存する調査結果が得られたことから、地域との関係は現実的なものです。つまり、子どもにとっても、親にとっても、地域とのつながりは家庭教育の充実にとって欠くことの出来ないものなのです。

家庭と地域の接点に「家庭教育学級」があります。個々の家庭教育を充実させるには二つの道があります。一つは内から、一つは外からです。親が学習することによる家庭機能の促進と、親同士の連携による地域機能の充実です。家庭教育学級について言えば、学習の内容が前者に、学級の運営が後者に関わることになります。したがって、市町村教育委員会で行われている家庭教育学級も、「学習」の機会を提供するという機能から一步踏み込んで、「学級」活動の充実化を次なる目標とし、地域集団の育成という面に着目する段階に至っています。家庭教育の担当者が望んでいる学級の自主運営への願いは、学級活動がなにを目指すかという課題を設定することで一步前進します。

家庭教育の充実にとって、家庭教育学級が果してきた役割は大きなものがあります。親にとって身近に学習の場があるということは子育てに相当の支えになってい

ますし、今後この学級がさらに盛んになることは、親にとってますます必要なこと
でしょう。そこで県下の家庭教育学級の実態について調査研究し、その結果に基づ
いて今後の家庭教育学級の運営に関する指針をまとめました。

この報告書は、運営に携わっている担当者が直面していると思われる三つの課題
に沿って内容の編成をしています。

第一の課題は「学習カリキュラム」の設定に関するものです。学習カリキュラム
をどのように組み上げたら良いのかという方法論です。これに応えたのが〔企画編〕
：年間学習計画作成の手順と方法に関する第4章です。

第二の課題は「学級運営」の方策に関するものです。学級という一つの組織を運
営するにはそれなりの基本的方策があります。マニュアル的なものが現場では真っ
先に必要とされます。これに応えるのが〔運営編〕：学級の全体的運営に関する第
5章、個別的学习展開事例に関する第6章です。

第三の課題は、リーダー養成も含めた「自主運営」の推進に関するものです。この
点については関連した個所で触れている程度で、特に章を設けて具体的な指針を示
すことはしていません。

家庭教育の問題点を第1章で、家庭教育学級の概要を第2章で、学級開設の要領
を第3章で提示しているのは、学級生が学級の運営に関与する際の準備として役立
つようにしたいものです。リーダーになろうとする人には、順を追って読み通して
もらえるようになっています。

家庭教育学級を実際に運営する場合、実情に合わせて具体的な作業が進められる
はずですが、その際に、この資料の内容項目に沿って作業プロセスのチェックをし、
さらに検討をしてください。そうすることで学級運営は基本的なポイントを外すこ
とがなくなるでしょう。

この資料を、運営のマニュアル、運営のテキスト、運営のチェックリストなどと
して、あなたの自由な使い方で生かしてください。家庭教育学級がより活性化する
ことによって、家庭だけでなく地域も含めて少しでも望ましい方向に動き始めたら、
子どもたちにとって何よりのことです。

第1章 家庭教育

1 現代社会における家庭教育の変化

かつて、子どもの教育は、ほとんど家庭で行われていました。ところが、いまや家庭の教育力は、かなり弱体化しています。家庭におけるしつけ不在、子どもの教育の学校依存、そして過保護や放任といった問題状況が、さまざま指摘されています。こうした状況の反映でしょうか、子どもたちの問題状況も一向に好転するきざしをみせていません。非行や問題行動の多発、弱者いじめそして最近では学校不応・不登校（登校拒否）や高校中退の急増といった深刻な事態が、新たな教育問題としてクローズアップされてきています。

家庭教育が弱体化してきた背景には、いったいどんな事情があるのでしょうか。そこには、1人ひとりの親の責任というより、もっと構造的な原因があります。もともと、しつけとは、計画的に「教え込む」というのではなく、「見よ見まね」で日常の生活行動を無意識のうちに体得させるのが、その本質だといわれています。伝統的な社会にあっては、子どもたちは父母、祖父母とともに家の仕事や作業をすることによって、家業をはじめとする生活技術を体得していました。

この生活技術の体得というのは、たんに職業的能力の習得だけでなく、社会規範、行動様式、社会的ルールをふくむ、生活様式全般にわたる習得を意味しています。ところが、そうしたしつけの「基盤」であり、「方法」であった仕事や作業が、産業構造の変容によっていまや完全に崩壊してしまいました。こうして、しつけの伝統的な目標・内容・方法はその根拠をなくしてしまい、それぞれの家庭でのしつけは、「教え込み」に転換することを、余儀なくされてしまいました。ところが、これにかんする親の自信のなさ、混乱とが、結果的に家庭教育の弱体化を招くことになってしまったのです。

そのうえ、子どもたちを取り巻く社会環境の急激な変動、といった問題があります。物があふれ、さまざまな情報が流れ、しかも価値観の多様化といった状況は、確実に子どもたちの生活や意識を変えてしまいました。そんな子どもたちに対しては、従来の固定的な観念や考え方では、とても対応できません。それだけでも、親の負担や、とまどいは大きいようです。とはいえ、地域社会が崩壊してしまったいま、地域社会の教育力を期待することも出来ません。

本来、子どもを「一人前」に育てあげるということは、親としての心情を別にすれば「公事」に属することでした。親だけでなく、地域の人たちや、「世間」が子どもを育てるという発想は、この事実を端的に象徴しています。ところが、いまや家庭のなかで、親が独占的に子どもを育てあげる、という状況が支配的になっています。つまり、子どもを育てあげることが、「公事」のレベルから「私事」へと転換してしまったわけです。

こうした状況を考えますと、家庭教育の弱体化という問題を、単純に親の姿勢だけに求めても、なんの意味もありません。むしろ、こうした現実に基づいて、今後の家庭教育のあり方と、これをサポートするシステムを考えていく必要があります。

2 家庭教育の活性化を図るための取り組み

現実には、子どもの教育に対する、親の自信のなさやとまどいは、けっして少なくありません。たとえば、本県の社会教育課が、中学生をもつ親に、子どもの教育に対する自信をきいた調査の結果をみてみますと、つぎのようになります。母親の場合は、おおいに自信がある 5.4%、だいたいある57.0%、あまり自信がない34.7%、そしてまったくないが 2.2%といった具合です（父親は、それぞれ11.8%、61.5%、23.1%、2.8%）。

そして、子どもの気持ちがわからず、とまどうことがあるか、ということに関しては、程度の差はあれ86.4%もの母親がこういう経験をもっています（父親：86.1%）。また、子どもに対して、はれものにさわるような気持ちで接した経験については、51.3%の母親がこうしたことがあると答えています。（父親：44.4%）。やはり、子どもの教育に対する親の自信は、かなり揺らいでいるといわざるをえません。

こんな状況のなかで、家庭教育を活性化させていくためには、やはりこれを援助したり、サポートしていく事業、ないしは組織・機関が不可欠の条件です。かつては、この機能を地域社会が、その教育力によって担っていたわけです。しかし、すでに述べたように、地域社会が崩壊したいま、これに期待することは不可能です。そうすれば、地域の機関、施設、組織による意図的な活動という、いわばフォーマルな教育力や、ないしはこれのサポートが必要になります。

たとえば、各地域で実施されているPTAによる活動や、婦人学級、公民館や図書館などの社会教育施設・文化施設を利用した活動、そして今回問題にしています

「家庭教育学級」における学習活動です。さらには、マス・メディアを通じての学習活動や、大学の公開講座、あるいは民間による、たとえばカルチャーセンターなどでの学習活動です。率直に言えば、こうした活動を活性化することなしに、家庭教育そのものを活性化することは、とても出来ません。

いまの親たちにとって、とくに若い親にとっては、子どもの教育に関して、自分の親の指示を受けることも、あるいは近所の高齢者の判断を求めることも、きわめて困難な状態におかれています。それを援助し、サポートする施策として、フォーマルで意図的な活動を提供していくことが、いま求められています。ところが、こうした施策、ないしは活動のなかで、もっともポピュラーな「家庭教育学級」を取り上げてみても、その組織・運営、カリキュラム、受講生の特性、そしてその他さまざまな状況に関して、ほとんど明らかにされていません。これほど、県外・県内を問わず、各地でたくさんの「家庭教育学級」が開設されいているにもかかわらずです。しかも、これは、多くの人びとに対して、きわめて重要な学習機会を提供しており、貴重な役割を担っています。その面でも、「家庭教育学級」の実態、問題点、課題といった問題を明らかにすることは、かなり意味があります。



第2章 家庭教育学級

1 家庭教育学級の目的と性格

家庭教育学級を、一言でいいますと「両親等が家庭教育に関する学習を一定期間にわたって、計画的・継続的かつ集団的に行う事業」ということになります。これは、昭和46(1971)年に、各都道府県教育長あてに文部省社会教育局長より出された「家庭教育学級の開設と運営について」によるものです。もともと、この施策は、昭和39(1964)年に、文部省が市町村に対する補助事業として制度化したものです。

いうまでもありませんが、成人教育の1つとして、主として父親・母親を対象にした学習活動の機会です。簡単にいってしまえば、「親であることの教育」の保障です。これを、個人的に学習するのではなく、集団的に、しかも計画的・組織的に、そして継続的に学習する機会です。また、こうした家庭教育学級は、従来は義務教育就学年齢層の子どもをもつ親を対象にしたものであったのが、昭和50(1975)年から、新たに託児をとまなう家庭教育学級「乳幼児学級・講座」が特設されています。そして、「親になるための教育」として昭和56(1981)年より「明日の親のための学級・講座」が、さらに「働く親のための学級・講座」が昭和61(1986)年より新設されています。

これをみてもわかるように、家庭教育学級が、たんに小・中学性をもつ親だけでなく、乳幼児期の子どもをもつ親、さらにこれから親になる人たちにまで、拡大されて実施されています。そして、時代のニーズとして、働いている親の学習要求にも答えるといった施策も具体化されています。こうした内容をふくむ家庭教育学級は、開設数、参加者数ともに、ほぼ増加傾向が認められます。開設数では、昭和51(1976)年の18,881から昭和61(1986)年の26,341に、参加者数でも1,003,560人から1,686,045人に増加してきています。

むろん、こうした施策が出された背景には、すでに明らかにしたような、家庭教育と、これを取り巻く社会環境の変化という状況があります。なかでも、弱体化した家庭教育を活性化させるための方策として、そしてなによりも子どもの教育に対して自信をもてない親に一定の指針を与える方策として、きわめて有用だと考えられます。

また、最近の生涯教育のレベルで考えても、学校を終えた成人に対する、重要な

社会的な学習の機会としても有用です。ただ、家庭教育は、家庭というプライベートな所で行われる教育であるため、画一的で、一定の考え方・在り方に拘束するような方向は、避けるべき必要があります。

2 家庭教育学級の地域活動としての意義

いうまでもなく、家庭教育学級は、ある一定の地域的範囲のなかで開設されるものです。したがって、家庭教育学級に参加すること自体が、すでに地域活動に参加しているということになります。このことは、そこで学習した内容もさることながら、参加者による地域的ネットワークの形成にも効果のあることを意味しています。地域社会がすでに崩壊していることは、すでに述べたとおりです。そのことによって、子どもの教育環境にも、さまざまな支障が生じていることが明らかにされています。

いまさら指摘するまでもなく、地域社会は子どもたちの教育にとって、じつに重要な環境です。異年齢の子どもたち同士の交わりや、近所のおとなたちとの交流、そしてさまざまな体験を可能にするためにも、地域の再編はぜひとも必要な課題です。残念ながら、最近では、おとな同士の近所づきあいすらないに等しい状態です。こうした状況を、少しでも克服するためにも、家庭教育学級を開設することは意義があります。少なくとも、この学級に参加した地域の人たちの交流だけは、可能になるはずです。いってみれば、子どもの教育を中心にすえたかたちでの、地域的ネットワークの再編ということになります。

そのためにも、家庭教育学級の開設には、それぞれの地域の実状にそくした方向で、計画・準備する必要があります。学級や講座のテーマにしても、学習内容にしても、あるいは開設日時・時間にしても、どれだけ地域の実状にそくしているかが、課題になります。かりに有名な講師を招いたとしても、あるいはすばらしいテーマを設定したとしても、それぞれの地域の実態とあまりにかけ離れていれば、参加者はおのずと限定されてきます。いや、参加者だけの問題ではありません。せっかく学習した内容が生きてこないだけではなく、参加者の地域的ネットワークの形成もむずかしくなってしまいます。

参加者が、その地域の実状にそくしたかたちで、共通の土台に立って子どもの教育を考えたり、討論する場が必要です。そうでなければ、貴重な時間をさいて参加したにもかかわらず、実際にはなんの役にも立たないということになりかねません。

家庭教育学級で学習する内容や、考えたり討論したりする問題は、学問研究のそれではありません。たんなる、教養を身につける場所でもありません。程度の差はあれ、実践的であることが、求められています。

それを実現するためにも、「地域の実状にそくした家庭教育学級」という課題は、不可欠な条件といってよいでしょう。このことは、けっしてむずかしい問題ではありません。しかも、このことによって、地域活動としての家庭教育学級の意義づけが、さらに明らかになると考えられます。

家庭教育学級という方策は、基本的にもっとも社会的ニーズの高い施策です。いうまでもなく、子どもの教育という、きわめて関心の高い、なおかつ困難さをともなう問題を中心とする学習機会です。このことは、先ほどの、子ども教育に対する親の自信のなさを考えてみてみれば、よくわかると思います。にもかかわらず、参加者が少ないとすれば、それは参加しない人たちに問題があるのではなく、この学級の開設のしかたや在り方に問題があるといわざるをえません。

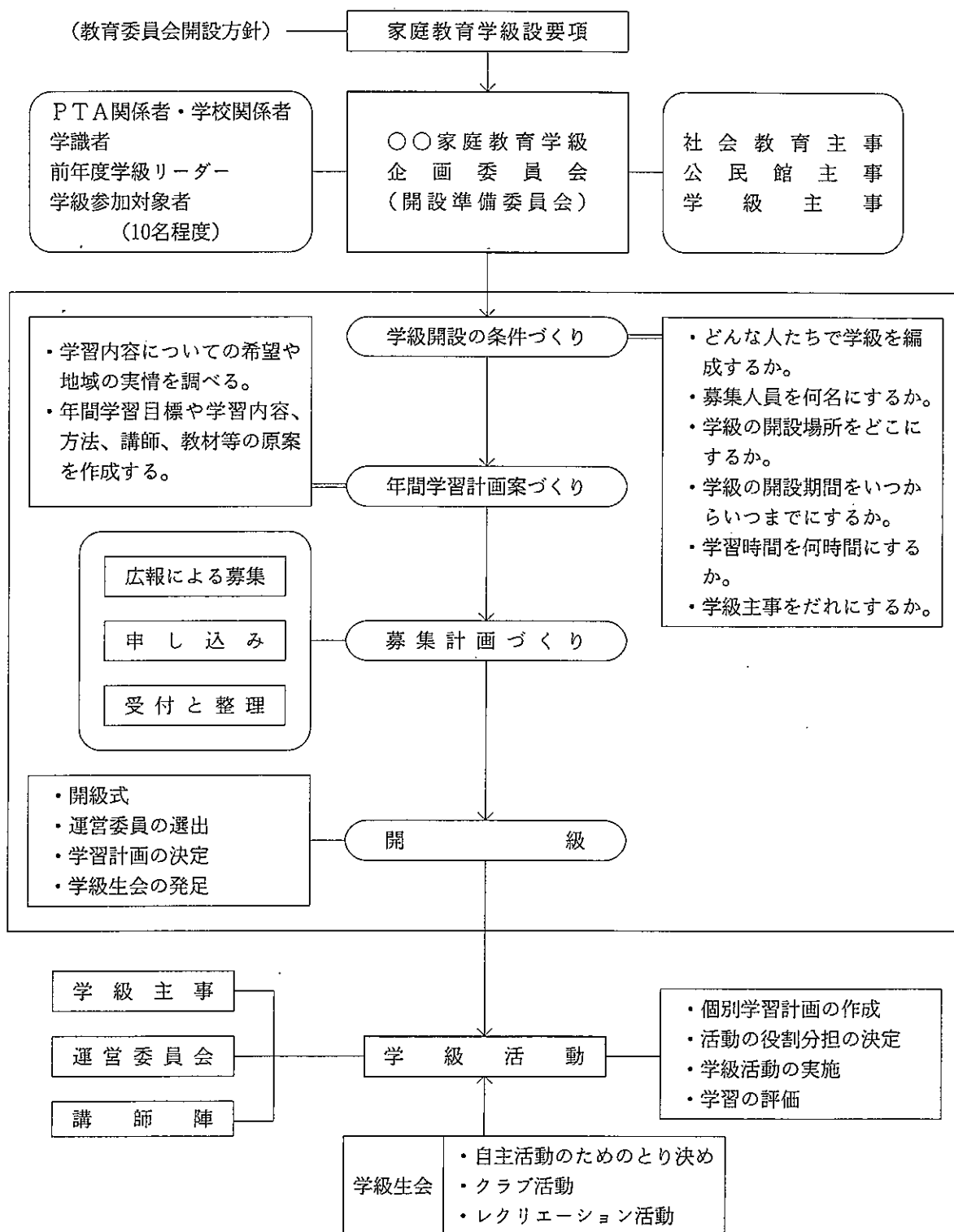
その意味では、それぞれの家庭教育学級の実態や、その在り方、さらにはこれまでの経緯について、いま一度ここで点検してみる必要がありそうです。



第3章 家庭教育学級開設の手順と方法

学級開設の手順は下図のとおりになっています。この章では、企画委員会の設置から開設までについて述べてみます。

学 級 開 設 の 主 な 手 順



1 学級開設要項

(1) 開設期間

学習時間は20時間以上を原則とし、1回2時間を単位とし10回以上開催します。

開催日は、一定の曜日（たとえば、第1火曜日等）に設定します。

学級開催は、月1回実施しておおよそ1年間行う場合と、月に2回開催して半年間行う場合があります。調査結果では62%が10カ月以上開催されています。1年間にわたって、同じ学級で学習することにより、学級生どおしのふれあいも密になり、また、担当者と学級生の意志の疎通もスムーズにいきよりよい学級の運営に役立つと思われます。

開設期間の設定については、地域の実状（商店街や農家等）をふまえて、繁忙期を避けるようにします。

(2) 開設時間帯

開設時間帯の設定は、「学級生の出席しやすさ」をまず考慮します。乳幼児を持つ親、幼稚園生や小学生を持つ親、勤労婦人、自営業の親等、対象者によって参加しやすい時間帯はそれぞれ違います。

また地域環境等にも配慮して、参加者の出席しやすい時間帯を設定します。調査結果では、「午前」「午後」「夜間」それぞれほぼ同数開催されています。市部では、「午前」と「午後」が多く、町村部では「夜間」が多くなっています。

(3) 開設場所

学級生が気軽に参加でき、交通の便がよく参加しやすい場所を設定します。一般的には学校、公民館が多く利用されておりますが、内容や集まる人数等によって次のような場所が考えられます。

〔例〕 地区公会堂（地域公民館）、保育所、幼稚園、保健所、婦人会館、図書館、学習者宅

保育所・幼稚園は乳幼児を持つ親にとって、子ども達をあずかる施設が整っている点では適当な場所といえます。

保健所は、乳幼児検診の開設日に合わせて学級をすれば、たくさんの参加者が得られるでしょう。

カリキュラムの内容によって、たとえば仲間づくりのためのレクリエーションをする場合や視聴覚教材等を利用する場合は、会場設備の整ったところに変更してもいいでしょう。

開催場所の設定のほかに会場の設営にも配慮します。学校の教室式でなくできるだけみんなが対面して座れるようにしたり、グループ討議ができるように配置します。

(4) 予 算

学級の予算は、多い方がよいに決まっています。しかし、決められた予算の中で知恵を出し、工夫することにより、学習効果をあげることができます。

予算の内訳として、謝金、旅費、消耗品費、印刷製本費、会議費、通信運搬費等が考えられます。視聴覚教材を利用したり、話し合いをとり入れることにより、謝金を減額できるし、募集要項やレジメを手づくりすれば、印刷製本費を節約できます。

調査では、1学級の予算が10～15万円が一番多く、20万円以上が23%あります。担当者は10～15万円を「適当である」と考えており、10～15万円が学級運営の標準的な予算といえます。

2. 学級の母体の選定と折衝

学級生は、学級開設期間中、継続して固定メンバーです。学級生の選定については、効果的な学級編成ができるように配慮します。

学級の課題（明日の親のための学級、乳幼児学級、働く親のための学級等）によって学級の母体の選定は変わってきます。

(1) 明日の親のための学級

新婚・妊娠期のこれから親になる男女を対象として、家族と両親のあり方、子どもの心身の成長等についての家庭教育に関する学習の機会を提供することを目的としています。

この学級は、核家族化、少子家族化など家庭環境の変化に伴い、家族を持つこと、親になること等について学ぶ機会がないまま親になる者が増加していること、親になるための心がまえなどを学習するために開催します。

母体の選定としては、新婚・妊娠期のこれから親になる男女だけでなく、未婚の男女を対象としてもよく、働く男女が参加しやすいように配慮します。

特に保健所や青年サークル等と連携をとり、対象者には、十分広報します。

しかし、この学級は、地域によっては、新婚期、妊娠期にある夫婦という対象者そのものが数少ないことが考えられるので、参加募集にあたっては、広報活動を十分に行います。

ポスター、チラシの配布、広報誌の活用、関係施設・団体を利用しての呼びかけ等いろいろな方法を試みるようにします。

(2) 乳幼児学級

乳幼児期は、人間の生涯の始期であり、一生のうちで最も可塑性に富んでいる時期です。この時期の家庭教育は、その子の人間形成に大きな影響力を持つことになります。

乳幼児期における家庭教育の重要性を、乳幼児を持つ両親にPRするとともに、学級への参加をよびかけるようにします。

母体の選定としては、保育園や幼稚園、あるいは保健所等と連携をとれば、学級への参加者は多くなるでしょう。

特に、第一子を持つ親にとっては、育児の未経験や各家族の進行によって育児に対する不安や迷いも多く、学級のカリキュラムにも、育児の先輩との交流、親睦を是非とり入れたいものです。

乳幼児学級開設の際は、託児の配慮をしたり、開催時期についても配慮します。体調をくずしやすい乳幼児にあわせて、真夏や真冬の開設は避けるようにします。

(3) 働く親のための学級

最近では、働く女性が増加し、その中でも既婚者は、働く全女性の $\frac{2}{3}$ を占めています。働く親のための学級開設の際は、平日、昼間の時間帯を避け、対象者が参加しやすい時間帯を設定します。

母体の選定としては、働く女性が多い企業や機関等に広報し、参加者を募集するようにします。

(4) 一般的な学級

一般的な学級の母体の選定としては、子どもの発達段階（新一年生、低・中・高学年の児童を持つ親）、地域環境（団地、新興住宅、商店街等）等を考慮し、PTA、学校、公民館等とよく連携をとることにより、効果的な学級の選定が

できると思われます。

3 企画委員会

家庭教育学級の参加者の学習要求を把握し、ニーズに応えるためには、事前に、十分企画を検討する必要があります。

調査によると、学級開設前の企画者は、「上司や同僚と」が37.3%、「委員会組織で」が34%、「担当者ひとりで」が7.3%、となっています。

幅広い層からの意見や要望を企画に反映させるために、ぜひとも企画委員会を設置したいものです。

企画委員会は、学級を開設するまでに必要な諸準備をするものです。委員会は、家庭教育学級の学習主体でもないし、運営主体でもありません。学習内容や学級運営の具体的決定は、学習主体である学級生の意見や要望によって決定するようにします。

企画委員会を設置するにあたり、家庭教育学級の実施機関では、次のことを事前に検討しておく必要があります。

① 家庭教育学級開設要項の確認

② 校区の実情や過去の家庭教育学級などの評価をふまえて、本年度において重点的に努力してみたいことを検討しておく必要があります。

ア 対象の選定をどうするか

(ア) 子どもの発達段階別

(イ) 家庭教育の課題別（子どもとテレビ、子どもの性教育など）

(ウ) 地域環境別（団地、新興住宅、商店街など）

(エ) 家庭環境別（共働きの親、三世帯同居など）

イ 学習課題（内容）の編成をどうするか

(ア) 網羅的か

(イ) 系統的か・発展的か

ウ 学習形態をどうするか

(ア) 全体学習か

(イ) 個人学習の形態を導入するか

(ウ) 班別学習を導入するか

エ 学習方法をどうするか

(ア) 講義中心か

(イ) 話し合い学習中心か

(ウ) 視聴覚的方法の活用を導入するか

オ 学習会場をどうするか

(ア) 公民館か学校か

(イ) その他（公民館類似施設、保健所など）

(1) 企画委員会の役割

実施機関としては、企画委員会を設置する前に、アからオまでを検討しておきます。

昨年の調査では、企画するうえで、何に最も力点をおいているかという間に「学習内容」が96%、「学級運営組織」が40%、「募集の方法を効果的に」が27.3%、「学習教材の活用」が13.3%等となっています。

企画委員会の具体的な役割を次にあげてみます。

ア 「家庭教育学級開設要項」を確認する。

イ 家庭教育学級の努力目標を検討する。

ウ 対象の範囲を検討する。

エ 的節を募集人員を検討する。

オ 効果的な学習会場を検討する。

カ 年間学習計画案を作成・検討する。

キ 学級運営の組織と方法を検討する。

ク 募集の手段と方法を検討する。

ケ 開級式の内容とすすめ方を検討する。

コ 学習に必要な教具・教材の目安を検討する。

サ その他、企画委員会のまとめを行なう。

(2) 委員会の構成

昨年の調査によると、企画委員会の構成員はつぎのとおりです。関係団体等役員、41.2 %、公民館主事37.3%、社会教育主事29.4%、前年度学級生代表29.4%、教職員27.5%、町内会等代表15.7%、その他13.7%となっています。企画委員会の構成員としては、適当な選択と思われます。

企画委員会でどのような仕事をするかによって、それぞれの立場の代表者で

もって構成するように留意します。

ア 学習計画の方法などで協力してくれる人

イ 学級運営の方法などで協力してくれる人

ウ 学級生の募集方法などで協力してくれる人

エ その他

参考までにA市家庭教育学級開設のとき企画委員会のメンバーをあげてみます。

A市の企画委員会例

1 名 称 家庭教育学級「〇〇レディース・セミナー」

2 対象者 幼児や児童・生徒をお持ちのお母さん等

3 会 場 〇〇公民館（校区公民館）

4 企画委員会について

(1) 企画委員の構成 4名

① 公民館長 1人

② 学識経験者 2人

・保育園園長

・児童民生委員

③ 前年度運営委員（学級主事） 1人

(2) 企画委員会の経過について

① 第1回企画委員会 3月10日

・前年度の反省

開催日時、学習内容、学級生数等

② 第2回企画委員会 3月12日

・前年度の運営委員、学級委員との合同反省会

③ 第3回企画委員会 3月13日

・合同反省会のまとめと確認

・新年度学級開設案内と学級生の募集について

・運営委員の選出

④ 第4回企画委員会 3月16日

* 運営委員予定者（2名）を含めての合同会議

・新年度の学級開設について

運営委員・学級主事の決定、学級生募集の募集方法について

⑤ 第5回企画委員会 4月11日

- ・年間学習計画概要の検討
- ・参加者名簿、班編成づくり

⑥ 第6回企画委員会 4月18日

- *運営委員予定者（2名）を含めての合同会議
- ・年間学習計画作成
- ・運営組織、学級編成

⑦ 開級式 5月17日

4 学級編成

(1) 学習対象者の類別と規模

家庭教育は無意図的教育であるが、どの年代の子どもにも欠くことができないものです。その重要性から鑑み、どの家庭でも保護者は、教育実践については、意識しつつも、日々の生活の中では、継続性、一貫性に欠けていることを自覚している人は多いのです。

いうまでもなく、家庭は、子どもの人格形成や基本的生活習慣を培う場であり、そこでの教育は、子どもの人権尊重を基盤として、家庭の実情、子どもの発達に即して、一貫性を保持しつつ、臨機応変にきめ細かに実践されるものです。

例えば、人格形成に特に重要な乳幼児を持つ親の学級、心と身体のアンバランスで、精神的に不安定な思春期の子どもを持つ親の学級、これからの親になる男女を対象とした学級、特に留守がちな働く親を対象とした学級等々、各々の立場での子育ての知恵が実践レベルまで深まるためにも、類似条件を持つ人々に類別した家庭教育学級が展開されることが効果的です。

ところが県内における家庭教育学級の開設に当たっては、保健所、学校等の機関に委託して開催する方法が、調査によると、44.6%になっています。この学級開設方法をとると、人数確保は比較的容易ですが、保護者全員が対象となるため、学習内容が、家庭教育の一般論になりがちです。従って、小学生を高学年と低学年、保育園児を乳児と幼児を持つ親の学級に類別した開設が効果的であると考えます。

このように、主眼を類似条件を持つ親におくと、学級人数にはあまりこだわる

必要はないと考えますが、学習方法を多様化するためには、20人程度が適当と考えます。

(2) 他学習組織との連続性

青少年の問題は、重要な社会問題であります。青少年を健全に育成するには、家庭教育の充実が急務であることは、誰でもが認めているところです。従って、各機関、各団体が、家庭教育の重要性を謳った講演会を開催していますが、参加者や講演時間等の関係で、内容が一般論の問題指摘であったり、懐古的な正当論であったりする場合が多いようです。しかし、これら家庭教育講演会等に参加することによって、家庭教育の重要性と急務性を痛感した人々が、家庭教育学級生となれば、その成果も期待できると思います。

従って、家庭教育→講演会等の主催機関や団体と連携をとりながら、学級へ参加を促すという学習の連続性を持つことが効果的です。

(3) 会員制か任意性か

学級を開設する場合、主催者の大きな悩みの一つは人集めです。「一人でも多くの人に学習してもらいたい。」「少ないと講師に気の毒。」「参加者が多いほど、成功である。」等々で、学習毎に任意に人集めをする方法をとっているところがあります。しかし、家庭教育学級の目指すところは家庭の実情や子どもの発達段階に即応して、臨機応変な具体的実践方法を学ぶことであります。だから各学習毎に任意で学習するのでは、その効果も薄れがちです。会員制をとり、継続した学習をとることで、実践力も培われると思います。

5 学級生募集

(1) 広報媒体と範囲

学級生募集方法については、家庭教育学級の主催者領域により、媒体と範囲が決まってきます。市長村立中央公民館の主催する学級については、ポスター、市長村広報、回覧板、有線放送等が利用され、比較的広範囲の住民が対象となります。この場合は、内容や開催時間により、参加者に変動があります。また、学校、保育所に委託した学級については、主にチラシにより、幼児、児童、生徒に持ちかえらせる方法がとられることが多く、対象者の範囲は、保護者に限定されます。この場合は、PTAの会合や授業参観の後にセットで、家庭教育学級の学習が開催されることが多いので、人数確保は安定しています。

(2) 募集内容

募集方法に「お知らせ的なもの」「呼びかけ的なもの」の二通りがありますが、学級名、開催場所、開催月日だけでなく、学習目標、学習内容をも掲載したものが多くなりました。これも、対象者の自発的参加意欲による事務局への問い合わせが多いことが一因です。

市長村広報や放送等では、紙面や放送時間の関係で、簡単なお知らせになりますが、ポスターやチラシ等でくわしく知らせると、その効果も大きくなると思います。

(3) 参加・増進

家庭教育の重要性は、誰もが感じていると思いますが、自分の家庭の問題としてとらえていないか、それとも、どのように実践していいかわからないという人がいます。家庭教育学級生を増やすには、土壌として、人々が、家庭教育推進の責務を自覚する精神を培う営みが、大切です。例えば、家庭教育講演会や青少年健全育成の研修会等や、社会教育関係団体の講演会の参加を促し、家庭教育実践の意欲を喚起することが、学級参加者を増やすことになると思います。

6 開級式の進め方

参加する学級生にとって、最初の集まりである開級式は、その家庭教育学級の第一印象となり、今後の学習意欲に大きな影響を与えます。

したがって、受付、会場設営、開級式には、留意する必要があります。

例えば、

(1) 受付……学級生名簿を作成しておき、学習計画表や名札を配布する。

(2) 会場……参加人数によるが、できるだけお互いが対面して座れるように、席を配置する。

(3) 開級式

① 開会のあいさつ……………1分

② 簡単なレクリエーション……………5分

③ 主催者あいさつ……………10分

④ 家庭教育学級について……………10分

⑤ 自己紹介……………10分

⑥ 学習計画の説明……………20分

⑦ 閉会のあいさつ…………… 1 分

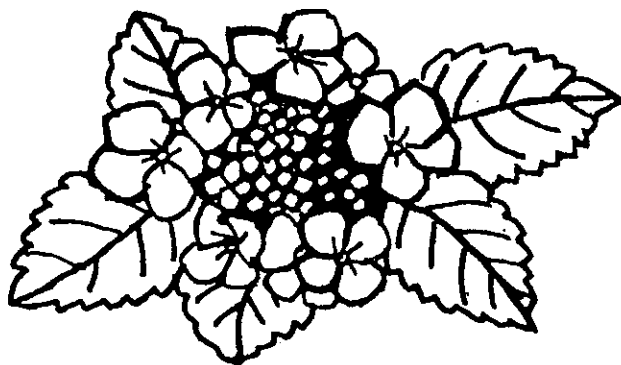
(4) 話し合い

① 学級自治会の編成……………20分

会長、副会長、班長、各係

② 学級計画の具体的検討……………30分

③ 次回学習の確認…………… 1 分



第4章 年間学習計画作成の手順と方法

1 学習計画の作成ポイント

(1) 学習課題の把握

① 現場の声の集め方

プログラムを立案する上において、一つには学習者が何を学びたいかをなるべく多くの学習者から引き出すこと、一方では子どもたちの実態を把握しておくことが大事です。学習要求調査では、なかなか本音が出てこないこともあるので、会議方式によってその場で学習者よりあますところなく自由に学習要求を発言してもらう方式。または、要求項目をカードなどに記入するという方式も必要になってきます。

地域の子どもたちを取り巻く実情については、家庭学級担当者は「学校関係者の話」（40.6%）、「各種の調査」（18%）、「自分の体験」（17%）から把握しています。

本来、社会教育計画を立案していくには、まず地域および住民に関する諸データの収集という作業が必要であることは言うまでもありません。しかしながら今回の調査では、学習課題把握のために、調査方法を利用しているのはわずか18%にしか過ぎないのは残念です。

そこで、住民の生活実態とそこから生起する生活課題、学習要求などを正確に把握するためにどのような調査が必要か、またその手順と技法についてふれてみます。

ア 調査設問項目として、次のようなものが考えられます。

- ㊦ 実態（地域の条件とその特徴はどのようなになっているか）
- ㊧ 認知（地域の実態についてどの程度知って考えているのか、または知らないで考えているか）
- ㊨ 要望（何を求めているのか）
- ㊩ 活動（何を実践している）
- ㊪ 障害（それを阻んでいるのは何か）
- ㊫ 展開（それをどうのりこえようとしているか）

イ 調査方法には、次のようなものがあります。

ア 観察法

調査対象の行動や態度・発言などを見極めて、そこから読み取れる傾向などを調べる方法

イ 自由面接法

対象者と自由に話しあうことを通して、必要な調査内容を明らかにしようという方法

ウ 既存資料活用法

既にどこかが行った調査結果を、新たな目的のもとにさらに研究していくという方法

エ 調査票調査

前もって質問紙をつくり、反応を何らかの方法で得て、その結果を統計的に処理する方法

一般的に担当者が調査する場合には、調査票調査の方法を適用する機会が多いのではないのでしょうか。その調査票調査は、さらに自記式と他記式に別れ、また、記入に際しての場所・場面等の差によって

○面接法 ○郵送法 ○電話法 ○留置法 ○集合法

という五つに分けることができます。

この調査票調査についての長所・短所は、下記の表のようにまとめられます。何をどの程度まで調査するかという目的に応じて、使い分けしなければなりません。

		長 所	短 所			長 所	短 所
自記式	郵送調査	1. 経費と労力が節約できる 2. 広い地域に配布できる 3. 無記名にすることもできる 4. 割合、調査のかたよりが少ない	1. 本人が記入しているかどうか不明 2. 周囲の意見がはいりやすい 3. 調査項目に限界がある 4. 回収率が低い 5. 記入もれ、誤記がある	他記式	面接調査	1. 本人自身の回答であることがたしかめられる 2. 回収率が高い 3. 質問が複雑であっても相手に理解させられる 4. 応答の真偽もたしかめられる	1. 多数の面接員を必要とし、その確保、訓練、費用が容易でない 2. 調査員の個性の差によって応答が異なることがある 3. 勤務の条件や家庭の事情などによっては、面接できないことがある 4. 面接員の不正行為が起きることがある
	留置調査	1. 追求の労力が節約できる 2. 調査員は少数ですむ 3. 特殊な階層の人たちにも回答がもらえる 4. 回収率も比較的高い	1. 本人が記入しているかどうか不明 2. 周囲の意見がはいりやすい 3. 調査項目に限界がある 4. 記入もれ、誤記がある		電話調査	1. 簡単に迅速に調査できる 2. 費用が安くつく 3. 面積しにくい人もつかまえられる	1. 電話をもっている人に限られる 2. 簡単な質問にせざるをえない 3. 地方によっては不便、また高くつくこともある
	集合調査	1. こまかい説明が可能。したがって記入もれ、誤記が少ない。 2. 面接員が少なくすむ 3. 他人の意見がはいりにくい	1. 出席率はあまりよくない 2. 特別な事情がないと調査できない。つまりなかなか集まってもらえない。 3. 日当・交通費などを出す場合は費用がかなりかかる				

② 調査分析の利用の仕方

調査票による調査が終わりますと、集計・分析が行われ利用の仕方が検討されます。まず、膨大な資料の集計から始めなければなりません。その際に、相当の人手と日数を要する手集計による方法がありますが、予算があればコンピュータによる利用をすすめます。

ところで、集計には通常、単純集計とクロス集計があります。つまり各調査項目ごとにその回答数を合計したものが単純集計です。この集計からは、設問に対する分布が得られます。二つ以上の調査項目をかけ合わせて、その集計を行うものをクロス集計といいます。この集計からは、調査項目間の相関の有無と程度が分かります。なお、クロス集計を行う場合は、あらかじめ集計計画表をつくっておくことが大事です。

次に、集計結果を解釈する上で不可欠のことがあります。それは数字の細かい違いにこだわらないことです。例えば、成人男女に学習要求について調査をした結果、男子42%、女子45%であったとします。この数字の差を直ちに女性は学習志向が多いが男子にそれが少ないなどという解釈をすることは危険です。

この調査の結果を活用する際に心がけるべきことがあります。

ア どんな種類の調査・資料が得られたかをはっきりおさえることです。

イ 収集された調査資料が使えるかを確かめることです。

ウ 調査の結果、資料が不足することもあるので、他の機関で行った資料なども利用したいものです。

(2) 課題の発掘

① 重点・緊急度

学習は課題があり、それを解決していこうとするところにおこるものです。したがって、学習プログラムを編成する場合にはまずこの課題をつめておくことが必要です。この課題をはっきりさせるために前段では学習者の生活や意識の実態、学習要求についての調査の方法を述べてきたところです。

事業をする上において、学習者が何かを学びたいかを把握することが大事であるのは言うまでもありません。しかし、それだけでは十分ではありません。学習要求項目が、学習者のみの要求に偏らないことを考慮すると同時に、

他の学習者にも受け入れられものかどうかを検討したり、学識経験者や専門家に、学習者の生活実態・生活条件などに照らし学習課題として成立するかどうかを確かめ、現実的課題として早急に取り組む必要性があるかの判断などが必要となってきます。

② 独自性（地域性）

住民の学習要求を把握するためには、普段から住民との話し合いを行ってナマの声を聞くことが必要ですし、学級・講座の学習者を対象に学習の途中でアンケート等を実施し、データを収集しておくことです。また、市町村全体、あるいは特定の住民層（例えば青年・婦人・老人等）を対象とした学習要求調査を行うことも必要です。

地域社会の動向は、住民の学習要求や学習行動の背景をなす要因ですから、基本的なデータを収集し分析しておく必要があります。例えば、人口の動態については、性別人口、年令別人口、昼夜間人口、地区別にみた特性など、また産業構造の変化については、主な産業の動向の構造、性別・年令別の就業状況、産業の地域別特性などについて分析することが必要です。

これらのデータは、学級・講座を編成していく上において必要になってきます。例えば、

ア 住宅地、団地、商店街など地域別に編成する場合

イ 年令、立場、職業など階層別に編成する場合

ウ 「家庭生活」「子どものしつけと父親の役割」など課題別に編成する場合

などに使えます。

(3) 内容の配列順位への配慮

① 継続性を持たせる

取り上げることになった学習内容は多いでしょうから、次にそれをどういう順番で配列するかということが問題になってきます。

一つの方法は、できるだけ最初に学んだ学習内容が次の学習内容、さらに後にくる学習内容に有効に役立つという配列の仕方です。内容相互の関連性は、学習効果を高めるために大事です。

② 発展性を持たせるには

学習内容には、関連性のみならず発展性が必要です。つまり、最初は身近な課題について学習したことが生かされていくと同時に、最後の段階では学習のレベルが上がっているということです。

2 具体的な学習計画の作り方

(1) 学習主題（テーマ）

学級・講座等において、関連もない問題をただ漫然と並べていくという学習内容のとらえ方をしないで、様々な学習要求に応えながら、ひとつ中心になるテーマを掘り下げていくというプログラムの組み方が必要です。

例えば、「青年が現実の社会でぶつかる様々な問題」のうち、いま一番学びたいと思っていることは何だろうか。かりに、男女交際という問題が取り上げられたとします。それがまずきっかけになってそれに関連の深い問題、友人関係、さらには家庭との関係、地域における人間関係、政治の問題、経済の問題が取り上げられ、青年たち自身の所得、「青年と財布」などというテーマが取り上げられてくる。そのことに関連しながら、若者と仕事、仕事に関連づけながら若者の遊び、レジャーという問題が取り上げられる。最後には、「青年はどう生きるか」という生き方の問題に帰ってくる。そこで、ここでは「青年の生き方」とか「豊かな人間関係」が中心になってきます。

(2) 学習目標

学級・講座の学習目標というものは、あれもこれも欲張って並べたてたり、かなり抽象的になることがあります。学習目標が、曖昧な表現になれば学習項目もいぜんとして決定しにくいことになります。学習目標はまず具体性が求められます。具体的にするために、誰が何をどのように（5WH）という表現にすることです。例えば、「明るい家庭づくり」ということよりも、もっと具体的に「夫婦が協力していく家庭」「子どもが親を助けていく家庭」等、具体的活動なり、具体的行為を達成するような目標にしていくことが、大切なことです。

次に学習目標には、焦点化が必要です。20～30時間の学習活動の中で多くのものを学べるはずがないので、総花的に数多くの目標を並べたくなりますが、数少ない目標を中心的にうちだしていく勇気が大事です。

また、学習目標にぜひ盛り込んで欲しいことはメリット性ということです。つまり、そこで学んだことが実際に学習者のどんな生活領域にどう役立つのか、どう寄与するのかをはっきり示すべきです。これは、何も趣味や生活技術の学習に限ったことではなく、教養的学習においても同じ事です。

更に、この学習目標は、学習者にとって到達可能なものと感じられることが大事です。学習活動の内容や学習展開を考えて、学習予定項目を学習した時点でどこまで学習者が成長しうるかを予測して学習目標を設定することです。学習目標を高度に設定することは慎むべきです。その程度のことなら自分も学べるという到達可能性が学習目標に存在すると学習者は親近さと学習意欲を持つようになります。

(3) 学習課題

学習者にとって、本音が出てくるような生活の中にある問題をつかみ、その解決を学習課題とすることが必要です。

このような学習者が要求する項目以外に、住民からの要求はないが学んで欲しい課題（必要課題）も工夫してプログラムの中に入れる必要があります。

学習課題の設定の時に、要求課題と必要課題をどう調整していくか、プログラム立案の中で最も工夫しなければならないところです。要求課題に取り組む前に、前段として学習しておくべき課題があるという場合も起こり得ます。そのときには、その予備的課題が必要課題になります。

(4) 学習内容

学習内容を選定する上において最も大事なことは、学習内容の量をなるべく少なくするという少量化の原則です。本来学習活動は、予定された時間よりも多くの時間を費やすものです。内容を企画する段階で、あれもできるこれもできるとつい欲張りがちになります。しかし、学習活動というものは、予定どろりに進むものではありません。限られた利用時間に余裕を持たせるために、学習内容を精選することが大事です。また、学習者が学習内容をいつも同じレベルで修得していくことは限らず、欠席する人もあります。そのため、予定どろりに学習内容を展開していきますと無理が生じるのは明らかです。あるいは、学習の途中で当初予定していなかった別の必要性のある学習課題にであうこともしばしばあり、その課題を学習する余裕も必要になってきます。その意味で

取り上げてくる学習内容の量を少なくしておく必要性があります。

(5) 学習方法

学習内容が決まれば次にどんな方法で学ぶかということです。多くの場合学習方法として、講義、話し合い、映画利用、実技・実習という学習方法のうち、二つを組み合わせる設定の仕方が見受けられます。例えば、講義を聞いて話し合う、映画を観て話し合うという方法です。

もっと多様な学習方法を立体的に採用した方が良いことは言うまでもありません。例えば、

- ・グループに分かれて共同研究をして結果を発表するという方法
- ・各家庭にビデオが普及している今日、テレビ番組をもっと積極的に取り入れる方法

などがあります。これは、テレビの放送時間と学習の時間が一致しなくても、後で録画を見て学習することが可能となったからです。

また、調査や学習資料をみんなで作成することも学習方法として大事です。若いお母さん達が、子どもの実態について学ぶとき、自分たちが住んでいる地域ではどうなのか、を調べるという学習の方法もありうるはずです。

調査は、家庭教育学級において必要なデータを収集していくためだけでなく、それ自身が一つの学習の方法でもあります。

このように、多角形に様々な学習方法を活用することができるようになれば、学習者が学習内容を理解し身体で覚えやすくなります。

(6) 学習資料（教材）

学習活動では、ややもすると講師の話だけを聞いてあやふやな学習をしてしまうケースがあります。やはり前もって学習者自身が、学習に必要な資料を作っておくことも大切なことです。ともすれば、公民館職員が学習資料を作り上げて、それをみんなが使っていくという受け身の学習資料の利用の仕方がありますが、本来は学習者自身が作成していくことが望ましいものです。そのためには、学習指導に当たる講師には指導要項を要求することも大事ですし、さらに学習者の方から事前に講師にあてて、自分たちが学んだことを項目化して連絡するような、積極的な学習活動の持ち方を企画しておくことも大事です。

その他の学習資料として、新聞記事、雑誌等の切り抜き、生活記録、日誌な

どがあります。これは、学習者の生活の中から生み出されたものだけに、学習資料としては身近な教材となります。

どんな資料（教材）を使用するかということは、その学習が成功するか否かにも影響してくるものです。

前述したように、学習者自身が資料を作成するのが学級運営上望ましい方法ですが、調査結果によると講師によるレジメ（100%）がトップとなっています。次に多いのが、視聴覚教材の利用（85.2%）です。

視聴覚教材（VTR）を利用する場合は、事前分析をしておく必要があります。例えば、その教材がいくつの場面から内容構成されているか、それぞれの所要時間はどうなっているか、それぞれの場面は何を訴えようとしていかなどについて、一人ひとりが「視聴メモ」に「読み取り」の結果を記入するなどしておくことが大事です。このように、VTR利用の場合は事前の研究が自由に行けるといえる特性もあります。

この資料（教材）の活用にあたっては、県視聴覚ライブラリーにおいて、16ミリフィルム、ビデオ教材、スライド教材、郷土学習教材、調査研究資料等多くの教材資料を保有しており、また他の機関（消防署、保健所等）でも教材を提供しているので、学習プログラムによってはこれらの資料も充分活用できるようになっています。

(7) 時間配分

学習者にとっては、一回の学習時間は2～3時間が参加しやすい時間のようです。そこで、例として視聴覚教材（テレビ）を使った学習における時間配分について考えてみます。

- | | | |
|----------------------|----------|-----|
| ① 机・椅子の配置、コーヒーの準備 | (会場係) | |
| VTRの事前点検、資料の配布 | (運営委員) | |
| ② 開会のことば | (司会者) | |
| ③ 本日の学習のすすめ方と視聴前の諸注意 | (職員) | 5分 |
| ④ VTR視聴 | (操作は司会者) | 30分 |
| ⑤ 視聴ノートの整理 | | 5分 |
| ⑥ 話し合い | (助言は職員) | 60分 |
| ⑦ 感想文 | (全員) | 5分 |

⑧ 次回の予告

(職員)

5分

⑨ 会場整理

(会場係)

一回の学習時間は、2時間となっていますが、事前点検と学級生が集まる前のレクリエーションおよび閉会行事の後の懇談を合計すると3時間となります。

年間学習計画例

(8) 講師・助言者

講師や助言者の活用の問題では、取り上げる学習内容とねらいに最もふさわしい人材を、多方面から活用するという姿勢が最も大事です。

家庭教育学級において活用されている学習方法は、やはり講義・講演が非常

テレビ学習会（年間学習計画表）

年間学習目標 ① 家庭教育に関する日常の問題点を出し合い、テレビ番組からヒントをえながら、正しい理解と解決方法を発見する能力を身につける。 ② テレビの正しい見方と日常生活の中で活用する能力と態度を身につける。 ③ 自主的な学級運営の体験を通してリーダーの能力を高め今後の成人教育の充実をはかる。 年間学習主題 「家庭教育の諸問題の考え方とテレビの生かし方」				
月 日	学習課題	学 習 内 容	学習方法	講師・助言者
5・30	1. 開講式と学級生会	① 主催者挨拶 ② 経過報告 ③ 年間学習計画案の検討 ④ 学級運営の方法の検討	話し合い	社会教育総合センター 社会教育主事
	2. 記念講演	① テレビ利用の意義と方法	講 演	
6・22	3. からだの心配	① 子供の体を知ろう	テレビ視聴 バズ討議 全体討議	保 健 婦
7・8	4. 自然と遊ぼう	① 自然のなかでの子供の育て方	〃	主任社会教育主事
8・3	5. 若い母親へのメッセージ	① 若いお母さんにおくることば	〃	小学校教諭
9・6	6. 家庭でのしつけ	① 子供の物の考え方	〃	北九州市社会教育委員
10・26	7. テレビ局見学	① 番組がどのように作られているか	見 学	福岡市RKBテレビ
11・14	8. 自信をもってお母さん	① 何事にも自信を持って子育てをしよう	〃	香月公民館長

に多く見受けられますので、講師の選択は学級運営上・大きなウェイトをしめているといえます。地域によっては、その講師活用を有名人中心で行う場合もありますが、有名人が必ずしも学習者に役立つ情報を提供してくれるとは言えないこともあります。したがって、講師・助言者の選定には、有名度や専門度にこだわることなく、学習者にとって適合した講演であるという観点を忘れずにしたいものです。

例えば、子どものしつけについての学習については、地域の中にいる育児のベテランのお母さんに、しつけの方法をおそわるということも大事なことです。

学習者の中には、同一地域の人材ではどうも講師・助言者として受け入れられないという場合もあります。その際、他の地域と情報を交えて相互に人材の交換を行って、その活用を図ってみることも大事です。

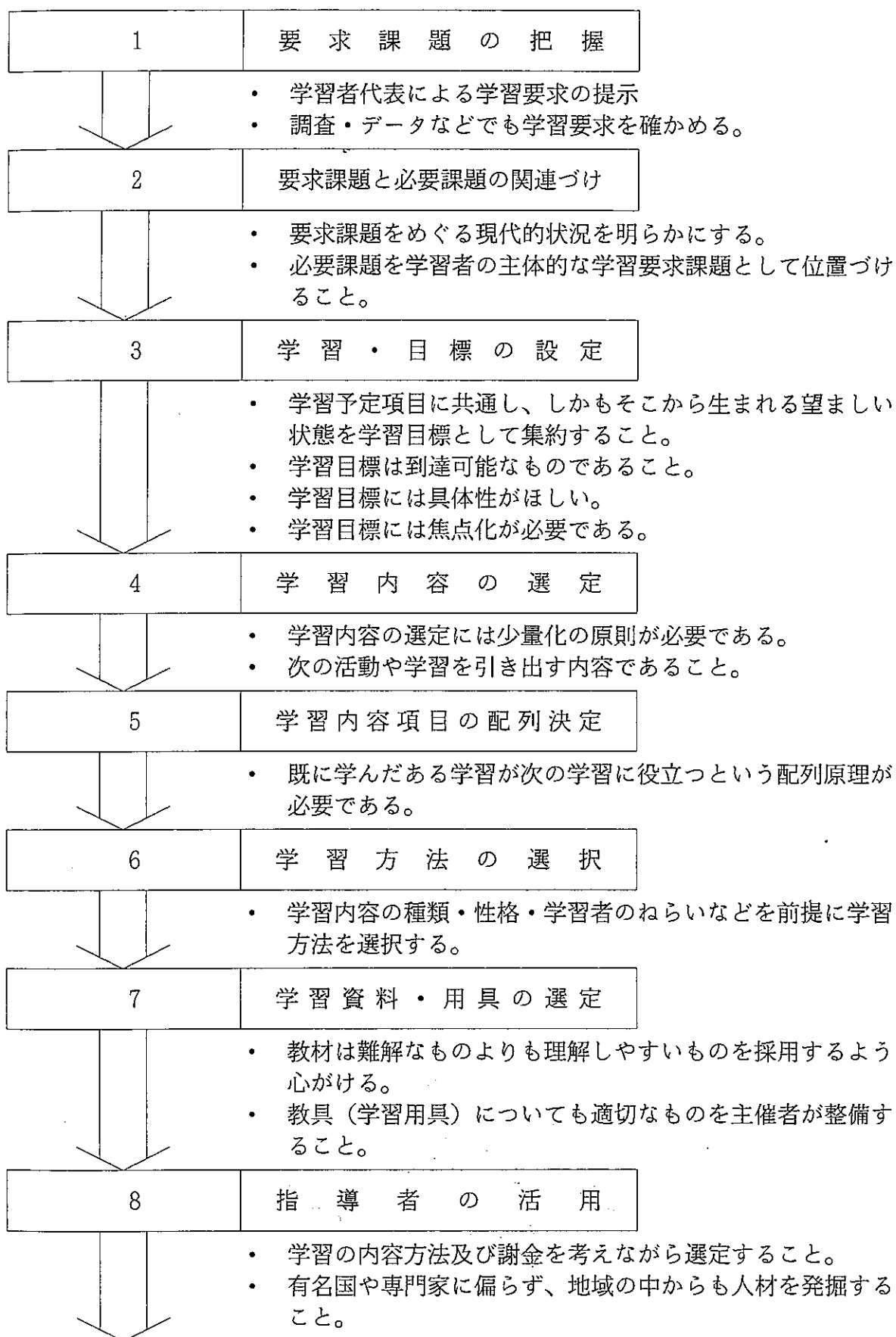
(9) 経費配分

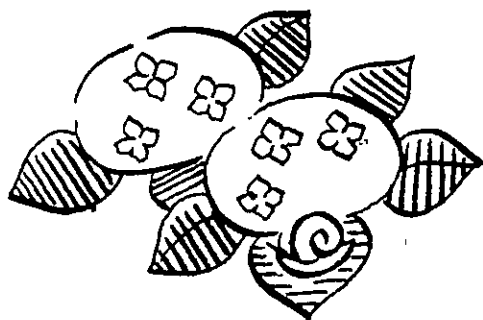
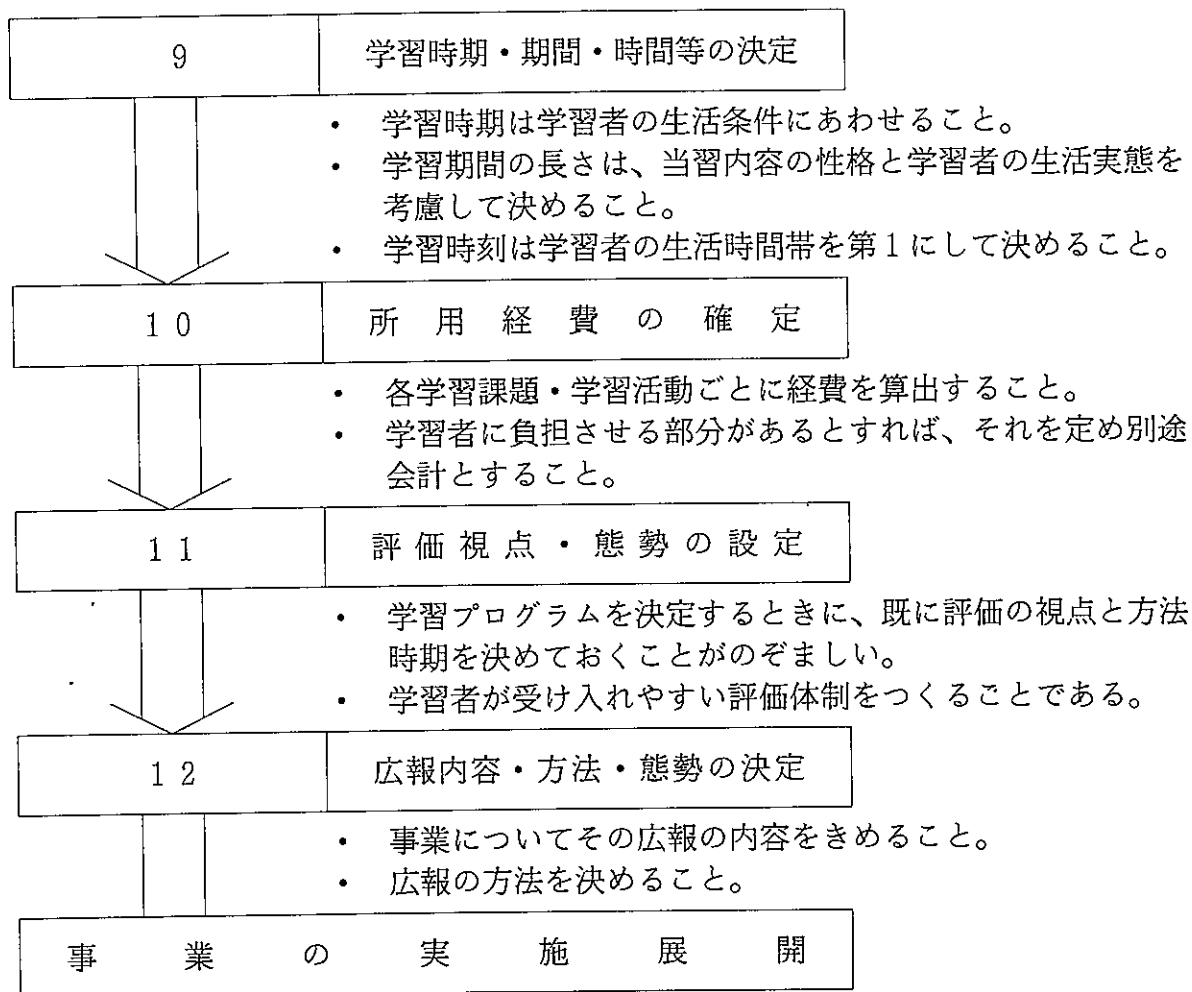
学習プログラムがどんなに優れたものとなっても、それを財政的に支える経費計画が劣っているのはダメになることがあります。各事業ごとの大体の予算は、毎回の学習活動・課題毎に経費（謝金・需要費等）を概算し、行政・施設職員の手でその確定をはかるようにすることが大事です。その上ではっきりとした予算として位置づけることが必要です。

なお、学習者に金銭負担をしてもらう場合も考えられますが、教材費とか親睦会費などに充て、学習者が自主管理できるようにすることが大切なことです。



年間学習計画作成の手順と方法を図示すると次のようになります。





年間学習計画参考例

(資料3)

家庭教育学級年間学習計画表

1 明日の親のための学級 [A村の事例]

- ① 対 象 者 ○○村に存在の新婚、妊娠期の人
- ② 募 集 人 員 40名
- ③ 学 習 場 所 ○○村中央公民館
- ④ 年間学習計画

学習のねらい これから親になる新婚及び妊娠期の婦人などを対象に、「妊娠・出産時の生活」「親としての心がまえ」「乳幼児期の心身の発達」等の基礎知識について学習する。

主 な 学 習 課 題	主な学習方法	講 師	時 間	会 場
妊娠期の生活と出産	講義、討議	産婦人科医院長	3 H	中央公民館
手づくりおやつと栄養について	講義、実習	町栄養士	3	中央公民館
子供の心の発達と親の心がまえ	講義、討議	保育園理事長	3	中央公民館
同和教育の必要性	映画フォーラム	元教育長	3	中央公民館
結婚とは	講義、討議	弁護士	3	中央公民館
乳幼児教育について	講義、討議	町保健婦	3	中央公民館
明るい家庭づくり 今日までの学習の反省	講義、討議	教育長	3	中央公民館

働く親のための学級 [C市の事例]

- ① 対 象 者 幼時、小学校低学年のお子さんを育てている両親や家族
 ② 募 集 人 員 60名
 ③ 学 習 場 所 ○○町公民館及び小学校
 ④ 年間学習計画

学習のねらい 働きつつ家庭教育に励む親の役割を認識し、明るく健康な家庭づくりに勤め、子どもの健全な育成をはかる。

主 な 学 習 課 題	主な学習方法	講 師	時 間	会 場
家庭教育と母親の役割	講義、討議	市教委指導主事	2 H	公 民 館
*みんなでフォークダンス ・社交ダンス	映 画 観 賞 実 技	レクリエーション 協会指導員	2	小 学 校
・家庭の電気について ～プラグの修理～ ・手芸教室(七宝焼その他)	講 義 実 技	電力会社職員	2	公 民 館
・親子レクリエーション ～健康体操～ *あなたの子そだて間違 っていませんか	講義、実技 映 画 観 賞	高校教師 運営委員	2	小 学 校
・親子クッキング教室 ～うどん作り～ *にんげんの詩	実 習 映 画 観 賞	製粉会社職員 運営委員	3	公 民 館
社会見学	施 設 見 学	運営委員	6	各施設その他
・子供の健康と食生活 *偏食	講義、討議 映 画 観 賞	小児科医院長 運営委員	2	公 民 館
・子供の健全育成について *善悪のけじめを育てる	講義、討議 映 画 観 賞	大学講師 運営委員	2	公 民 館
・心ゆたかな子供を育て るために *思いやりの心を育てる	講義、討議 映 画 観 賞	県教育センター 指導主事 運営委員	2	公 民 館

「参考文献」

- 社会教育指導者入門
 ○学習プログラム
 ○社会教育事業

第5章 学級運営

1 運営委員会

学級・講座においては、「学習をより主体的なものにするため学級・講座を学習者自身が自主的に運営する」ことは大事なことです。そしてこの中核となるのが運営委員会です。

(1) 運営委員会の仕事内容

ア. 運営委員会は家庭教育学級の運営に当たります。企画委員会がそのままスライドする場合があります。

イ. 運営委員会の仕事内容

(ア) 学習計画の再検討と修正、補足

企画委員会で計画された学習計画が学習者の要求や学習動向にマッチしているかどうかを再検討して必要ならば学習計画の修正、補足等を行います。このための会議は学習が始まる直前か、また学習者の意向がある場合には始まってすぐに開く様にします。

(イ) 班や諸系の活動の企画や、その活動のための援助

- 主体的学習の促進、学習者の仲間づくり、連帯感づくりのために班づくりをします。班には班長をおくようにします。班長会をつくります。班活動の企画や内容の相談を受け、助言等もします。
- 学習活動がスムーズに行われるために諸系をつくります。係にはレクリエーション、会場、広報、接待、出席、記録、評価、会計などが考えられます。それぞれの係には係長をおきます。係活動の企画や内容の助言をします。

(ウ) 実施機関との連携をはかる。

- 学習者の代表として教育委員会や公民館の担当者と連絡を取ります。その中で学習者の要望、学級運営の経費、会場の設備等について運営委員会で解決できないことを出して解決していきます。

(エ) 学級の諸記録の整備・保管

- 学級に必要な書類の整備・記録・保管をします。必要なものとしては、学級日誌、出席簿、学級生名簿、諸会議録、写真、新聞切り抜き、学習

記録等があります。

(オ) 学級の反省や評価、学級生の意向をまとめる。

- 学習の成果や運営についてアンケートをとりまとめます。
- 反省会等を開いて学級の反省や評価を行います。
- 次回の参考に供するために整理保存します。

(カ) 学習の準備と後始末

- 学習の教材・教具の準備および返却を完全にします。これについては講師、指導者との連絡を十分にとっておきます。
- 学習会場の内容に応じた設営をします。

(キ) その他、運営全般に関する諸問題の検討、処理

- 学級がスムーズに楽しく運営されるために常に問題把握をしておきます。

ウ. 運営委員会の開催の時期・時間

前述のような仕事を運営委員会で進めていくためには、いつ、どこで会議を開くかということになりますが、次のようにすればよいでしょう。

- 開催の時期
 - ① 学級の開級式前～委員の顔合わせ、役割分担
 - ② 学級がスタートしてすぐに～主に(ア)の仕事
 - ③ 学級の閉級式の前に～閉級式の進めかた、反省や評価について
 - ④ 閉級式の後～評価や反省、また次年度について
 - ⑤ 学級の途中でレクリエーションやその他行事のとき
 - ⑥ 学級の運営上必要な事項等がでてきた時

- 開催の時間・場所 内容が多いとき①②④の時などは運営委員会として時間も一定時間きめてとりますが、短時間にできる内容であれば、学級の開催日の学習の前後とかに学級の開催されている場所でとるような工夫をした方がいいでしょう。

(2) 運営委員会の構成

学級開設の諸準備は開設主体である教育委員会または準備委員会の任務ですが、学級生の主体的学習を期待し、民主的な運営を望むとともに学習効果を高

めるには学級運営（運営委員会の任務）についても学級生に参加してもらい自治的に進めることも大事なことです。

ア. 運営委員会の人数

学級規模や学習内容、回数等により10名程度から5名までぐらいが適当です。

イ. 運営委員会の役割分担

運営委員会の自治活動ができるように、運営委員長、副委員長、書記、会計等の役割分担をして全員が仕事ができるようにします。

ウ. 運営委員会の構成員

前述している理由から運営委員会の構成員については学級生の代表の参加が是非とも必要です。アンケートの結果でも構成員として学級生の代表が多く出ることが望まれていますし、学級生代表のみで構成することも考えられますが、現実的に運営委員会は企画委員会（準備委員会）がスライドしている場合もあり、ここでは、もう少し幅を広げて、関係団体の役員、公民館主事、社会教育主事等も含めて構成される方がベストでしょう。しかし自主運営、自主的な学習をめざす中で学級生の代表の比重が大きくなっていくことは大切なことです。

2 学習展開計画の作成と方法

(1) 学習課題と到達目標の設定

学習課題を設定するには、学級生が本当に学習したいもの、また学習しなければならないものを設定しなければなりません。

ア. 学習者の生活課題をつかみ～学習課題とする。

家庭教育の場合、学級生は身近なところで、即ち家庭内で地域でいろいろな問題に相對して悩みや心配が多い、また、どうしたらいいか等の方法や技術をわからないでいる。そこから出てくる学習課題が生活課題といえるものです。例えば「このごろ私と子どもの話の回数がへった」という生活の実態があればこれは私にとっての生活課題であり、何とか「話をふやしていきたい」ということ、そのためにはどうするかという学習課題が出てきます。そして、「子どもと話し合える母親になろう」という学習課題が設定されます。

イ. 学習目標から到達目標へ

「子ども達と話し合える母親になろう」とするためにはどんな学習がされなければならないかがきまってきます。これが学習目標です。

「子どもとの上手な話し方はどうするか」「子どもの気持ちを汲みとるにはどうするか」等の具体的な学習目標がでてきます。そして、この学習目標は学習を展開していく一回一回ごとのプログラムにくみこまれていきます。その学習の結果、この母親はどんなことを身につけて、子どもにどんな対応ができるようになるかというのが到達目標です。「子どもに積極的に話しかけていく態度が身についている」とか「子どもの話を、そらさないで最後まで聞くことができる」ということになってきます。これがうまくできるようになった時、即ち到達目標が達成でき学習課題が解決されたということになります。

ウ. 要求課題から必要課題へ

「子ども達と話し合える母親になろう」と学習目標を持った場合、ただ単に、子どもと母親との関係の中でのみの学習でなく、もっと地域や社会に目をむけていく必要ができてますし、そこに社会教育としての社会人として身につける学習目標ができてきます。ここから、この母親にも必要課題が学習の目標となってきます。そして、「地域の子ども達とどう接したらいいか」とか「現状の子どもの発達と心理を知ろう」等の学習をして「社会人として、地域の子どもに接することができる」「地域、子ども会の中で活動ができる」とかの到達目標が達成されてくると思います。

(2) 学習の形態

学習形態は、講義（いわゆるうけたまわり学習）を聞く、映画・テレビを見るだけにならないようにいろいろな形態を工夫することが大切です。学級生が主体的に活動できる実技、実習、調査、視察、討議等の種々の形態を活用する

書く 調べる	生活記録 視察・見学 調査	見る 確かめる 学習の効果
話す 聞く	討論会・シンポジウム パネル 座談会	共感・批判の 学習の効果
実習 実験	生産 趣味 レク 機械・器具 操作	体験する学習 としての効果
読む、見る 聞く	新聞・図書・放送教材 視聴覚教材・講義	知る・考える 学習の効果
作る、写す 描く	工作・ビデオ・写真 スライド ポスター	自分で作る 学習の効果

ことが効果的です。

学習の形態を種類とその効果を考えてみますと次のようになるでしょう。

このような多くの形態の中から、それぞれの特色、効果を考慮しながら組み合わせにより学習が活性化する様に努めることが大切です。特に、今後の学級での学習は「書く」「調べる」の方法や図書を「読む」物を「作る」などの能動的な学習を重視したいものです。

○ 組み合わせの例としていくつかをあげてみますと、

ア 講義と討論感想を書く。～聞いて知るだけでなく、それに共感したり、考えたり、感想を持ち、聞くという受動的なことから能動的学習となり、理解も深まります。

イ 視察とビデオ～スライドを作る。～視察で調べたことをビデオやスライドとして記録に残す。作る要素をプラスした中で仲間意識ができ、学習の楽しさもできてきます。また、これを報告や発表に利用できます。

(3) 講師・助言者等の選出と折衝

講師や助言者等の選出は学習の効果を上げるのに非常に重要なことです。講師や助言者をどの様に選択しているかという、多いのは学級担当者同士の交流の中から出てきた情報、いわゆる口コミに依存している場合が多いようです。しかし学習要求が非常に多く、多様になってきている時これには限界があります。また、市町村、教育委員会で「講師・指導者の情報カード」を作成し活用している例もあります。

また、情報化時代に入った現在「講師・助言者のデーターバンク」は市町村のみならず広く県単位の規模で整備されつつあり、活用も大切なこととなってきています。

学習者が、学習内容を深めるためには専門家である講師が必要ですし、学習する家庭の中で困難な問題に当面したり、進行が停滞した時など専門的な助言を行うのが助言者です。ただ、選定にあたっては講師・助言者の専門度は大切なことです。また別の面で学習者と一体感を生み出せるような人、身近な地域の人にも、人材の開発、活用ということで目を向けていくことも大切です。

次に、講師・助言者を依頼する仕方として留意することをあげますと

- ① 講師の専門分野等事前研究をする。講師のプロフィールも知っておく。
- ② 講師の所属する機関等への正しい手続きをおこなうようにする。
- ③ 学習主題、内容、日時、場所、参加対象者の実態、人数等についてできるだけ詳しく伝える、電話でもよい。
- ④ 学級がかかえている課題や、年間のテーマ、学習者の学習要求等も連絡しておく、それに対してのコメント等も文書か電話等でとっておく。
- ⑤ 学習方法や、学習資料、教材、教具等用意すべきもの、また講師へのレジメ作成等もできたら依頼しておく。
- ⑥ 学習時間＜講演時間等＞、助言の内容、学習する会場のようす、設備等も前もって知らせておく。
- ⑦ 会場までの経路、交通機関、所要時間、駐車場、また送迎についてもくわしくうち合わせておく。
- ⑧ 学習が終わった後、講師に対してお礼状を忘れない、学習の反応も含めて。
- ⑨ 講師の謝金については予算とあわせて～情報カード等の利用をする。

(4) 教材の利用

学習にどんな教材を利用するかは学習の理解の深まりと発展につながるものとして重要なものです。

それでは現在どんな教材が利用されているかを多い順にあげてみますと①講師によるレジメ ②フィルム教材 ③ビデオ教材 ④各種テキスト ⑤各種資料となっています。

フィルム、ビデオの視聴覚教材は今後とも大いに利用されなければなりませんが、全体的に学習者に与えられたもの「見る」「聞く」という受身のものが多い様です。

そこで、これからの学習の中で重要なことは、教材や資料を学級生自身が作成していくという視点です。例えば

- ①新聞・雑誌の切り抜き ②学級生の調査やアンケートの結果できた資料 ③視察や見学の報告物のまとめ ④生活記録や統計 ⑤自作のフィルム、ビデオ ⑥写真スライド等です。そしてこれらの自作の教材づくりは、学級生が個人で

するものではなくて、学級生が共同であることが大切です。それによって次のような効果も生まれてきます。

- ア. ひとりひとり個別に思っていた認識が共通的であることがわかる。
- イ. 共同で研究し製作することで内容の理解が深まり、仲間意識が芽ばえる。
- ウ. 学習に対して能動的、積極的な参加ができるようになる。

なお、自作教材のつくり方の例として①新聞・雑誌の切り抜きを例にとるとこのような手順となります。班で製作するとして

- ① 学習テーマを確認して、一定期間新聞・雑誌を読む。
- ② 学習テーマにかかわる内容の記事や文章を切り抜きまたはコピーする。
- ③ 学級の開催日にもちより、小テーマごとに分類し編集する。
- ④ テーマのもと見出し等をつけて印刷し教材とする。
- ⑤ 学習のふかまりを求めて再度、個人作業をすすめる

3. 学級の組織化

(1) 学級のまとまりの効果

学級のまとまりの効果として①学級生のまとまり ②目的意識の高揚 ③役割分担による参加意識 ④学習の楽しさ ⑤仲間との連帯などが考えられます。

ひとりひとり学習する意志があっても、ひとりでは実行できないことが現実問題として多いでしょう。しかし、多くの人と共に学習するということで刺激を受け楽しんで学習に参加する様になります。同時にその中で仲間意識も育っていくことになります。また、いままで無感心であった学習内容でも他の参加者や仲間の影響を受けて関心を持つ様にもなります。

一般に学級は集団学習の性格を持っていますので、その効果を生かすように工夫することが必要です。

次に集団学習の効果を挙げておきます。

- ア. 共通のテーマを持ち共同学習をする～相互理解と仲間意識が育つ。
- イ. テーマに身近な共通の生活問題をとりあげる～連帯感がより深まる。
- ウ. お互いの悩みや不安を共同学習で解法する～情緒的に安定する。
- エ. 学習する中で自己開発や自己発見をする～あらたな取り組みに積極的な姿勢ができる。
- オ. 共同で継続して学習することのおもしろさ、楽しさがわかる～その後の

学習の動機づけができる。

また、まとまりをつくるためにどうすればよいかをあげておきますと

ア. お互いをはやく知りあうこと～そのために名簿を作り住所、電話番号等も入れておくことも必要です。また、学級では名札をつくりつけておくことも大切です。

イ. 学習のプログラムの中にレクリエーションやパーティ等を入れたり、小旅行等も企画することも必要です。

ウ. グループ活動（班活動）も工夫するといと思います。時には学級の外に出た自由な活動も大切です。～映画を見るときか食事をするとか

エ. お互い同士の深いつながりを作るために、学習の場を家庭に持ちまわりにすること等も、人数とか学習の内容によってはできるといいます。

(2) 欠席者への対応

学級を運営していく中で、欠席者があったり、プログラムの中半で出席者が減少していくこともあります。このような場合には、まず、その原因を調べ善後策を早急に協議することは大切なことですが、まずは欠席者に対する対応が大切です。アンケートの結果では、この欠席者に対して「特に対応をしていない」ケースが多いようですがこれは改めなければなりません。

家庭教育では、出会い、ふれ合いが大切です。相互交流、相互評価のプロセスが重要ですし、また、学級、講座での学習の場合、その学習は継続した連続の学習ですので途中欠席すると学習が中断し学習者も孤立感を持つようになります。そこで、欠席者に対しては「学級生による連絡」「教材や資料を届ける」というフォローが是非とも必要です。

もちろん、一方では欠席の原因を①開設の時期、時間 ②欠席時の天候 ③他行事、催し物との重なり ④学習の場所 ⑤学習の内容や方法 ⑥学級の中での人間関係等多様な角度から検討することも必要です。

ただ、ここで気をつけておきたいことは、欠席者に対して欠席の原因を欠席者への対応でのべていますが「学級生による連絡」「教材や資料を届ける」時に調査しておく、また、欠席者に直接電話をしたり、次回出席した時に聞いたりはっきりとしておくことが必要でしょう。

なお、検討の仕方は欠席の原因の要素としての①～⑥と欠席者から知り得た

原因とを重ね合わせて運営委員会で検討するといいいでしょう。またその結果改善できるものはすぐに改善し、問題点として残るものは整理して次の学級運営に役立てるようにします。

(3) 人材の活用と育成

「だれでもが、その学習内容によって指導者になれる」これが社会教育の特色です。特に家庭教育学級では学級生のほとんどが実際にいま家庭教育にたずさわっているという現実から、家庭教育に対する何らかの思いや、考え方、また技術や実践・経験を持っているといえます。ここに家庭教育学級の人材活用のポイントがあります。

人材の活用と育成ということは、その人材を学級の内からということと、外からという2つの面があります。

まず、内からといえば、それは学級生の中からということになります。期待されることは、その学級の中に、学習のリーダーとなれる人、学習内容にかかわって助言や相談役になれる人、学級運営の中での諸活動に積極的にかかわり学級や班などのまとめ役になれる人がいるかということです。

家庭教育学級では、学級の自主的な運営、また、学級の自治的な活動をねらっているわけですから、学級の内この様な人達の活用と育成は大切です。すでに人材としての力量や資質をそなえている人もありますが、学級全体の向上をめざすとすれば、学級内からの多くの人材の育成が望まれます。とすれば、学級内の班活動、係活動、自主的学習等を活発にして、その中での経験と活動によっての人材の育成が大切でしょう。

次に外からの人材ですが、いま生涯学習の初期にあたる家庭教育にかかわる学習要求は強まってきています。ところがそれに応える「専門家」は少ないのが現実です。そこで身近な地域の中に人材はいないか、その視点にたつことが大切です。

身近にいていつでも指導・助言ができる人材がいらないか、その発掘・活用・育成が急務となってきています。

これについては、生涯学習のたかまりの中で、家庭教育学級のみならず、いろいろな学級が同様な考え方で人材を求めている、市町村でも、これらの人材バンクをつくる動きもさかんです、こことタイアップしていくといいいでしょう。

ただ、家庭教育についていえば、地域での家庭での教育力が低下したいま、臨教審答申の中で「新井戸端会議」とか「シルバー人材の活用」が提起されています、これは家庭教育の中に特別の専門家の必要を求めているのではなくて、もっと身近な人材の活用の視点であろうと思います。家庭教育学級の特性としてこれらのところの、こまかな人材のほりおこしも大切でしょう。

また、現在いちばん多く利用されているレジメについては、レジメの内容を講師と打ち合わせたり、学級の側で主体的に作成したりしてレジメの利用も工夫していきたいものです。

教材が変われば学習の方法も変わってきます。それに向けてのチャレンジが必要でしょう。

4 学習活動の評価

Plan-Do-See のマネージメントサイクルの重要な領域に評価があります。学級は実施しさえすればよいというものではなく、学習の成果が当初の学習目標にどの程度到達したかを評価しなければなりません。また、その評価の結果は整理・分析されて次年度へ活かすことが大切です。

(1) 評価の基準

① 評価の方法として

評価を「だれが、だれに対して行うか」という点から整理しますと

ア 学級生が主体となって自分達の学習活動を自己評価する場合

イ 指導者（講師・助言者）が中心となって、学級生や学級の主催者に対して評価をする場合

ウ 家庭教育学級を主催した者が学級生や指導者から評価してもらう場合、または自己評価する場合

などがあります。

② 評価はどんな時期や機会に行うのかといいますと、

ア 学級の一連の学習が終了した時に行う。

イ 学級の毎回の学習終了時に行う。

ウ 学級の開始時と終了時に行う。

できるだけ数多く行う方が望ましいとは思われますが学級の実態に合わせて実施してください。

③ どのような項目で評価をするかについては、現在実施されている学級で行なわれている評価票の例を次にあげておきます。

また、評価票を使用しなくてもアンケート、また感想文等による評価のしかたもあり、これをあわせて使用されてもいいでしょう。

例 1. 学級生が自己評価をする例

学習者の自己評価票

自己評価（話し合いのための）○をつけてください。

項 目	よくやった	普 通	余りやらなかった	全くやらなかった
1 自分の意見が述べられたか				
2 だれにもよく分かるように話せたか				
3 発言がテーマからはなれなかったか				
4 人の意見を静かに聞いたか				
5 人の意見が理解できたか				
6 感情にはしらなかったか				

学習者の自己評価票

氏名

評 価 項 目	1	2	3	感 想
講義の内容をどの程度理解できましたか				
グループの一人としてのあ				
進んで意見を述べた				
よく仲間の意見を聞いた				
グループの意見をまとめた				
仲間をはげました				
仲間の困難を助けた				

例 2. 主催者が学級生より評価をしてもらう例

学習評価票の典例 (1)

学級学習評価表	
氏 名	
各項目とも、一つ○をつけなさい。 意見のところは、具体的に書き入れてください。	
1 全17回の学習回数は	
(1) 多かった (2) 適当であった (3) 少ない	
意見 ()	
2 毎月10日間隔で学習したことは	
(1) 1回ごとに次の学習日をきめた方がよい	
(2) 事前にきまっていた方がよい	
(3) もう少し間隔をおく方がよい	
意見 ()	
3 会場は 会館で	
(1) よかった (2) 別の会場であればよい	
意見 ()	
4 学習主題と内容について	
(1) 全般に高度で分かりにくかった	
(2) 日常生活に関連があり、適当であった	
(3) 日常生活に関連が少なく、ものたりなかった	
意見 ()	
5 学習方法について	
(1) 講義中心でものたりなかった	
(2) いろいろの方法が考えられてよかった	
(3) 話し合い、発表などわずらわしかった	
意見 ()	
6 学習資料について	
(1) 適当であった (2) 少なかった	
7 講師・助言者について	
(1) 主題にあった講師が多かった	
(2) 少なかった	
意見 ()	
8 学級の組織、運営について	
(1) 参加申込み順の班編成は	
① 適当であった ② うまくなかった ③ 地域別にした方がよい(町内、地域)	
(2) 当番制で受付、準備、司会などをやったことは	
① よかった ② しなくてもよかった	
(3) 主催側からの連絡は	
① 適当であった ② 不十分であった	
9 学習、運営全体などについてのご意見をおきかせください。	
()	
10 学級に参加してのご感想をおきかせください。	
()	

④ 評価結果の利用

評価の結果は整理分析されなければならないが、その結果が学習を提供する側にとっては、提供する学習内容や方法、形態の軌道修正として役立つものになることです。

また、いま大切なことは社会教育の中では学級生も指導者も自分自身を自己評価することが、また、お互いを評価しあうことが大切です、主体的な学習づくりにこれを活かしていく必要があります。

(2) 反省と報告

学習活動の評価の結果、学習目標に到達していないことや、その他学級運営がうまくいかない等のことが出ています。このことについて、どうしてこうなったのか、また今後どうしていかなければならないかを話し合うのが反省です。

いつ反省をするかは①学習1回毎、②学級開催期間の中間に、③学級終了時に、④問題が起こった時が考えられますが学級の状態によって選択されます。

反省のしかたは、反省する項目を決めて、全員で話し合ったり、班や係で話し合うこともあります。また、学級生に対してのアンケートで行われることもあります。アンケートについては毎年同じものを繰り返して比較をしていくこともいいでしょう。

報告については、学んだ成果をレポートにしたり、図表、統計、写真、スライド、ビデオ、作文、感想文等にして発表することにより学習効果を自覚できるという意義があります。そのことにより学習した内容が再確認され次回の学習へ向けての学習の意欲が高まり効果は大きいと言えます。

報告の方法については、報告会を是非設定したいものです。

5. 閉級式の進め方

開級式は、これから学習がスタートするということで準備や計画、また、進め方等に十分な検討がなされますが、閉級式は、それにくらべて力をぬきがちになることがあります。しかし、閉級式は一定期間の学習をまとめ、その成果を確認しあったり、評価や反省をしたりして次年度へむけてのつながりや、学習の発展をみとめたり、集団で学習することにより培われた友情や連帯感を確認するためにも大切なものです。

○ 閉級式の内容と進め方の例

(1) 例A

ねらい ～ 学習のまとめをするとともに、
これからの学習のあり方を考える。

内 容 ～ ①開会のあいさつ ～ 学級生
②主催者あいさつ ～ 主催者
③学級生代表あいさつ
④学級生の感想発表 ～ 班代表
⑤指導者の講評
⑥記念講演 ～ 講 師
⑦閉会のあいさつ ～ 学級生

時 間 ～ 1時間半 ～ 2時間
※おわかれ会（親睦会）

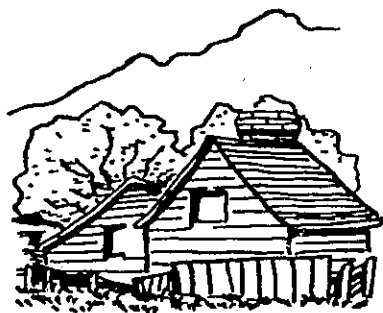
○ 今後に向けて ～ いままでの学習をふ
まえて、学級生が自主的に学習できるよ
うに、また連帯感をもちあげるように進
め方の工夫をする。

(2) 例B

ねらい ～ いままでの学習成果を出
し合い喜び合うとともに、
これから更に学習をふか
めていく動機づけをする。

内 容 ～ ①開会のあいさつ
②主催者あいさつ
③学級生代表のあいさつ
④学習成果の発表
※ 班代表でOHPや
スライドなど発表の
工夫をして、
⑤これからの決意発表
⑥指導者の講評、激励
⑦閉会のあいさつ
※親睦会

閉級式には、これといったパターンはありません。ねらいと今後の学習につな
がるものをはっきりさせて、また、一定期間の学習を終えた喜び、そしてその中から
生まれてきた連帯感を大事にして進めていくといいでしょう。情緒的なもりあがり
も大切ですので進行係等もナレーション的に、感動的なものになるような工夫が必
要です。



第6章 個別学習展開

年間プログラムに魅力を感じて入級しても、個別学習の内容が貧弱であったり、運営がまずいと、学習者はだんだん学習意欲をなくし、ついには、欠席するようになります。

個別学習は、年間プログラムにそって展開されますが、多くの場合、その単位時間における指導計画案がなく、年間プログラムに頼りすぎているようです。

担当者は個別学習をどのように展開するか、指導者（場合によっては学級代表）と相談し、予想される学習者の思考の流れにそった計画や準備をすることが大切です、つまり、個別学習の展開過程計画案が大切です。

1 学習展開過程の原型

1) はじめ

ア. 雰囲気づくり……（担当者、指導者又は学級の係がする）

簡単なレクリエーションをする。この場合だれでもできるものや、2～3回継続してできるものが望ましい（愛唱、ゲーム、ダンス、民舞）

イ. 本時学習のねらいをはっきりさせる。（調査）

学級生の学習課題に対する意識をある程度把握しながら学級生の意識化を図ることが目的ですから、調査用紙を配布して記入させるような方式はとらず、短時間で簡単にできる方法でします。

- ・学級生の感想発表（2,3名）
- ・前年度学級生の感想文発表
- ・指導の質問と挙手

2) なか（深める）

ア. 問題を出す

課題に対して、グループで話し合いをさせ2～3つに問題をまとめ発表させる。この場合、黒板に書いたり、模造紙に書いて発表させます。

イ. 知る

講和、視聴覚教材や視察、見学などを取り入れます。

ウ. 考える

講和や教材をもとに、もう一度、出された問題について、グループで話

し合わせ発表させます。

エ. 見つける

それまでに学習してきたことを基にグループや個人としての実践方法を話し合い発表させます。

※ この段階の展開過程は、このパターンにこだわることなく、学習形態に応じて組み合わせることが大切です。

○ 実技を中心として学習活動を展開する場合は①知る（一斉学習）→②考えて作る、（実技学習）の２段階にします。

○ 誘導発見学習を中心として学習活動を展開する場合は①問題を見つけ出す（個人発表）→②考えを見つけ出す（講師の発問、誘導）→③知る（講和、スライド等）

3) おわり

ア. 本時学習のまとめをする

まとめは、グループ発表のほか、質疑応答、話し合いなど学習内容や学習形態に応じて、バラエティーに富んだ方法を取り入れます。

メモの大切さを知ってもらうためにも「一口メモ」や簡単な感想文を書かせることが大切です。

イ. 発展学習

学習課題によっては、集合学習だけで終わらせるのではなく、家庭学習に発展させる場合もある。この場合具体的な学習方法まではっきりさせておくことが大切です。

ウ. 次回学習の確認

次回学習内容をはっきりさせるなかで講師（指導者）に対する要望をまとめたり、個人やグループとして準備するものを確認したりします。

教室の後始末は当番制にするより全員でする方がよいでしょう。

2 担当者の留意点

(1) 学級組織の活用

学級によっては、担当者が何から何まで世話をしているところがあります。学習者にとっては楽かもしれませんが、それでは本当の意味での学習は期待できません。担当者は「自ら学ぶ力」を育成するためにも組織を活性化させるこ

とが大切です。係は最低次のようなものが必要でしょう。

① 学習係

- ・運営方法や学習内容について班員の意見を集約し話し合う。
- ・教材・教具の準備をする。
- ・学習展開計画を小黒板や模造紙に書き掲示する。
- ・場合によっては講師の紹介や、司会進行をする。

② 生活係

- ・教室の清掃、机の配置、環境整理
- ・湯茶の準備、場合によっては昼食の世話

③ レクリエーション係

- ・レクの計画、準備、場合によっては指導

④ 記録係

- ・学習記録と整理

(2) 講師、指導者との打ち合わせ

講師、指導者に全面的に依頼することが多いようですが、最低次の事項について事前打ち合わせをすることが必要でしょう。

- ① 本時学習の位置づけを年間プログラムを示し説明する。
- ② 学級生の要望を文書で伝え、学習展開計画について話し合う。
- ③ 学級生の実態（構成員、・学級の雰囲気、・学習能力など）
- ④ レジメ、テキスト等教材の確認

※ 講師によっては準備されない場合があります。その場合は講師との話しを要約してレジメを作成することになります。

(3) 教材、教具の整備点検

- ① レジメ、教材、テキスト、資料
- ② 教具（TV、VTR、OHP、映写機）は点検整備し試しをします。

(4) 会場の整備

室内に机だけがある場では、学習意欲が湧いてきません。学習計画表やこれまでの学習の成果（作品など）を展示（提示）するようにし、学習の場らしくすることが大切です。学習形態にあった机の配列も大切です。

(5) 実践記録

次年度の計画の重要な資料になるように整理することが大切です。方法としては、例(1)のように分析的にするに越したことはありませんが、計画案に朱下記をし、学級生の感想文のコピーといっしょにしておけばよいでしょう。

3. 学習活動展開過程計画案例

例 1

1. 学習課題		「家庭における望ましいしつけ」		第1回目学習	
2. 講師		市社会教育主事 山田 正			
3. 学習活動の展開		(相互学習を中心とした展開)		進行＝学習係	
学 習 方 法			学 習 内 容 (ねらい)	配 時	教材・留意点
は ね じ ら め い	調 査	本時学習のねらい	◎ 入学されて考えさせられたものは何か	5分	新1年生の父母発表
			1 ヨーロッパの家庭生活を学習し、日本との違いを知る 2 どんなしつけが望ましいか考える	5分	VTRをみる 個人に発表させる
な か	問題を出す	グループでの話し合い (意見交換)	1 しつけについて、どんな悩みがあるか、子どもの生活の様子などについて話し合う。 2 話し合った内容を発表する(作表者)	10分 5分	発表者を事前に決める。 要点を用紙に書き黑板に
	知る	スライドを見ながら講話を聞く	3 ヨーロッパの家庭生活について、スライドを見・講話を聞く	30分	スライド 日本との違いに気をつけながら学習
	考える	グループ討議 全体討議	4 ヨーロッパの家庭生活についての感想を述べ合う。 5 どこを学び、取り入れていか話し合う。	20分	個人メモをさせる
	見つける		6 自分の家にあった望ましいしつけや我が子の性格を考え合わせ、明日からのしつけを考える		
お わ り	まとめ	グループ発表	1 グループ討議の結果の発表 2 講師助言 ・本時学習のまとめ ・明日からの実践	10分 20分	メモをとらせる
	次回予告	次回の学習予告 (日、時、内容)	◎ 子どもの成長 ・身体・知能の発達と遺伝・環境の関係	3分	

※ 学習はじめレク「線路は続くよ、どこまでも」全員で斉唱5分

1. 学習課題 学校における性教育 2. 講 師 ○○小学校保健主事 3. 場 所 視聴覚室 4. 学習活動の展開（映画を中心とした展開）				
学 習 方 法		学 習 内 容 (ねらい)	配 時	教材・留意点
は ね じ ら め い	調 査	◎ 昨年1月講座の性教育の学習結果の感想を聞く。	5分	昨年度に学習した事を思い出させる 必要か必要でないかのみを考えさせる。
		◎ 小学校で性教育が必要なのか考える。	5分	
		1 小学校における性教育の必要性について。 2 小学校における性教育の目標と領域。	2分	
な 知 る か	問 題 を 出 す	1 学校生活の中で友達との交際の中で性に対しての悩みや、我が子から質問されて困ったり、指導に困ったりした事はないか。	10分	新しい学級生に聞き、およそのことを把握する程度にする。
	講 話 質 疑 応 答	1 純潔教育と性教育について 2 小学校においても性教育は必要である。 3 小学校に性教育の目標と位置 4 計画的指導の必要性。 5 他の教科と違い、児童をよく観察し、そのつど適切な指導技術が必要である。	30分 10分	テキスト メモをとらせる。
	考 え る	6 映画を見ながら発達段階に応じた指導の仕方があることに気づく。 7 学校教育と家庭教育との関連を考える。	30分	映画 「子どもの性の疑問に答える」
	見 つ け る	8 まよわず、ごまかさずに子どもの発達段階に応じて指導する方法を話し合う。 9 学校と家庭との連携のとり方についても話し合いを深める。	30分	全員が必ず発言するようにさせる。
お と め わ り	ま と め	10 グループで話し合ったことを発表する ・ 学校教育と家庭教育の中で子どもが育つこと。	20分	発表者が固定しないようにする。 メモをとらせる。
	次 回 予 告	1 市内社会教育講座「夫婦愛と子ども」に参加する。 (日時・場所)	8分	案内状配布

※ 学習はじめレク「おきなわ・おどり」

1. 学習課題 「子どもの成長」 2. 講 師 粕屋保健所 所長 3. 場 所 粕屋保健所 4. 学習活動の展開（講話を中心とした展開）				
学 習 方 法		学 習 内 容 (ねらい)	配 時	教材・留意点
は じ め	調 査	◎ 男の子と女の子を育ててみて成長の違いに気づいたか。	5分	
	本時学習のねらい	◎ 最近子どもが変わってきたと思うことがあるか 1 男と女の身体発達の違いを知る 2 年齢によってどのように発達をたどるのか 3 素質・環境についてはどうか	8分	
な か	問題を出す	1 外、子どもを育てていく上で悩んでいること 2 具体的に知りたいと思っていること	5分	具体的に問題を出させる
	知る・考える	1 年齢が進むにしさがつて身体と知能はどのように発達するか 2 女の子より男の数の方が育てにくいと言われているが、本当か 3 素質（遺伝）はどうか 4 物的環境や人的環境によってどう育つのか	80分	メモをとりながら聞く 今までの家庭環境がどうだったか考えながら聞く
	見つける	5 講話について感想を述べ合う 6 親として今までの育児を反省し、今後得た知識をどう生かすか考える	25分	具体的な家践方法をはっきりさせる
お わ り	まとめ	1 更に知りたいこと 2 講話の中で疑問に思われること	10分	本時学習の感想文を書かせる
	次回予告	食物と栄養調理実習	2分	

※ 学習はじめレク「童謡＝雪」斉唱

レジメ例 (1) (講師との打ち合わせ時における話をもとに担当者が作成)

演 題 「子どもの健康と食生活」 講師 医学博士 山田 政行

1 健康とは

- ・WHOの健康の定義

2 健康問題の変遷と環境の変化

(1) 心の問題

- ・非行 (家出、万引等)
- ・自殺
- ・退学、登校拒否、学校ぎらい

(2) 身体の問題

- ・最近性感染症→ウィルス性・小児成人病の増加 (肥満、糖尿病等)
- ・フラフラ、グニャグニャ、ポキポキ、パターン

3 子どもの食事

(1) 宣伝は信用できるか (骨を食べて骨になる。海草にはカルシウム源)

(2) 牛乳はなぜ必要か……老人になると欠くことのできない食品

(3) 栄養素を考えて毎日の献立ができますか？栄養士でも家庭ではできない。

第7章 ま と め

家庭教育学級とは、学習内容については家庭教育を、学習形式上では一定期間、計画的、継続的、集団的に行う学級です。（第2章1節）。この定義付けが包括している具体的学習活動は多種多様なものであるはずです。学級の開設にあたっては、地域の実状に合わせて内容や形式の選択および開発といった多くの作業があります。その作業を進める上で、判断の尺度が必要になります。このまとめでは、家庭教育学級の単年度活動全体を視野に入れながら、企画・運営上の課題を解くためのポイントについて考えてみることにします。

1 家庭の学習

家庭の教育力は年々低下しており、その傾向は今後も進行していきそうです（第1章2節）。核家族化の傾向によって人間関係が縮小されたために、教育力という面のみならず、家庭そのものがもろくなっています。さらにその核家族の中心的人間関係である夫婦関係さえも、「自分の人生」という尺度によって律せられ始めました。このような意識の変化の中で、夫婦あるいは親子という関係は、主観的存在価値を持っていたものから、客観的な存在理由を問われるものに変質しようとしています。例えば夫婦はただ一緒に暮らしたいと思ひこむことで成り立っていたものから、夫婦でいることが自分にとってどのような利点と欠点をもたらすかというバランス感覚の上で成り立つものになりつつあるといわれています。親子関係についても「夫婦共稼ぎ子ども要らず（DINKS）」というライフスタイルが現れたように、自分の人生にとっての子どもの存在価値を問う姿勢が生まれています。これらの流れは、自分の人生にとって夫婦関係ないしは親子関係が必要不可欠なものであるかどうかについて吟味していることを意味します。もちろん依然として夫婦関係、親子関係は自然なものであるという意識が大勢を占めるでしょう。ただそれらの関係が本当に自然なものかという疑問が発生し、選択肢の一つにすぎないのではないかと考えられ始めています。

家庭の教育力を考える場合、これらの背景を無視することはできません。家庭あるいは家族というまとまったものを成り立たせている基盤を考えることから始めなければなりません（第1章1節）。「自分の人生」が単に寄り集まっただけでは家庭ではありません。家庭は自分たちの人生が営まれる所であるからです。また、

夫の役割、妻の役割、親の役割、子の役割、それらがまとまったとしても家庭にはなりません。家庭は家族の一員という同等の気持ちから派生する共同生活、相互扶助と相互依存がなされる所です。その共同性という面こそが家族のきずなの表象であり、家庭の教育力として子どもにとって必要な機能であるはずで、職場と家庭が分離したことよりも、家庭が役割分担という家族の分離にさらされていることが問われるべきことです。

地域を崩壊させた分業化の進展が家庭にまで侵入しています。家庭教育学級でのすべての学習は、共業化、集団化、社会化などの人と人とのつながりが生まれる方向を目指すべきです。

2 計画的学習

計画的という面はいくつかの座標を持っています（第4章2節）。

- (1) 健全な家庭であるために、家族の一員として担うべき相互役割を明らかにし、そのバランスを図り、全体としての柔軟なまとまりを学ぶこと。

（家庭生活は寝食を共にするだけのホテル生活とどう違うのか）

- (2) 子どもの発育に密着した適正な働きかけを実現するために、子どもの発達段階を学び、同時に子どもの実態を把握する技倆を獲得すること。

（養育にはどのような段取りがあるのか）

- (3) 地域の課題に有効に対処するために、実状の調査分析を進め、因果関係を見極め、的を射るような対応を選択すること。

（指導が後手にまわらないためには何をすべきか）

- (4) 学習の効果を期待するために、問題意識を喚起し、知識を選別し実践へつなぎ、評価でしめくくすること。

（学習成果がどの程度まで子どもに届いたか）

親は「自分の養育行動が現状のままで良いのだろうか」という漠然とした不安を持っています。学習によって「ここが間違っていた」という自覚ができれば、それは不安ではなくなり解決可能な課題に変わります。また、「特に問題はない」と自己評価することができれば、自信を持つことができます。親が自信を持つことが何より必要なことから、親が自己診断できるように、学習は、内容・方法ともに部分的ではなく全体的、網羅的であるべきです。そのような学習によって、今実践

しなければならない養育行動を選択することができます。計画的であるということは、あれもこれもしなければならないと親に思わせることではなくて、今なすべきことは何かという優先順位を明らかにすることなのです（第2章1節）。

3 継続的学習

学習が継続的であるために備えておくべき特色を挙げてみます。

- (1) 地域の子どもはいつも順送りになっていますから、学級は繰り返し開設されていること。また、去年の学級生は今年は次の段階に送り出されています（第3章4節）。
- (2) 人はいつも同じ状態ではありませんから、同じテーマを繰り返し学んでもその都度新しいポイントを把握しています。学級生の受け取り方の多様性に合致させられるように、学習の方法に変化を持たせること（第5章2節）。
- (3) 子どもは時代の中で生きていますから、家庭の教育力もそれなりの時代変化をこうむります。ただ、すっかり新規なものに一変できるものではありません。徐々にかえていくこしが賢明です。断念が生じないために、伝統を土台にした学習をすること。
- (4) 生涯学習という認識が深まるためには、地域でのさまざまな学習活動との連続性を図ること。家庭教育学級を生涯学習のスタートに位置づけることによって、学級での課題選択が楽になります。

子どもの年齢に応じた学級が開設されていることも、継続的な学習と言うことができます。子どもは日々育っているのに親は育っていないということになりますと、養育行動にズレができてしまいます。学び続けることが親にとっては大切なことですし、そのために継続的な学級の開設は欠かせないことです。

4 集団的学習

集団で学ぶということは、個人的な学習の効果に加えて幾つかの副産物をもたらしてくれます（第5章3節）。

- (1) 学習という行動は、楽しいものではないという先入観があるために長続きしません。集団で学ぶ場があれば、そのくじける気持ちを支えてくれます。いったん始めたらやりとげねばという覚悟が生まれたり、学級の楽しい雰囲気が学習につきまとう堅苦しさをときほぐしてくれます。

- (2) 親は子育てになんらかの悩みを持っています。孤立していると、「なぜ私だけが悩まなければならないのか」という思いにとらわれて、先に進めなくなってしまう。集団の中にいれば私だけが悩んでいるわけではないということに気づき、気持ちが楽になり前向きになれるはずです。
- (3) 子どもを見る目が独りよがりになっていきますと、養育に余裕がなくなります。子どもの行動について何が問題なのかという判断を親どうしの間でつきあわすことができれば、思いこみを修正するきっかけを把握することができます。
- (4) 学習集団は学習だけの集団から地域集団へと脱皮することが望めます。学級が学びの場から互いの子どもたちを育てあう仲間づくりの場に発展できれば、地域の教育力を復活する端緒になります（第2章2節）。
- (5) 集団にはいろいろな経験を持った人が集まります。お互いの経験を学び合うことによって、より実践可能なプラスアルファの学びをすることができます。

学習活動は講師と学級生という教える者と学ぶ者の縦の関係だけで成り立つ者ではありません。学ぶ者同士の横のつながりが大事です。さらに学級生が学習したことを地域の他の親たちに伝達することに努めれば、学級が地域にとってなくてはならない存在になります。これが家庭教育学級への最も効率の良いPRになります。学級が地域の集団として一人立ちできれば、その集団は地域の親たちを少しずつ巻き込んでいくはずです。

5 情報に支えられた学習

学級を運営する場合には、健全な家庭という目的を実現するためにどのような具体的目標が立てられているか、その学習形態は計画的、継続的、集団的になっているかを、常にチェックする必要があります（第4章2節）。もちろん単年度の学級であらゆる課題を学習し尽くすことはできませんから、より長期の視点から各年度の課題を選択しなければなりません。その唯一の方法は、運営担当者が地域の子どもの姿をしっかりと把握しておくことです。家庭教育学級は誰のためでもない、地域の子どものために開設されるべきものだからです。具体的には子どもたちに関するあらゆる情報をデーターとし、地域毎の変化と経年度化に目を向けることです（第4章1節）。子ども同士を比較することによって、子どもがどう変化しているかが見えてきます。子どもが今どういう状態であるのかという情報より、どう

変わりつつあるのかという情報の方が良質なものです。さらに大人の目で子どもの姿を評価するのではなく、子どもたち自身の変化を評価の対象とすべきです。一般に事業とは統計データに基づくことが必須の要件です。家庭教育学級も例外ではありません。その気になって収集すれば、色々な調査結果が得られますから、自前のデータとの比較はそれほど困難ではないはずです。

運営とは、「情報の処理」と言うことができます。学習課題探しのための情報を始めとして、講師情報、発育情報、経験情報、社会情報、評価情報など、あらゆる学級活動の場面に必要な情報の収集と処理が運営の基本となります。情報をいつでも使える形に整理しておくことが、運営の最大のコツです（第5章4節）。

企画委員会や運営委員会がうまく機能するかどうかは、まず、どれだけの情報が委員会に集められたかという点に依存します。次はそれらの情報がどれほど上手に整理されたかが成果の尺度になります。委員会の討議とは情報を整理する作業に他なりません。例えば、会議の案内状に議題を予告する意味は、一つは議題に関する情報を持ち寄る要請、もう一つは情報を整理する紐（考え）を準備してくる要請なのです。会議を効率の良いものにするためには、一般的に会議の招集者が情報をバランス良く準備しなければなりません。人を集めるだけでは会議（委員会）は成り立ちません（第3章3節、第5章1節）。

6 学級外活動

家庭教育学級の活動を充実するためには、学級の外部との円滑な連携も欠くことができません。

- (1) 学級間の連絡会のような情報交換ネットワークが、今後の学級活動の展開にとってはぜひとも必要です。講師情報、教材情報、独自のアンケート調査などを持ち寄れば大きな財産が得られます。各学級が輪番制で事務局を担当し提案をしていく可能性をつくり出すことが求められます。
- (2) 講師との接渉の場合、事前の諸連絡はかなりなされていますが、事後は十分とはいえないようです。例えばお礼状でさえほとんど出されていないようですし、具体的な感想の報告、録音テープをまとめた場合の構成依頼は全く行われていません。良い講師を育てる上でもフォローは有効です。講師に限らず外部の方の接渉は、きちんと後始末を心がけたいものです（第5章2節）。
- (3) 地域内の各種団体の動向を把握しながら学習を進めることも大切です。同一

課題を共通に設定したり、共同の学習の場を設けたり、あるいは学習の相互乗入れを図ることなども考えることができます。企画の段階では特に地域の学習組織であるという前提を自覚し、その実現に有効な委員構成を意図する必要があります（第3章3節）。

学級という組織体が生きているためには、外界とのつながりが不可欠です。学級の運営担当者にとっては、そのつながりを保つことも任務の一つです。ともすれば運営という学級内部の作業だけに没頭しがちですが、そのような状態が続きますと学級は漂い始めます。ですから航海士のような役割を忘れてはなりません。近隣の学級の様子、社会を動かす意識の変容、生活様式の変質、子どもの問題行動の特徴、地域の人口動態などを勘察し、学級の進むべき指針を明確にしておかなければなりません。そのためにはまず人脈を作って話を聴くことです。次にはその聴いた話を委員なり学級生に語ることです。言葉に表現しようという行為が人の話を自分のものにする方法です。これは学級生の学習方法についても言えることです。

7. 自主学級をめざして

運営担当者のねがいは家庭教育学級が自主的に運営されることです。その実現のためにはいくつかの条件があります。

- (1) 学級生が運営について習熟すること。そのためには担当者は運営全般にわたって学級生に関わらせる。
- (2) 学級生が学習の課題を把握すること。そのためには担当者は企画上の情報を学級生に提供する。
- (3) 学級生が学習の過程を熟知すること。そのためには担当者は学習の準備を学級生に任せる。
- (4) 学級生が学習の効果を実感すること。そのためには担当者は生活実践を学級生に課す。

県下には自主的に運営されている家庭教育学級が少なくありません。やればできることは実証されています。すべての学級で自主学級を目標として学級運営を身につける学習もおろそかにはできません。担当者にすれば自分で処理した方が楽な場合が多いでしょう。しかし、学級生を育てるためにすこし回り道になりますが、な

るべく任せるように心がけることです。家庭教育学級が生涯学習の入口であることを考えますと、ここで自主的な学びの仕方を獲得するか否かは、学級生の住む地域の学習レベルにも大きく影響してきます。いいかえれば、学級は地域のリーダーを育てる場でもあるのです。

学級生はいつまでも学習サービスを享受することに甘えていては、学習の深まりが望めません。自主学級と言いますと大変なことに思えるかもしれませんが、それは皆んなが誰かに自分の仕事をおまかせしようとしてしまうからです。学級生全員が自分にできそうなことに挑戦する勇気を示すだけで可能になります。運営担当者は学級生のヤル気をそぐことなく、上手にカバーする心くばりが望まれます。学級生を気長に見守って、少しずつ、一人ずつ自主的な学級生を育てて下さい。その学級生がまとめ役になり、学級は自主的なものに成長していきます。

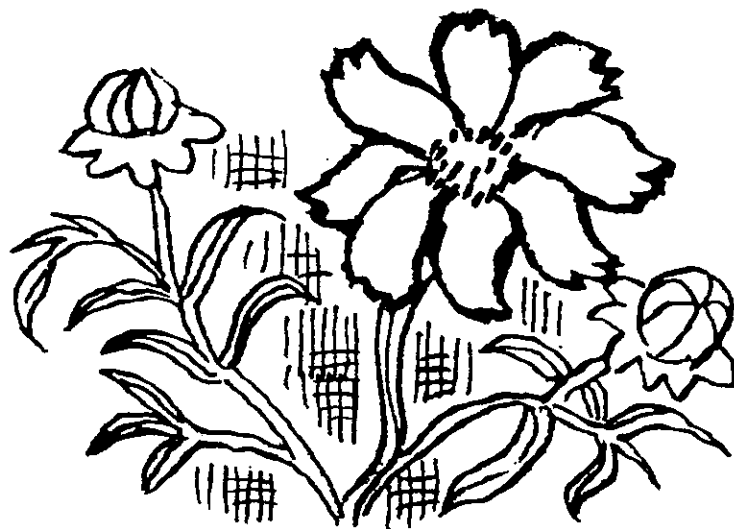
8 むすび

家庭教育学級の事業としての企画・運営に当たっては、考えなければならない細かなことが沢山あります。初めて担当した場合には、あまりに多くの処理しなければならないことを前にして、どこからどのように手をつけたら良いのか分からなくなるかもしれません。経験者に指導を仰ごうとしても、順序立てた説明を聞くいとまありません。一方で経験を積んだ場合には、経験と実績に頼りすぎてこれで良いと思いこんでしまった所があるかもしれません。学級の開設から終了までの全体の流れを概観できるような資料が待たれていました。その要素に応えるために、この手引書では企画・運営に関する基本的な作業ポイントを、具体的な例とともに提示してあります。現場ではこのままの形で使えるものばかりとはいかないでしょうが、何をどういう工合に処理していけば良いのかという作業手順を示しているものと読み取って下さい。具体的に試行錯誤で実践していくうちに、学級毎に形がかたまってくるはずです。それが学級の特色となります。個々の作業の度に生まれてくる書類の綴り、そこに書き留められている情報の蓄積、それが学級独自の手引書になります。記録とは保管すべきものですが、その目的は常に使用することにあることを忘れてはなりません。さらに前年度の記録に踏襲しようとする際には、もう一度この手引書と比べてもらえたら、新しい何かを学級の運営に導入するヒントが得られるでしょう。

学級の企画・運営を誰もが関われるように整備することが、自主運営の第一歩で

す。担当者の頭の中にある運営のコツを誰にでも利用できるような形にしてください。

この手引書から多くの素晴らしい手引書が生まれることを、委員一同心から祈っております。



資 料

(資料1)	家庭教育学級の開設および運営について	63
(資料2)	明日の親のための学級開設・運営資料(抄)	66
(資料3)	集団学習奨励費の運用について	71
(資料4)	家庭教育に関する視聴覚教材一覧	73
	・16mm映画教材一覧	
	・ビデオ教材一覧	
(資料5)	家庭教育関係資料一覧	105
(資料6)	平成2年度家庭教育総合推進事業の概要	106

(資料 1)

家庭教育学級の開設および運営について

(昭和46. 11. 15日・文社婦第172 号
各都道府県教育委員会教育長あて社会教育局長通知)

先般、「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」の社会教育審議会の答申があり、そのなかで、従来の家庭教育学級のあり方に関して、義務教育就学年齢層の子どもに関する学習が主となっており、乳幼児の家庭教育に対する配慮が不足していたことが指摘されました。

また、従来、家庭教育学級の運営にあたって、その講師・助言者等の役割を果たす教員の勤務時間について論議がありましたが、このたび、「国立及び公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」(昭和四十六年法律第七七号)および関連規定の制定公布に伴い、事態を明らかにする必要が生じました。

よって、この際、家庭教育学級の開設および運営等に関し、小職の見解を下記のとおり述べますので、管下市町村に対する指導にあたって参考にしてください。

記

1 社会教育行政と家庭教育との関係について

(1) 家庭教育とは親またはこれに準ずる者(以下親等という。)が子に対して行なう教育であれが、家庭教育に関する親等の学習の重要性にかんがみ、社会教育行政においては、これを成人教育の一環として扱い、国または地方公共団体は親等の家庭教育に関する学習を促進するための条件整備を行なうものであること。

(2) 家庭教育学級の定義

この通知において「家庭教育学級」とは、親等が家庭教育に関する学習を、一定期間にわたって、計画的、継続的かつ集団的に行なう事業をいうこと。

2 家庭教育学級の開設・運営について

(1) 開設・運営の組織

ア 家庭教育学級を市町村教育委員会が開設・運営するにあたっては、個々の学級ごとに、または、全学級を通じて、その開設・運営を円滑にするために必要な組織を設けること。

イ 当該組織は、家庭教育学級に参加する者の代表者、学識経験者、教育委員

会関係者などで構成されること。

- ウ 当該組織は、参加者の学習要求と地域の実情とを考慮して、家庭教育学級の運営、学習課題の設定、学習内容の選択、学習時間数の配当等について協議すること。

(2) 学習内容

家庭教育学級において、当面、重視すべきおもな学習内容として、次の各事項が考えられること。（社会教育審議会答申「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」第一部の三、第二部の一、中央教育審議会答申「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」第一編第一章の二等参照）

ア 乳幼児期

親と子のふれ合いを通じて、情緒の安定をもたらせ、基礎的な生活習慣をしつけ、自然や生物を愛護する心をつちかい、遊びを通して対人関係における自制力や危険から身を守る能力を身につけさせること。

イ 少年期

親と子のふれ合いを通じて、子どもの心身の発達に即して、ものの感じ方・考え方の基本を育成し、遊びを通して自立性や協調性をつちかい、健康・安全についての能力を身につけさせること、とくに、この期においては、学校教育や社会教育との関連のなかで、子どもの進路、適性、男女の交際、地域における集団活動等に配慮すること。

ウ 青年期

親と子のふれ合いを通じて、客観的に自己をみつめる力、敬けんの念、節度ある行動、生活と勤労に対する真剣な態度を身につけさせること。とくに、子どもが成人として独立するために必要な知識・技術を習得させること。

なお、乳児の家庭教育についての学習は、婚前期、新婚期、妊娠期などから準備的に行なわれるよう配慮すること。

(3) 学習方法

- ア 家庭教育学級における学習の方法としては、講演・講義よりも参加者の積極的な参加意識を重視し、参加者相互間の討議等に力点をおくこと。

- イ 放送媒体や録音教材等を活用して、学習情報を豊富にすること。

(4) その他の留意事項

市町村教育委員会は、下記に留意すること。

- ア 乳幼児をもつ親を対象とする家庭教育学級を開設する際には、あわせて託児について配慮すること。
- イ 家庭教育に関する親等の学習意欲を喚起するため、啓発、広報活動を行うこと。
- ウ 家庭教育について、参加者の学習要求や地域の実態をはあくするため、調査を実施すること。
- エ 学習資料を作成配布すること。
- オ 家庭教育学級の運営にあたる指導者を確保すること。

3 教員の勤務時間と家庭教育学級との関係について

従来、家庭教育学級の運営に際して、それが小学校および中学校の校舎内で行われることが多かったことから、家庭教育学級の業務に従事する教員の勤務関係に明確を欠く点があったが、「国立及び公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」（昭和四十六年法律第七七号）および「教育職員に対し時間外勤務を命ずる場合に関する規定」（昭和四十六年文部省訓令第二八号）の制定公布にともない、等外勤務関係を明らかにする必要性が生じたので、こんど、家庭教育学級の事業に従事する教員の業務は、その公務遂行に属するものではなく、一個人としての学識経験者が社会教育の事業に従事しているものであることを理解し、教員を家庭教育学級の講師・助言者等として委嘱する場合は、原則として、勤務時間外に、かつ、相当の謝金を用意して行なうようにすること。

4 PTA等が行う家庭教育学級について

家庭教育に関する学習活動がさらに活発に行われるようにするため、市町村教育委員会は、PTA等が家庭教育学級を実施することについても配慮することが望まれること。

(資料2)

明日の親のための学級開設・運営資料(抄)

(昭和56. 4月文部省社会教育局婦人教育課)

第1章 「明日の親のための学級」の意義

1 趣旨

新婚・妊娠期のこれから親になる男女を対象として、家族と両親の在り方、子供の心身の成長等についての家庭教育に関する学習の機会を提供するものである。

2 「明日の親のための学級」の重要性

① 家庭環境の変化(核家族化、少子家族化等)

現代の家族は、都市化が進行する中で核家族化の増加、出生児数の減少など家庭環境に変化が生じている。核家族化により、育児や子供のしつけについて育児書等による情報は得られるものの、親や近親者、近隣の人びとから、家庭を持つこと、親になること等について学ぶ機会が少なくなっている。また、少子家族化により、親になる人自信が少ない兄弟姉妹関係の中で育ったため、親の子育ての姿を見たり自ら乳幼児に接した経験を十分にもっていない。こうした家庭環境の変化に対処し、新婚・妊娠期のこれから親になる男女に、新たに具体的・実践的な学習の機会を準備することが必要である。

② 乳幼児期の家庭教育の重要性

乳幼児期は人格形成の基礎が定まる重要な時期といわれており、子供の教育に果たす親の役割はきわめて大きい。乳幼児期の家庭教育は、親になる前から準備的に子供についての知識・技術・態度に関する学習をすることが望ましく、このことは、乳幼児学級の学級生の中にも親になる前からの学習が効果的であるという意見もあり、これから親になる男女の学習を社会教育活動の側面から充実する必要がある。

③ 学習の適時性

新婚・妊娠期のこれから親になる男女にとって、この時期は、人生計画、家庭設計、生涯を通じての人間の発達等家族をつくり親になることについての基本的な学習を身につけるよい機会であり、新婚・妊娠期のこれから親になる男女に対して家庭教育に関する学習の機会が地域において準備されることは望ましい。

④ 答申等による学習の必要性の指摘

文部省社会教育審議会答申（「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」昭和46年6月）における『乳児教育についての親の学習は、子どもが生まれる前に、婚前期、新婚期あるいは妊娠期などから、準備的に行われることが望ましい。』という指摘や、最近においても都道府県の各種委員会等の答申、意見の中で、新たな家庭教育施策を推進する上で新婚・妊娠期のこれから親になる男女のための学習機会を準備する必要があることが指摘されている。

第2章 学習計画の立案について

1 基本的な考え方

「明日の親のための学級」は、市町村が開設する家庭教育の事業であり、開設市町村が地域の実態、参加者の実情を十分勘案し、参加者、開設場所、学習時間、学習内容・方法、広報啓発等に創意工夫をこらし学習計画を立案するものである。

学級の企画・実施に当たっては、留意事項として次の点が挙げられる。

- ① 参加者は、主として新婚・妊娠期のこれから親になる者とするが、地域の実情に応じては未婚の男女を参加者とすることもさしつかえないこと。
- ② 男性及び働く婦人が参加しやすいよう工夫をすること。例えば、夜間または休日に学級を開設したり、男女が共に参加できる学習内容をとりあげる配慮をすること。
- ③ 学習内容については、親になる前に学習しておくことが効果的と考えられる基本的な事柄に焦点を合わせて編成すること。
- ④ 学習方法については、乳幼児をもつ親を対象とした家庭教育学級の参加者や育児経験の豊富な親との交流、相談など実践的な学習が行われるよう配慮すること。また講義に片寄ることなく見学、実習など学習内容に適した方法を用い学習効果を高めること。
- ⑤ 広報活動を十分に行うため、参加者の実態を把握するとともに、ポスター、チラシ等の配布、広報紙の活用、関係施設・団体を利用した呼びかけ等多様な方法を創意工夫すること。
- ⑥ 事業の実施に当たっては、母子保健、児童福祉等関連行政機関との連携に配慮

すること。

なお、学級の開設・運営については、従来の家庭教育学級開設・運営上の留意点を十分にふまえるとともに、「家庭教育学級の開設および運営について」（昭和46年社会教育局長通知）「乳幼児期における家庭教育の振興方策について」（昭和49年社会教育審議会建議）、を参照すること。

2 想定される学習課題

次に掲げる学習課題は、これから親になる男女が家庭教育について学習する事項を想定し、学習計画の立案を行う際の参考資料としてとりまとめたものであり、便宜、「家族」「両親」「子供」「社会環境」の四領域に区別し例示した。

これらの学習課題を学習プログラムとして編成する際は①これから親になる男女にとって有効な学習となるよう、プログラム編成上の視点を明確にし学習課題を多角的・系統的に検討すること②学習課題については、抽象的な表現を避け、学習内容が理解できる適切かつ具体的な表現とすること等に留意すること。

家族—現代の家族—

家族とは何か

家族の機能 子育ての場としての家庭 結婚 家庭観の形成 社会の基礎集団としての家族 親族関係 他の家族との関係 家族関係の法律（結婚・夫婦・親子）

現代社会と家族

核家族化 少子家族化 人口の高齢化と家族 家庭と地域社会 近隣とのつきあい 三世代家族

家族のライフスタイルと生活設計

家族の発達段階と発達課題 家族計画と生活設計 生活設計の実際 経済生活の設計と子育て 住居の計画

職業生活と家庭生活

職業生活と子育て 共働きの生活設計 働く母親の育児計画 余暇活動と子育て 職業生活と余暇活動

家族の人間関係

夫婦の関係 親子関係 兄弟姉妹関係 祖父母との関係 夫の人生・妻の人生 一人っ子・二人っ子

家庭内のコミュニケーション

夫婦のコミュニケーション 親子のコミュニケーション 話し合いの方法

両親－親の在り方－

親とは何か

親になることの意味 親としての自覚 親としての成熟・安定 父親の役割・
母親の役割 母性・父性 親の育児態度 育児情報の選択 親の学習の必要性
親の対人関係

親子関係

子供の発達段階と親子関係 親子のふれあい 親の過保護と過干渉 親の人生・
子供の人生 親の子離れ・子の親離れ 日本の母子関係・父子関係

子育て

子供観 子供の成長のための環境づくり 母親の孤立化と育児 子育てと両親
の協力 乳幼児に対する家族の接し方 子供の見方・導き方 母乳とスキンシッ
プ 集団保育と子育て

妊娠・出産の基礎知識

受胎のしくみ 胎児の環境としての母体 母性保護 妊娠・出産時における家庭
環境・夫の協力 食品・薬品・嗜好品等の胎児への影響 胎教の意味 生命の誕
生・尊さ

子供－子供の心身の成長－

家庭教育

家庭の教育機能 家庭の雰囲気と子供の性格 諸外国における家庭教育

子供観

子供観の変遷 これからの子供観 現代社会の子供 男の子 女の子

子供の心身の発達

胎児期・乳幼児期の子供の発達 子供の能力・体力の発達 学び方の発達 知
的な発達 自我の発達 発達の個人差と個性 発達課題 子供と遊び 子供の発
達と成功・失敗経験 欲求の充足と抑制 子供の病理現象 子供と仲間

基本的生活習慣の形成

基本的生活習慣のしつけ ほめることの効用 叱ることと怒ることの違い

社会環境—子供をめぐる社会環境—

子供をめぐる社会環境の変化

子供の成長と社会の変動 マスコミと子供の生活 テレビ視聴 遊び場 住宅
と子供の成長

子供の人間関係

仲間集団の意味 同輩集団と異年齢集団 遊び仲間 団体活動への参加

集団保育と子供の成長

集団保育と親の養育態度 共働きと保育所 共同保育 子育てと地域の連帯

子供の社会参加

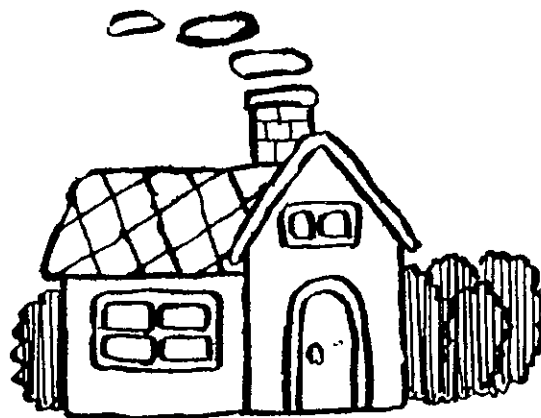
ボランティア活動 子供が参加する地域活動

学校教育と家庭

今の学校教育 学校と家庭との連携

子育てのための社会資源の利用

施設の利用 相談・学習機会の活用 テレビ・ラジオの利用 マス・メディアの
利用 親のグループづくり



(資料3)

集団学習奨励費の運用について

1 家庭教育学級の企画、実施に当たっては、次の点に留意すること。

ア 「家庭教育学級の開設および運営について」（昭和46年11月15日付け文社婦第172号社会教育局長通知）を参照すること。

イ 「現代の家庭教育－乳幼児編－」（昭和59年11月文部省作成）、「同一小学校低・中学年期編－」（昭和62年2月文部省作成）を参照すること。また、これらの資料が学級の中で親達のグループ討議の参考資料教材として幅広く活用されるよう努めること。

ウ 近年、青少年の問題行動、非行などが社会的問題となっており、それら多くの問題を抱える思春期に焦点を当てた家庭教育学級（思春期セミナー）の開設に配慮すること。

実施に当たっては、セミナー、グループ相談等を積極的に取り入れ、また、「現代の家庭－小学校高学年・中学校期編－」（平成元年3月文部省作成予定）の活用を図ること。

エ 乳幼児期をもつ親を対象にした家庭教育学級にあつては、特に、「乳幼児期における家庭教育の振興方策について」（昭和49年6月24日社会教育審議建議及び同附資料）を参照すること。

また、参加者のための託児について配慮すること。

オ 明日の親を対象とした家庭教育学級にあつては、特に、次のことに留意すること。

（ア）参加者は、主として新婚・妊娠期のこれから親になる者とするが、地域の実情に応じては未婚の男女を参加者とするのもさしつかえないこと。

（イ）男性及び働く婦人が参加しやすいよう工夫をすること。例えば、夜間または休日に学級を開設したり、男女が共に参加できる学習内容をとりあげる等配慮すること。

（ウ）学習内容については、親になる前に学習しておくことが効果的と考えられる基本的な事項に焦点化して編成すること。

（エ）学習方法については、乳幼児学級の参加者や育児経験の豊富な親との交流、

相談など実践的な学習が行われるよう配慮すること。

(オ) 広報活動を十分に行うため、対象者の実態を把握するとともに、ポスター・チラシ等の配布、広報紙の活用、関係施設・団体を利用した呼びかけ等多様な方法を創意工夫すること。

(カ) 事業の実施に当たっては、母子健康、児童福祉等関連行政機関との連携に配慮すること。

(キ) 「明日の親のための学級開設・運営資料」（昭和56年4月文部省作成）を参照すること。

カ 働く親を是对象とした家庭教育学級にあつては、特に次のことに留意すること。

(ア) 参加者は、就労する親とすること。

(イ) 働く父親、母親が参加しやすいよう工夫をすること。例えば、夜間、休日または土曜日の午後に学級を開設したり、開設場所として、地域の公民館、学校のほか、通勤者の集まりやすい場所（ターミナル駅周辺、企業内施設等）等の配慮をすること。

(ウ) 学習内容については、働く親が子育てと職業を両立するに当たって修得しておくべき子供の成長発達に関する基礎的知識や親の配慮事項等に焦点化して編成すること。

(エ) 学習方法については、講義に片寄ることなく、演習、実習、討議グループカウンセリング、親子フォーラムなどの実践的な学習が行われるよう配慮すること。なお、学習を補完するため、通信による指導についても配慮すること。

(オ) 事業の実施に当たっては、働く親が親子の触れ合いを積極的に図り、学習内容を深めることができるよう、親子の交流を深める地域等の活動の紹介や家庭教育の学習教材等に関する情報提供を行い、参加者の自主的な学習活動の奨励に努めること。

(カ) (オ) の場合にあつては、各参加者の学習活動の成果をもとにしたグループ討議や発表の機会を設けるなど、適宜、成果が学級に反映されるよう配慮すること。

(資料4)

家庭教育に関する視聴覚教材一覧

幼児教育に関するもの

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
4460 ス キ ン シ ッ プ	赤ちゃんは、母親との肌のふれあい（スキンシップ）によって愛情を交流しあい、そこに安定した心がつくられていく。子どもの健全な成長に大きな影響をもつ乳児期におけるスキンシップの必要性を訴える。	30分	成人
4826 幼 児 の 生 活	1才児から6才児までの幼児の生活を主として、その遊びを中心に観察する。その遊びを通して彼等の興味や欲求を理解し、その運動機能、言語活動、社会性などを見守る。	21分 カラー	成人
4922 わる くな ったと いう けれど	日常生活において自然のままの行動を追いながら、3才ごろまでの幼児前期とよばれる子どもの、表面的な行動よりもその奥にかくれている自我の芽ばえ、幼い心の成長について考えなければならない点をとらえた作品である。	19分 カラー	成人
50108 幼 児 期 の 運 動 と 体 力 づ く り	幼児期の運動では、どれだけ出来るかでなく体の発達に伴い、行動能力を伸ばしてやるのが大切であり、また運動方法はトレーニングでなく、遊びを通して行うところに特徴がある。幼児期の成長と体の発達及び運動面からの遊びを科学的にとらえている。	21分 カラー	青年 成人
5114 あ そ び 友 だ ち	人間形成の一分野である社会性をやしなう基礎は幼児期の遊びである。遊びを通して、仲間意識のめばえが生じ、自己や意識がやしなわれてくると云う事を訴えている。	30分 カラー	成人
5248 母 と 子 の む し 歯 予 防 教 室	乳歯期の大切さ、幼児の虫歯の原因は何か。その予防はどうしたらよいかという事を中心に描き、丈夫な歯を持った子供に育てる正しい育児のあり方を示唆する。	24分 カラー	成人
5273 手 作 り 遊 び と 子 供 の 手	今日の子どもの手の問題は、遊びや家庭生活、子どもの心の発達と関係することを解説し、また、教育保育の場で、手作りを積極的に取り入れている姿をも紹介する映画である。	25分 カラー	成人
5287 幼 児 の 手	生まれて間もない赤ちゃんから、4ヶ月、6ヶ月、1才児、園児と、成長と手の働きの違いを追いながら、手の働きは、子どもの成長と大きなかわりを持っていることを描いている。	25分 カラー	成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5306 学級集団の成長 ーある教師の 保育日誌からー	行動に積極性をもつ1人の幼児を中心としたグループは、いつも独自の行動をとり他のグループと協調性をもたなかったが、教師のアイデアで次第に他のグループの遊びに加わり、クラス全体が協力し合い、遊びを作りあげていく姿を克明にとらえている。	21分 カラー	青年
5435 光った水とろうよ	幼児の知的好奇心を日常生活の中にマイクとカメラでさぐってみた記録映画である。	21分 カラー	成人
5530 子育ての中での 基礎体力づくり(1)	基礎体力が急激に発達する4～5才児を中心にとりあげ、その時期における子供の運動能力を示しながら、子どもの体力づくりに対する親のあり方について示唆している。	20分 カラー	成人
5628 心をひらく	障害をもつ幼児を、幼稚園がどのように受け入れ、どのように保育をすすめればよいかについては、未だ不十分な経験しかない。現実の保育の中で、障害をもつ子どもと保育者、そして子ども同士の関係、保育のあり方についてはこれから多種多様な経験を積み重ねていく必要がある。現実の保育の中に、どんな問題点があるかを率直に提示して、問題をきりひらくきっかけになる作品である。	21分 カラー	成人
5724 みどりぐみ こ・う・じ・げ・ん・ば	みどりぐみの子供たちの、砂場を街でみた工事現場にみたてて、色々な工夫を凝らし協力し合いながら積極的に活動する様子をとらえ、幼児期における自己充実のための芽を育てていくための、指導や環境づくりの大切さについて説明している。	21分 カラー	青年 成人
5779 善悪のけじめを 育てる	幼児たちが過ちを犯したとき、過ちを過ちだと悟られるのが親の務めである。それを実行している親と、欠落している親とを対比させながら、その影響が子供たちにどのように現われているかを様々なケースを通して描き、幼児期に善悪のけじめをつけさせる教育がいかに重要かを考えさせる。	31分 カラー	成人
5828 子どもは うったえている	幼稚園で、目的もなく遊んでいる子どもの姿と、それと正反対に同じ子どもがいきいきとしている姿の二つの面をとらえ、その違いは何か、それに対し保育者としてどのように対処すべきか、子どもの成長に何が大切かについて考えさせる。	21分 カラー	青年 成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5876 親 にな る っ て	赤ちゃんの特性について説明し、育児に対する母親の望ましいあり方、夫の理解と協力の大切さについてとらえるとともに、孤立しがちな若い母親への近隣の人たちの協力の大切さなどについて描いている。	30分 カラー	青年 成人
58118 母 親 の 役 割 を 考 え る	近年、人間社会においては、育児の問題や、母子関係のあり方などが大きな問題となっている。この映画は、ニホンザルの子育て、特に学民から乳ばなれ迄の子育てに的をしぼり母親や仲間の役割を自然観察と実験とを通して考え、人間社会への問題提起をしている。	30分 カラー	成人
5919 み る ・ き く ・ た し か め る	顔をかくし登園する1人の園児が、時間の経過とともに次第に自分の世界を創りだしていく様子をとらえ、保育者として好ましい指導のあり方とは何かについて考えさせている。	20分 カラー	成人
5950 幼 い 心 を 育 て る	接し方によっては思春期の問題行動の原因となる大事な第一反抗期。母親は頭では分かっている、わが子の突然の変りように不安をいだき、過干渉、甘やかしになりがちである。親子の絆を強めたある母親の経験に基づいて、この時期の親の役割を示唆する。	30分 カラー	成人
6038 母 と 子 の き ず な	母親の胎内における赤ちゃんの成長過程、出産後の様子、赤ちゃんのもつすばらしい能力などを、科学的裏付けのもとにとらえながら、母と子の間に結ばれたきずなのもつ大切さについて考えさせる作品である。	27分 カラー	成人
6139 育 ち 盛 り に そ な え て	子供の体力づくりの大切さやその方法を、遊びの中での体力づくりを実施している幼稚園、はだかやはだして鍛えている保育園、雨の中で鍛える小学校などの事例を背景に説明している。	28分 カラー	成人

青少年教育に関するもの

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
4523 わたしの おじいちゃん	全国児童作文コンクールにおいて文部大臣賞を受賞したものを映画化したもので、老人と孫とのほのぼのとした愛の物語を、紀伊半島の漁村を舞台に描いている。おじいさんと孫娘の交情をとらえながら、祖父母に対する愛情のかたちについて深く考えさせる。	30分 カラー	小学校
4531 おかあさんが 泣いている	ある3人の子どもの母親がそのときどきの感情次第で小学5年生である次男に接して行く場面を描き、本当のしつけの効果は親と子が心から信じ合ったときはじめて効果が現われる事を子どもの心の起伏を通じて示唆している。	30分 カラー	成人
4657 ぼくのおかあさん	そそっかし屋であわてんぼ、勉強やしつけに全く無頓着だが子供の成長のために身も私も捧げる母親、そういう母親には時折り強く反発しながらも母親のもつ優しさときびしさの中に愛情と信頼をよせていく小学生の子どもたち。この一家が織りなす心温まる物語をユーモラスに描いて少年少女に親子の愛情を考えさせる。	33分 カラー	少年 成人
4711 ぼくの大事件	当校をずる休みした少年トーマスのぐうぜんの善行がまきおこす大事件、君ならどうする。道徳生活指導に適した作品である。	50分 カラー	小学校
4877 女の子の躰け方	男女同権の呼び声の中で、ややもすれば女性の特性についての配慮がうすれがちである。男の子と女の子には肉体的にも精神的にも大きな違いがあるから、そのしつけ方もおのずから異なるのが当然である。女の子の躰け方を考えさせる。	30分 カラー	青年 成人
48104 ぼくは知らない	ある日少年が川でおぼれそうになった。しかも、一緒に行った友だち三人は逃げ帰ったという。ショックを受けた受持ちの先生は親たちに集まってもらい、いろいろ話し合った。	30分 カラー	少年 青年 成人
4416 ものいわぬ対話	家庭における真の親子の対話とは単に形式的なものではなく、たとえ言葉を交えなくとも、お互いの心の中にかよいあう信頼感を基礎としたものである。父の姿をみつめる一中学生の心を通じてこの問題を描き訴える。	30分 モノクロ	青年 成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
4471 母 と 息 子 の 対 話	陸上競技部員としてはげむ一中学生とその学校に勤めている母親とのスポーツを媒体とし対話のあり方、母と息子の人生に対する考えについて描いたもの。母親の子どもに対する口だけの要求する姿を反省させるとともに、対話のあるべき姿について考えさせる作品である。	29分 モノクロ	青年 成人
4934 う わ さ	あらぬ「うわさ」をたてられたために、その一生に消しがたい烙印を押された一少年の物語を通じて、心ない「うわさ」の恐ろしさを強く暗示している物語である。	30分 カラー	小学校
4946 親 の 知 ら な い 世 界	子どもから大人への成長過程において自我の主張、反抗、孤独感、怠学、過激行動等の逸脱行為などがなぜ起るのか、青春期的特徴（特に男子）について三つの事例をオムニバス形式でとらえている。	31分 カラー	小学校
4949 善 悪 の け じ め	子供を非行に追いやらない為に、やってよい事、悪い事のけじめを日頃からはっきりと子供に教えておく必要がある事を、三つの家庭を例にあげて示し、家庭での親のしつけの態度を説明している。	30分 カラー	成人
4951 あ る 父 親 の 願 い	あるサラリーマンの家庭生活の中で、わが子が積極的に物事に取り組んで、それをやり抜くたくましさを身につけることを願う父親の姿を描いている。	30分 カラー	成人
4960 小 さ な 勇 気 の 物 語	小さなあやまちを素直に告白しなかったために、悩み、苦しむが、担当教師の暖かい目や級友の友情の中で、自分の弱さに打ち勝っていく一少年の姿をとらえた作品である。	39分 カラー	少年
4985 叱 ら な い 時 代 叱 れ な い 親	10才と5才の子供のいる一家の子供の行動と、それに対する親としての処し方、「ほめることが教育上よく、叱ることは悪い」という戦後からの風潮は、叱ることをいやがる人間、叱れない規をつくりつつある。そこで正しく叱ることについて考えようとするものである。	30分 カラー	青年 成人
5031・5034・5081 長 ぐ つ 父 さ ん	ブカブカの長靴をはいて、人を助けてはいつも損ばかりしているお父さん、お陰で少年は友達からはからかわれるし、楽しみにしていた自転車もフイになってしまう。そういう不満をぶつけ合う中で、やっとわかった父の愛と尊い教えを感じとった少年と父親の物語である。	40分 カラー	少年

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5139 お 母 さ ん は お 人 好 し か	見知らぬお婆さんにお金を貸したり、押売りの口車に簡単にのってしまう母親の姿に子どもたちは、お人好しとせめてみるが、後でお金を貸したお婆さんとの交流などをおして人を信頼することの大切なことを知らせる。	30分 カラー	小学校 (中・高)
5164 お か あ さ ん	母親と妹と三人で父親の留守を守っていた少女がふとしたことから自分の生い立ちの秘密を知って大きなショックを受けるが、感じやすい年ごろの少女が「生きる」とは自分の足で自分の力で歩むものだと思い成長して行く姿を追っている。	40分 カラー	青小学校 (中・高)
5206 ふ り か え っ て 夏 一 対 人 関 係 の つ ま づ き ー	二人の男子高校生と一人の女子高校生をとりあげ各国の親子関係、男子生徒同士の友情関係、男女間の交友関係などを描いている。	20分 カラー	成人
5246 続・ゆがんだ青春	青少年の非行、とくに性非行や不純異性交遊に走るケースが増加している現状を踏まえて、それを助長する有害環境の浄化を広く学校、家庭、さらに地域社会に訴え、その活動に自主的に取り組むことを訴えた作品である。	40分 カラー	青年 成人
5285 中 学 生 日 記 一 歩 き つ づ け て ー	遊びのつもりでしかなかった万引き。発覚したあとでも罪を意識しない中学生。万引き事件が、担任教師、生活指導教師、教頭、父親、母親に与えた衝撃の深さや狼狽、思惑等を描きながら、一組の父子の姿に焦点をあてて、自らの行為の重さに気づいていく少年の姿を浮き彫りにしている。	30分 カラー	中学校
5293 お兄いちゃんと僕の 七 転 び 八 起 き	勉強も運動も駄目、宿題は忘れるところからお荷物の健ちゃんと仇名を付けられた少年が、やはり自信を失いかけたお相撲取りと知り合い、「やれば出来る、僕もやるからお兄ちゃんも頑張れよ。」と発憤する迄の不屈の物語である。	43分 カラー	少年
5330 砂 の 家	勉強や友人関係、両親への理解等、受験期と思春期に悩む高校2年生の一少年の姿を描いた劇映画である。	50分 カラー	成人
5333 お か あ さ ん ち ょ っ と 待 っ て	小、中学生をもつある母親が、それぞれの子どもたちが引き起とした二つの事件を前にして、どう対処したらよいかを、望ましくない例とのドラマ形式で示している。	30分 カラー	成人
5336 ぼ く の 変 身 ー や り ぬ く 心 ー	第27回読売つづり方コンクール入賞作品「変しん」を映画化したもので、鉄ぼうやとび箱など体育の時間を苦手とする児童が、友人たちに励まされながら徐々にそれを克服していく姿を描いている。	29分 カラー	小学校 (中・高)

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5337 思 い 出 の 一 冊 の 本	テレビや漫画が犯濫している現代の生活環境の中で、子供が読書の習慣になじむには、初歩的には、まず子供自身が興味をもっている内容の本との出会いがいかに大切であるかを、ドラマ形式で描いている。	29分 カラー	成人
5343 お 母 さ ん に 乾 杯	成績さえよければ、重要教科さえよければといった風潮の中で、規は子供の人間性を歪めていないだろうか。そういう問題を投げかけながら、母親自身が自らを問い直し、わが子の人間性の良い面を悟り、ゆとりある家庭の人格教育のにない手になる必要性を描いた問題提起作品である。	29分 カラー	成人
5345 育 ち ざ か り の 体 づ く り	年々増加している骨折事故の原因を解明しながら、育ちざかりの子供たちが遊びのなかから基礎になる体力を、身につけていくようすを動物実験を交えながら、科学的にわかりやすく、また興味深く描いている。小学生、中学生、高校生の育ちざかりの子どもたちの健康対策について考える作品である。	28分 カラー	青年 成人
5351 中 学 生 日 記 － 不 等 辺 三 角 形 －	生徒、教師、保護者の「三者面談」の席で、はじめてわが子の成績を知ってがく然とする母、それに自分の成績をかくしつづけた少年の劣等感と自分で志望校を決めようとする姿を軸に、規親の子どもに対する幻想と子どもの意志の対立を描きながら、高校進学の問題点を考える。	30分 カラー	中学生
5449 背 を む け な い で お 母 さ ん	それぞれ異なった三人の少年の家庭を舞台に、子ども達が非行に走った家庭の背景などをオムニバス形式で紹介し、親子の心の交流の必要性と、親子、夫婦関係の在り方について問題を提起している。	25分 カラー	青年 成人
5457 友 情 は 燃 え て	火災によって親友を失った少年が、友のために出火原因と考えられる「生活の中の見えない危険」を探る過程に、友情の尊さ、生命の尊さを劇的に訴える作品である。	35分 カラー	少年
5460 お 母 さ ん と 呼 ん だ ら	「お母さん」、子供はいつも心の中でそう呼んでいる。この子供の心の問いかけにこたえてやった時、子供の心は安らぎ、親への信頼と愛情は一層深められて行く。この作品は小学校低学年、高学年、中学生の場合を例に子供の心に占める母親の愛情の大切さ、美しさを示唆する。	32分 カラー	成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5473 十 代 の 非 行 と 親 の 責 任	何故少年が非行に走るのか。その原因と非行化防止の方策を描く。そして幼児の頃から親が自信と甘やかしてない愛情をもって子供に接し、人生の指針をはっきり示すべきことを考えさせる。	30分 カラー	成人
5484 白 い 貝 殻	最近低年齢化をたどる少年非行の中で、女子中学、高校生の万引きの増加が目立っている。万引きが非行の導化線であることに親をはじめ、大人たちは意外に気づいていない。子どもを非行から守るために親や家庭はいかに対処すべきか、広く世に訴える作品である。	52分 カラー	成人
5510 す れ ち が い	普段何気ない行動の中には、自己中心的な考えから相手のことをよく考えない為、人を傷つけることも多い。この映画は、日常起こりがちな約束という一つの事実を通して、二人の児童が自己中心に見た行動や心の加での「すれちがい」について考えさせ、広い心で人の気持ちや立場を受け入れる態度を育てる映画である。	20分 カラー	小学校
5549 叱 っ て よ い 時 わ る い 時	子どもの健やかな人間育成に効果をもたらす真に正しい「叱り方」とは、どのような叱り方であるかを「叱ってよい時、わるい時」の臨場感あふれる実話を通じて表現し、訴える。	30分 カラー	成人
5552 涙 な ん か 飛 ん で 行 け	突然父を失った小学6年の康雄の環境はガラリと変わった。母が働きに出る事になったから妹の面倒も見なくてはならない。新しい学校にはいじめっ子がいた。彼のいやがらせが妹に迄及ぶ。そうした様々な雑問に敢然として科ち向う幼い兄妹の生きざまを描いている。	45分 カラー	少年
5575 飛 べ な い 紙 ヒ コ ー キ	高校受験に悩む中学生と、一勤労青年とのかかわりの中に、親にわが子にとっての幸福とは何か、その飛び立ちにいかにして浮力をつけてやるかを考えさせる作品である。	32分 カラー	青年 成人
5606 お 父 さ ん の 勲 章	反社会的な暴走族の現実の姿をドラマ構成により、暴走族に入りやすい年齢の高校生とその父母、その他広く一般を対象に具体的に知らせることにより、その反社会性について認識が深まり暴走族追放の一助となることをねらいとしている。	35分 カラー	成人

5629 子育ての中の基礎 体力づくり (2)	主に6才から9才までの児童を対象を絞って、この時期の子供たちの“基礎体出づくり”が、なぜ必要なのか、また、それを実践するためには、どのような方法が適切なのかを、豊富な事例をもとに、具体的に描いている。	20分 カラー	成人
5642 反抗期	子供と13、14才頃になると自我意識が育ってきて自分の世界を作ろうとする。この変化を知らずに親が相変らず強制や干渉、束縛を加えると、強い不満を示し反抗的態度をとる。この映画は、わが子（中2）の心の変化に気づかず、その対応に苦悩する母親が案出した交換ノートが、そのかたくなな心を開かせるに至った姿を描き、反抗期の子どもの指導のあり方に示唆を与える。	30分 カラー	成人
5643 ぼく学校はきらい	ある小学3年生の登校拒否の実例を再現しながら、その原因をさぐっていく。子供の心の発達に最も大きな影響を与える成育環境、中でも特に重要な親子関係のあり方にスポットを当ててみると、登校拒否を起こさないまでも、現代の子供たちがそれぞれに共通の問題にいき当たっているのではないかと気づく。そこで、子育てについて、父親、母親がそれぞれ子どもに段階的に自立性を獲得させるようすすめる。	30分 カラー	成人
5647 子供の心にふれる ー暴力をふるう 中学生ー	有名中学校への進学の実例がきっかけで、登校拒否、家庭内暴力を起こした生徒の家庭の事例を取り上げている。両親がこれまでの教育の在り方を反省し、真の愛情に目覚めていくことによって、子供が立ち直っていく過程を描き出している。	28分 カラー	成人
5734 親と子が 信じあうとき	わが子が非行に走る前に子供をどうしつけたらよいのか。どんな環境でも誘惑に負けず困難を克服し、正しく社会に適応していける様に子供をしつけるのは親の責任であることを訴えると共に、地域の大人たちが少年少女の非行防止に一声かけることの大切さを示唆する作品である。	31分 カラー	成人
5740 シャベルにける 青春	実話にもとづいて制作された映画。 12年前に父親を交通事故でなくした少年が、女手ひとつで育てられ、高校へ進学したのもつかの間、母親が懸命に切り回してきた小売店が近くに進出したスーパーの前にひとたまりもなく店じまいすることになった。15才のこの少年は、母を助けるため高校生活を断念し、工場現場で働くことになった。この映画はどのような境遇の中でも人間として精一杯生きることの大切さや親を助け、兄弟が助け合って生きることの大切さを描いている。	48分 カラー	少年

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5743 海 は 私 の 絵 本	長崎県五島で雑貨商を営みながら七人の子どもをそれぞれ自立させていく一人の母親の生き方を、彼教の民活詩を織り交ぜながら紹介している。遠くへ就職した子への家庭新聞や詩の送付、家族の進学や就職問題への取組み等、心を合わせて生きる家族の姿が描かれている。	30分 カラー	成人
5873 亀 裂	高校入試を間近かに非行へ走る息子、息子の急激な変化に驚ろく両親という家庭の姿を描きながら、非行化の原因や、子供の非行化を防ぐための望ましい家族の人間関係のあり方などを描いている。	57分 カラー	成人
5879 小 学 生 の 非 行	小学5年の仲良し5人組が、ふとしたでき心から万引きをし、それを知った3人の親たちの“わが子に限って”という驚きをドラマでとらえ、子供が非行に走る原因はどこにあるかを考えさせている。	30分 カラー	成人
5899 罪 の 意 識 の な い 子 ども た ち	罪の意識のない遊び型非行が激増している。集団万引き、自転車の寸借乗り捨てなどが多いが、こうした遊び型非行は簡単に本格的非行に発展してしまう。この映画はその初期の段階でいかに子どもに善悪のけじめを持たせるかを描き、非行防止に対する親の責任を問いかける。	31分 カラー	成人
58109 非 行 少 年 と 呼 ば な い で	年々増えつつける少年非行。今、子供の非行化への不安は多くの親の共通のものである。この映画は現代の少年たちの苦悩する姿を描き、家庭・学校・地域で問われている教育の本質、そして父親の役割とは何かを考える作品である。	29分 カラー	成人
5926 お や じ は 背 中 で 叱 っ て く れ た	今、中学生が求めているものは何か。突張りグループに入っていた息子が犯した過ちを、身をもって正そうとした父の姿に少年たちはどう反応したか。家庭・学校・地域で問われている教育の本質、そして父親の役割とは何かを考える作品である。	31分 カラー	少年 青年
5936 明 日 に 向 か っ て 翔 べ	少年の発育発達に即した望ましいスポーツ活動のあり方とその指導事例を紹介し、未来へはばたく少年の人間形成の基本を培う作品である。	30分 カラー	青年 成人
5952 子 供 だ け の 食 卓	一人で食卓に向かう子供が多いという。親たちは一人ぼっちの食卓が子供に与える栄養面、心理面、健康面のひずみに気づいているのだろうか。今や「子供の非行は食生活の乱れから」と言われている。家庭教育における食事のもつ意味と共に子供の人間形成にとって大切な、楽しく豊かな、一家団らんの食卓の実現を訴える。	30分 カラー	成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5955 中 学 生 は ど う 生 き る か	最近の中学生の一般的特徴と言われる無気力、無関心、シラケやイジメなど、彼等の心の中にある不安や悩み、願いなどを描きながら、中学生はどう生きていくべきか……、自主的自律的に自己を形成していくにはどうしたらよいかということ、生きかたの大切さとともに考える。	19分 カラー	中学校
5961 荒 ん だ 子 ら の カ ル テ	少年非行の現状は、量的、質的な面から見ても楽観を許さない。「校内暴力（いじめの問題）」「少女売春」「覚せい剤非行」「家出」などの問題を三つのオムニバス形式でドラマ化し、その実態を浮きぼりにしたものである。	36分 カラー	青年 成人
5966 女 子 非 行 一 転 落 へ の わ か れ 道	激増する性非行、身も心も傷つくのはいつも女性なのに、なぜ転落への道をたどるのか。彼女たちは親に反発し非行に傾斜しながらも、心では常に親に助けを求めている。その様子を描きながら非行化防止のポイントを探る。	31分 カラー	青年 成人
6016 お 母 さ ん の 卵 焼 き	道徳指導料に記載されている作品を素材に映画化したもので、お母さんが作ってくれたエピソードを通して、主人公が、父母の深い愛情にめざめていく様子をとりえている。	20分 カラー	小学校 (高)
6041 子 ども の 心 知 っ て い ま す か	級友からも仲間はずれにされ、万引きに興味をもつ三人の少年、子どもの万引き事件を知りショックを受ける親と、それぞれの家庭の様子を描き、子どもの非行問題と親の責任についてとりえている。	30分 カラー	成人
6042 か よ い あ う 心	「問題のある子」というレッテルを貼られた中学生たちと、車いすで生活する一人の老人とのかかわりを描き、少年の非行問題や非行から立直らせるための周囲のあり方などを描いている。	29分 カラー	成人
6060 い じ め を な く す	いじめの典型的な実例を追いながら、いじめの根底にある現代の子どもたちの心の問題点を描いている。あわせて、いじめを防ぎ、解決するには学校と家庭の連携、信頼関係の確立がいかに大切であるかを訴える。	27分 カラー	青年 成人
6064 ぼ く は 負 け な い	いじめっ子、いじめられっ子が大きな社会問題になっている。この映画は、こうした問題を解決するには何よりも地域の人びとの子供への積極的な働きかけが必要であると訴えている。即ち、子供たちに、自己潜在能力を自覚させ、自信をもって生きていく気構えを確立させるとともに、相手の心をも理解し、思いやりの心をもって協力していく態度を育むよう、いろいろな機会を通して働きかける社会的雰囲気づくりこそ大切と呼びかけている。	31分 カラー	少年 (児童)

番 号 題	名	内 容	時 間	対 象
6329 飛 べ な い 翼		「子どもの人権」にかかわる問題として、いじめや自殺、体罰・登校拒否などがある。これらの背景には大人が子どもを一人前ではなく、未完成な存在として低く見ることがある。その結果子どもの人価を無視し、個性や自主性をおかしてしまっている。この映画は、子どもを一人の人間として尊重することの大切さを訴え、「子どもの人権」を真剣に考える映画である。	30分	成人
6336 あなたの子育てま ちがっていませんか		子どもの生活のすべてに世話をやく母親、そんな母親を頼り自主性が育たない子供という家庭の様子をとらえ、過保護、過干渉が子供の育成に大きく影響することを示唆している。	30分	成人
6338 子供の成人型糖尿病		子供に多くみられるインスリン依存型糖尿病をとりあげ、カロリー過多、脂肪過多、運動不足などその原因を説明するとともに、正しい食生活と適切な運動の大切さなど予防のための対策について説明している。	30分	青年 成人
0112 語 り の 伝 承 は 今 ーお母さんもっと お話をー		小さな家庭文庫を開き子供たちに昔話を伝える渡辺さん、日常生活の中で伝承の昔話を語り、子供たちに伝える二宮さん一家の様子などとらえ、語り合いを通した子供たちとの心のふれあいのすばらしさについて感じとらせている。	33分	青・成
0127 家 庭 と い う 名 の ホ テ ル		両親は共働き、姉は大学に通う優等生、そんな家庭環境に育つ16歳の少女が、家族の会話もなく、ただ寝るだけに帰る家庭の淋しさに不満をいだき、次第に非行へ走っていく様子をとらえている。	40分	成人
0129 お 母 さ ん も っ と 聞 き 上 手 に		登園拒否という子供の行動に動揺する母親が、その原因を追っていく中で、日頃、新として子供に対する接し方が大きく影響していた事に気づいていく姿を描いている。	31分	成人

その他

番 号 題	名	内 容	時 間	対 象
4414	家 庭 と 学 校 の け じ め	学校には学校独自の、また家庭では家庭独自の教育的役割があり、両者の連携によって、子供の健全な成長が期待できることを理解させようとしたもの。本来、家庭でなすべきしつけの問題を、学校に依存しがちなあやまった考えを認識させる。	30分	成人
4448	父 親 何 を な す べ き か	家庭教育上、父親は母親とは違った独自の役割があり、その役割は子供の成長に従って変化していかなければならない。この映画は、幼児、児童、少年の各期のそれぞれの段階における父親の役割を描いている。	20分 モノクロ	青年 成人
4459	帰 食	子どもの偏食の原因、その弊害、それに対処する親の態度などを提示したもの。とくに若い母親にみせたい作品である。	26分 モノクロ	成人
4461	幼 児 と 交 通 安 全	幼児の交通事故は、乳児から中学生迄の事故の55%を占め、さらに増加の一途をたどっている。この映画はある幼児の事故を例に、幼児の事故の多くが、幼児の衝動的行動によってのものであることを示し、幼児を事故から守る親の態度を考えさせる。	27分 モノクロ	成人
4532	父 の 考 え ・ 母 の 願 い	成績のよいことを願う母親と社会に出たら成績よりも苦勞に絶える力と考える父の間に挟まって、子供が混乱し、叱られるのがいやさに日和見主義に育っていく様子を描いて、子供の教育に両親の系統だった態度がいかに重要であるかということを考えさせる。	29分 モノクロ	成人
4616	沖 縄 の 母 た ち	沖縄は海と空が美しい。この風土を背景に複雑困難な基地の社会環境の中で子どもたちに未来をかけ、たくましく生きる沖縄の母たちの姿を描いている。	31分 カラー	成人
4647	ひ と り ひ と り を 生 か す 教 育	特殊教育入門の手引きとして「どの子も落ちこぼれることなく、一人ひとりに適応した教育を」という考えに立ち心身障害児の早期発見とその教育への理解を深めることを願って作られた作品である。	44分 モノクロ	青年 成人
4648	も う 子 ど も じ ゃ な い	小学生時代は素直なよい子であったのが、中学生（反抗期）になると親の思うようには行動しなくなって反抗的態度にでるという特定の3人の例を示して、中学生の身体的、精神的変化に関する問題点を提起した作品である。	29分 モノクロ	成人

番 号 題	名	内 容	時 間	対 象
4652	十代の性と愛	ある一家を舞台としてドラマの展開の中で、家庭での「性に関する対話」が特に中学生、高校生に対してどうあるべきかの心構えや心得についての、一つの方法を示唆している。	32分 モノクロ	成人
4712	テレビっ子マンガッ子のしつけ	なぜ子どもたちはこんなにもテレビやマンガに夢中になるのだろうか。大学生までもマンガを読むという。映像がもつ独自の力と、ここに欠けているものは何かを中心に、現代っ子のしつけを考える。	30分 モノクロ	成人
4739	偏見	幼い時、自動車事故にあい、その後遺症のため、勉強が苦痛になった一人の少年が友だちからいじめられるという物語である。だが、彼には彼の良さがある。彼が注ぐ生き物への無限の愛情と生命あるものを守ろうとする美しい心が、彼をいじめた友だちを目覚めさせていく過程を描いている。	33分 モノクロ	成人
4876	家庭とはなにか	激しく移り変わる社会の中で、今家庭の存在感が問われている。人間形成の場、安らぎの場としての家庭の役割を、今後ますます充実させていくことが大切であることを訴える。	31分	青年 成人
4880	歯の健康	妊産婦は栄養に無関心ではいられない。母となる若い女性を対象に、胎児の健康、母親の健康について、歯を中心に正しい知識と認識をもってもらうための作品である。	20分 カラー	青年 成人
4888・5080	ゆがんだ視線	人間は、先入観や偏見にとらわれて、ものを正しく見る目を失い、大きな誤りを犯す場合がある。この映画は、客観的な根拠もないのに、他人を誤って判断したり、差別的な態度でのぞむことの罪深さ、愚かさを指摘する映画である。	30分 カラー	青年 成人
4893	子供の性の悩みと親の態度	性成熟の過程で、心身の変化が激しい思春期の子どもの性の悩みの実態と、それを受け止める親の態度や留意すべき点を具体的に示し、あわせて親に性教育の意味と、性教育における家庭と学校の役割と分担協力について考えさせる作品である。	30分 カラー	成人
4894	中学生の性意識	現代の複雑な生活環境の中で中学生は性について何を考え、何を悩んでいるか。その実態を把握し、子どもの性について正しい認識を促す。三つの例をあげ、劇構成で描いている。	37分 カラー	青年 成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
48105 子 ども を 伸 ば す 叱 り 方	子どもを叱る場合、感情的に叱るのではなく、子供に何の理由で、何のために叱られたかを自覚させ、反省させることが大切であるとし、叱り方、ほめ方について親の接する態度をとらえたものである。	29分 カラー	成人
4947 親 子 と は 何 か	「こんな子供に育てた覚えはない」という母親の嘆き。何がそうさせているのだろうか。本作品は二人の初老の婦人の生き方と子育ての姿を描いて、今日程親子のきずなが弱くなっていると言われている現代の親子関係に欠けている物は何かを、親の扶養問題を含めて考えていく。	31分 カラー	成人
4958・48106 お 母 さ ん が 作 っ て く れ た	使い捨て時代と言われる今日、自分の子供たちのために、たまたま自家製のパンを焼いて喜ばれたある主婦の体験を通じて、子供たちに正しい消費生活感を育てていくにはどうしたらよいかを示唆する。	32分 カラー	成人
4969 北 国 の と も 子	17歳の少女とも子は、年老いた祖母をいたわり大切にしながら働く看護をする中で、働く事の尊さ、思いやりの大切さを学び明るく元気に生活する様子を描いた作品である。	33分 カラー	成人 青年
4975 ひ な に と っ て 親 と は 何 か	ローレンツの「すりこみ」理論の一端を紹介したもの。あひるのっひなのそばに、音の出るおもちゃの犬、汽車、アヒル、音の出ないものとして風船、ビニールのボールなどを置いて、各ひながこれらを認めて行動する様子を実験、解説している。	20分 カラー	高校
5022 お ば あ ち ゃ ん 子 っ て い う け れ ど	子供の教育やしつけは年よりと同居しているとダメになると考えていた一人の若い母親が、幾つかの問題に遭遇しながらたどりついた結論は……という物語を通して、母親・姑に双方それぞれ考えてもらう問題を提起した作品である。	30分 カラー	成人
5024・5118 ふ る さ と に 生 き る 母 た ち	冬の間、全村夫婦で出稼ぎをしていた秋田県の山村の母たちが、子供と暮すことの大切さを知り、共同で肉牛を飼い母親牧場の経営を始める。それ以来子供たちが明るくなり、母親たちも出稼ぎの時より生活にはり合いを感じるとともに、ふるさとに生きる喜びを見出していく姿をとらえている。	30分 カラー	青年 成人
50100 子 供 に 働 く 体 験 を	家の手伝いをしない子供達が母親の留守の間に父親に指示され、いやいや手伝いをするが、日がたつにつれ自主的に、計画的に家事を分担し、働くことのよろこびを知って行く姿を描いている。	30分 カラー	成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
50108 わが家の好敵手	子どもの目を通して見た親の姿、子を思う親の心を明るく描いたホームコメディである。	41分 カラー	少年 成人
50111 ゆがんだ青春	大学入試に励むまじめな高校生がふとした事が原因で、シンナー乱用者になり、遂には身も心も滅ぼしてしまうというドラマを通して、シンナー等の乱用防止という問題を家庭、学校、社会の問題として考えさせる。	30分 カラー	青年 成人
5137 息子のともだち	息子に小学校時代の級友で、貧しい家庭の少年との交際を嫌う母親は、もう一人の少年、人の手前だけをつくろう軽薄な少年とも知らず、この少年との交際を通してわが子にとって友だちとは何かを考えさせる。	30分 カラー	青年 成人
5141 家族の構図	夫を亡くした姑が嫁と一悶着を起こしたのをきっかけに、生前の夫が二人の息子の教育に果たした役割りなどを回想しながら、家族とは何かについて考え、成長した子供に励まされて、心境を変化させていく。そうした事例を描く中で家族の人間関係のあり方を考えさせる。	31分 カラー	青年 成人
5146 おとなになるって	親にも言いにくい性の問題を、親子ノートを通して説いている。明るい家庭を描き家庭教育における、性教育のあり方と方法を示唆している。	33分 カラー	成人
5158 娘の初恋	思春期（中学生）の女の子を持つある一家をとらえながら、親は娘の行動に対し干渉するより、わが子を信頼し、成長を温く見守る事が大切であり、それによって子供自身も自分の行動に責任を持つようになる事を示唆した作品である。	30分 カラー	成人
5209・5274 幼児のあそび ー 今と昔 ー	かつての伝承遊びと現在の遊びを対比させながら、今日失われつつある遊びの本質を探り出し、これからの遊びの在り方を考えようとする作品である。	20分 カラー	青年 成人
5224 母と子の旅	母と子が二人の足で確かめた東海道自然歩道の旅を通して、日頃見失いがちな素朴で暖かな人情、自然を愛する心、公德、親と子のつながり等を見つめ直させる。	32分 カラー	少年 成人
5226・5228 私たちの中の もう一つの顔	私たちの中には常に「もう一つの顔」が潜んでいる。この映画は、我が子の勉強の妨げになるものはすべて憎悪の対象になる母親を中心に、日常生活の中に現われる偏見や差別がどの様に生まれるかをドラマで描いた作品で、そうした偏見に自ら気づき、問い直していく作品である。	31分 カラー	青年 成人

番 号 題	名	内 容	時 間	対 象
5235	小 学 生 と 性	思春期の門戸に立った多くの小学生は、相談する相手もなく性の悩みに小さな心を痛めている。この映画では、ある小学校保健室における養護教諭の性教育相談の実話から取材、性に対する子と親と先生の対話促進と理解を深めようとする作品である。	28分 カラー	成人
5241	竹 と ん ぼ の 空	これからの教育行政の新しい柱として、助け合いの精神を強調した“助け合い教育”が提唱されている。人を押しのけても自分だけ勝てばよいとする競争第一主義が学校教育の中であまりにも強いという認識から、助け合い主義への方向転換をねらった作品である。	25分 カラー	成人
5277	心 豊 かな 強い子であれ	ある家庭におこった“自転車騒動”を通して、子どもの豊かな成長と安全のしつけに果たす母親の役割について考え、同じ年代の子どもをもつお母さん方のよき道標にしていけるための作品である。	25分 カラー	成人
5280	嫁 故 の き ず な を 考 える	姑と嫁が一つ屋根の下に住むことの難しさをとらえ、姑の存在について考えさせる。	31分 カラー	成人
5284	交 通 の 中 の こ ど も	幼い子どもを交通事故から守るには、どうしたらよいかについて、幼児の日常の行動や遊びを通して、その対処のしかたを示唆している。	23分 カラー	成人
5290	父 こ の つ よ き も の	厳しい職場で働く父親がわが子の目に余る甘え、妻の過保護ぶりを見た時、同じようにして育ってきた部下の姿にわが子の将来を見た。これではならじと立ち上がる父親に妻や子はどう反応したか。感動的なドラマを通して、書いて教育のあり方、子供の教育に対する親の姿勢を考える。	30分 カラー	成人
5291	母 と 娘 と お ば あ ち ゃ ん と	子どもは日常生活の中で母親の生活観なりエゴイズム、老人に対する態度などをよくみて批判的ではあるが、しかしそれなりに母親のよさをよくみて身につけていくものであることを親として気づかねばならない。この点に視点をおいて、人間関係を考えさせる作品である。	32分 カラー	成人
5292	心 に 咲 く 花	ふとしたことから万年筆を借りっぱなしにしてしまったドイツの少年が「これを返さなかったら、単に自分だけの恥でなく、ドイツ全体の恥になる」と、名前さえ分らぬ日本人に、その万年筆を返そうと懸命に努力する……。こうした姿をドラマチックに描き「恥を知る」事の崇高さを訴え、日本の少年達に失われかけている「郷土愛」、「愛国心」を考えさせる。	30分 カラー	少年 成人

番 号 題	名	内 容	時 間	対 象
5332	未 成 年 の 性	青少年の性に関する問題事例を少年相談所のカウンセラーの目を通して紹介し、何が彼等をそうさせたか、その問題を客観的にさぐり、また、それを防ぐには、親と子の信頼関係こそ最も大切であると訴えている。	33分 カラー	成人
5344	母 と 子 の 心 が か よ う と き	平凡な主婦である母親が、社会奉仕活動するようになってから人間的に成長し、子供達を見る目も変わり、母と子は新鮮な心の振れ愛を取り戻すという物語である。	30分 カラー	成人
5349	お ば あ ち ゃ ん が 帰 っ て き た	お年寄りと若い両親との間には、子どもに対するしつけや愛情に違いがある。ここでは姑と嫁の関係が子どもに及ぼす影響について描いている。	34分 カラー	成人
5352	農 村 の 生 活 と 子 ども た ち	西ドイツのミュンヘンでの貸し農園での栽培、バイエルン州のキムゼー村の牧場風景そしてオーストラリアのラムソー。幼いころから乳牛の世話、農業や家事の手伝いをし、家族の一員として役割と責任を自覚していく子供たちの姿を描いている。	20分 カラー	少年 青年 成人
5353	老 人 と 少 年	休みを利用して遊びにきた孫との一週間の生活をとりえながら、老人の孫に対する接触には、長い人生体験の中で身につけた生活信条をストレートにぶつけていくことの大切さを示唆している。	32分 カラー	成人
5448	母 さ ん は 歌 っ た よ	聴力を失いながらもわがこの厳しく豊かな愛情を注ぐ母親と、その愛にこたえ母にやさしいところづかいをする息子たちのものがたりである。	48分 カラー	少年 青年 成人
5454	こ こ ろ	少年の心のやさしさ、少年の自殺、老人の問題等、様々な問題を扱っている。	32分 カラー	成人
5455	ほ め て よ い こ と わ る い こ と	母親たちの甘やかし教育や受験競争のテスト体制の中で、ほめてはならないことを、ほめている親はいないか。ほめてよいことわるいことを、どのように考え、どう実践したらよいかを訴える。	30 カラー	成人
5477	子 ども は 自 殺 を 予 告 す る	子どもの自殺を考える時、親の側に矯正すべき多くの問題があることを訴えている。	30分 カラー	成人
5478	思 い や り の 心 を 育 て る	この映画は幼児期、児童期、青年前期の三段階を通じて、子供の思いやりの心がどのように養われ、発展するものであるかを描いている。	30分 カラー	成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5480 親 が 子 供 に 語 り か け る 時	一人の外国人の母親とつきあったことから、子どものしつけの基本は子供を一個の人格と認め、子どもなりの自覚と責任感を日常生活の中で身につけさせることだと知った親たちの活動を描いている。	31分	成人
5481 三 世 代 家 族	祖父母を含めた三世代家族をテーマに、子供、夫婦、孫に対する老親の役割、家庭全体に与える影響を考えながら、長い人生経験の知恵を持った生活文化の伝達者としての素晴らしさを訴える。	32分 カラー	青年 成人
5485 お 母 さ ん が 走 っ た	九州南部の美しい漁村を舞台に共働きと子育ての喜びと悩み、姑と嫁の子どもの育て方についての考え方の違いから起る問題を夫婦のさわやかな働く姿をおり込みながら描いている。	34分 カラー	成人
5486 親 と 子 の 歩 み	共働きをする夫婦とその子供たちを中心に笑いや小さな感動のなかに子育てをする夫婦のあり方、そして家庭とはなにかということを描いている。	30分 カラー	成人
5487・5630 炎 よ 創 れ	焼きものをしている祖父と家業のかたわら子どもの教育に心を砕く若い夫婦、そして延び盛りの活力にあふれた子供たち、その三世代の家族の暖かい愛情を描いている。	34分 カラー	少年 青年 成人
5551 他 人 の 子 を 叱 っ た 私	全国に広がっている「他人の子を叱る」運動の根底に流れている精神は何かを探りながら、親だけで子供を育ていく限界、今日の家庭教育・地域ぐるみの教育の在り方を考える作品。そして他家の子であっても気付いた事を注意し合う事は、大人全体の責任であり、義務である事を訴える。	31分 カラー	成人
5537 旅	一人の少年が冬の北海道を旅行する様子を背景に、旅行が実現されるまでに起きた出来事に対し、父親のとった行動をとらえ、子供に対する父親のあり方、家族のあり方について考えさせる。	29分 カラー	少年 青年 成人
5635 5659～5663 ゆ が ん だ 鏡 － 偏 見 の 伝 承 －	子どもは、親の姿を見て育つ。もしも、親が歪んだ人間観・社会観を持っていたとしたら、子どもはどのように成長していくだろうか。 親の期待する「良い子」像に余りにも忠実に生きようとした少年の悲劇を通じて、親から子へ伝えかねない偏見と差別の問題を提起している。	31分 カラー	成人

番 号 題	名	内 容	時 間	対 象
5636	母 親 の 願 い と 父 親 の 役 割	いくら勉強が出来ても、人間的な思いやりの心が欠落していたら、社会に通用するはずがない。子供の心の中に驕りと甘えの精神を発見した時父親は敢然として立ち上がる。父と子がぶつかり合う中で、今日的な課題である父親のあるべき姿、望ましい父親像を考えていくための教材である。	30分 カラー	成人
5645	希 望	都会に住む家族と、近くの農村で農業を営む家族とが、ふとしたことで知り合い、子どもたちが、休日を利用して農作業手伝いなどを体験していく。その中で、働くことの大切さを感じとっていく様子を描いている。	35分 カラー	成人
5674	親 から 子 へ の 性 教 育	幼児から中学生頃までの親と子の性問答を中心に、家庭における性教育の重要性を示し、親のとるべき態度や考え方を具体的に描き親自身が逃げたり、ごまかしたりせず、子供の成長段階に合わせて継続的に行ってこそ効果があがるのだという事を考えさせる。	30分 カラー	成人
5735	校 内 暴 力	構内暴力事件が学校側の問題としか受けとめていなかった親たちが、暴力問題で日夜努力している教師達の熱意に触発され、親としての責任や義務を自覚し、立ちあがっていく姿を描いている。	30分 カラー	成人
5749	年 は と っ て も	孫の教育について、祖父母は親の脇役であるが、その役割は基調である。長い人生を歩んできた年齢が良い手本になるからだ。そういう無言の教え、無意図的教育の価値を考える作品である。	29分 カラー	成人
5777	親 の 目 ・ 子 の 目 子 は カ ス ガ イ … ?	ある家庭（父、母、3人の子ども）で、母親が事情により一週間家をあける。この間の父と3人の子どもの奮闘ぶりを生き生きと描いている。この母親の不在を追って、結果的には母親の存在、父親の在り方をクローズアップすることになって見る者を考えさせる。	30分 カラー	青年 成人
5875	見 な お そ う わ が 子 の し つ け	学校における子供たちに対するしつけのねらいについて説明するとともに、家庭におけるしつけとは何かを、学校と対比のかたちで描いている。	30分 カラー	成人
5880	胸 を は れ 青 春	暴力事件を起し非行に走る生徒が、教師の熱意とクラスの仲間たちの深い友情によって立ち直る様子を、現実におきた事件を背景にドラマ構成で描いている。	38分 カラー	成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
58108 父 よ 母 よ 子 よ	父と母の人間関係が子どもに与える影響は極めて大きい。「非行化」の問題をこの観点からとらえ、特に父親の役割の重大さを描きながらドラマ化した作品である。	30分 カラー	成人
58114 ほ く で き る の に	子供の成長過程において、親の過干渉や過保護が自立心や自主性のない性格を形づくるとともに、それが青年期においても強い影響を与えることをドラマ構成でとらえ、考えさせている。	30分 カラー	成人
58115 ま じ め な 話	矢島暎夫作「まじめなオチンチンの話」を素材に映画化したもので、幼児期や小学生期における男子の性器について、子供の行為や疑問を通しわかりやすく説明している。	35分 カラー	成人
58119 親 の 目 ・ 子 の 目 父 さ ん / ほ く 就 職 す る	長崎県五島の中学校を卒業した秀樹君は、両親・先生のすすめにもかかわらず、父と同じ漁船員の道を選び漁業会社に就職する。卒業式から1年間の取材の中で彼が夢みた漁船員として船に乗り込む道は絶たれ、網師として陸の仕事を与えられる。期待と挫折、親の不安と子どもを思う心などを織りなして、社会の厳しさを描いている。	30分 カラー	少年 青年 成人
5927 夢 か ぎ り な く	一人暮らしのお年寄りと皿の共同製作をしつつ、社会や人間を見る目を養っていく少年。二人の心あたたま交流を描いて、わが子を人間的に成長させるには。趣味や関心あるものと通して豊かな社会体験をさせ、それを見守る抱擁力が、親に求めている事を訴える作品である。	31分 カラー	成人
5928 歯 の 健 康 は し つ け か ら	育ち盛りの子どもの健康に悪い影響を及ぼす歯の病気は日常の生活習慣に深いかかわりがある。どのようにすれば歯の健康が保てるか、親と子が一緒になって健康な歯がつくるための心得を示した作品である。	24分 カラー	少年 青年 成人
5930 お 父 さ ん お 母 さ ん け ん か し な い で	両親の不和が子どもの心を大変暗いものにし、子どもらしい積極性や活動性を失ってしまい、一歩まちがえば問題行動に走らないともかぎらない危険性をはらんだ家族と、そうした危険性を克服して明るくたくましい日々をすごしている家族を通して、両親の不和の重大性を考え、家族の意義を考える作品である。	33分 カラー	成人
5931 食 品 添 加 物 と 子 ど も の 健 康	食品の製造・加工・保存のために使用されている添加物について調べ、それに対する知識と、特に子どもの成長、健康に及ぼす影響を描いた作品である。	28分 カラー	成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
5948 代 打 父 さ ん の 出 番 で す	核家族の親子関係が様々なひずみを生んでいる今日、心の通う親子関係を取り戻すにはどうしたらよいか。よその親とわが子とが交流する中で生まれる親子関係の効用を描きながら、地域の親たちがお互いに子育て体験を共有し合う意義を訴える。	31分 カラー	成人
5971 背 負 子 日 記	山荘の小屋番をやっている祖父のもとへ夏休みを利用してやってきた少年が、きびしい大自然のたくましく生きていく祖父の姿に接し、次第にたくましい少年に育っていく様子を山岳地帯の奥深い自然を背景に描いている。	32分 カラー	少年 成人
5972 子 育 て の こ こ ろ	子育ての基本として、まず自立の心を育て、家庭や学校・社会の一員としての立場、それに伴う役割をはたすことの大切さに気づかせ、己れの欲望を制御する力を養い、思いやりのある心の豊かな人間として育てることこそ、今日にふさわしい子育てのころであることを訴える。	32分 カラー	成人
6040 父 ちゃん の 汗 に 乾 杯	卸売市場の運搬係という父親の職業にわだかまりをもつ少年が、父親の仕事一途な生き方に啓発され、職業に対する考え方や働くことのすばらしさに気付いていく様子を描いている。	43分 カラー	少年
6043 子 ども を む し ば む 食 生 活	子供たちの、過食や栄養のアンバランス、そして運動不足などの原因で生じる肥満、高血圧、高脂血症など子供の成人病についてとらえるとともに、バランスのとれた食生活の大切さについて説明している。	24分 カラー	成人
6135 お 母 さ ん は 太 陽	鍼、灸、マッサージを営む全盲の両親と、三人の子供たちの生活を綴った作文集を素材に映画化したもので、三忍の子供たちが手を結び、目の不自由な両親を助け明るく生きていく姿をほほえましくとらえている。	35分	成人
6142 や る 気 を 育 て る	ーお母さん、ぼく塾へ行かなくても大丈夫なのーやる気が育つまでの多くの問題点を提示しながら、ソフトな映像でゆれうごく母親の心情をとらえながら子育ての一つのあり方を描いている。	34分	成人
6337 わ が 家 は た だ い ま 3 6 2 歳	両親と子ども2人の4人家族、そして2階で生活する祖父と祖母の2所帯3世代家族、そんな家族構成の中へ、母方の祖父と祖母が狭いながらも敷き地に家を建て、3所帯3世代の家族構成の生活を築いていく様子を、さわやかに	33分	成人

番 号 題 名	内 容	時 間	対 象
0128 男 の 値 打 ち ーくらしの中の自立ー	定年退職した夫が、趣味をもつことを進める妻の言葉を見無視し毎日を過すが、孫との関わりあいの中で家事の大切さを知り、家庭の中に男としてできる仕事を見出していく姿をとらえている。	30分	成人
0136 弟 た ち の 誕 生 (必ず試写をして使ってください)	2人の子供をもつ家族が、新しく家族として迎える赤ちゃんの出産を、直接立会い見守っていく姿を描いたもので、生命誕生のすばらしさを感じとらせている。	30分	成人
4619 子 ども の し あ わ せ と は	父親と父親になろうとする子どもの対話を通じて、子どもの本当のしあわせとは何かについて考えさせようとしたものである。子どものしあわせとは何かについて考えさせようとしたものである。子どものしあわせのために何を考え、行動、しつけしたらよいかなど示唆している。	30分 モノクロ	成人

ビデオ教材一覧

ビデオ番号・題名	内 容	時 円	対 象
B-36 62年度 「ママとぼく」 だいじな3歳期	子どもの成長にとって3歳期がなぜ大切か考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-37 「ママとぼく」 運 動 遊 び	幼児の心身は力いっぱい遊ぶ中で発達していく。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-38 「ママとぼく」 入 園 の 心 構 え	幼児を幼稚園・保育園に入園させるさいの心構えについて。	15 分 15 分	幼児期 幼児期 保護者
B-39 「ママとぼく」 友 だ ち づ くり	社会性を伸ばし子ども文化をつくる仲間づくりについて。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-40 「ママとぼく」 手料理のすすめ	家庭で手作りの食事やおやつをたべさせる効果について。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-41 「ママとぼく」 自 然 に 親 し む	草花や昆虫などに接したり野外遊びで育つ情緒について。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-42 「ママとぼく」 好 奇 心	幼児がもつ好奇心とその対応のしかたを考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-43 「ママとぼく」 小児科相談室 1	幼児がかかりやすい病気とその予防方法について。	15 分 カラー	幼児期 の 幼児期
B-44 「ママとぼく」 小児科相談室 2	寒さをのりきるための健康づくりなどについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-45 「ママとぼく」 反 抗 は 成 長	反抗は幼児の成長の現れだというのが親の対応はどうあるべきか。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-46 「ママとぼく」 上 手 な 叱 り 方	ほめるより叱ることが多いが上手な叱り方とは？	15 分 カラー	幼児期 の 保護者

ビデオ番号・題名	内 容	時 間	対 象
B-47 「ママとぼく」 豊かな親子の会話	親子の豊かな会話の重要性と会話の環境づくりについて。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-48 「ママとぼく」 情 緒 を 育 て る	情緒や情操とは何かを知りその育て方について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-49 「ママとぼく」 指 の は た ら き	幼児の指使いの器用さと脳の発達は深い関連があることについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-50 「ママとぼく」 子 ど も の 遊 び	幼児の成長と遊びの変化や遊びの重要性について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-51 「ママとぼく」 気になるよその子	よその子と比較するよりわが子の長所を伸ばすことについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-52 「ママとぼく」 弟 妹 誕 生	幼児に弟妹ができた時の対応のしかたを考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-53 「ママとぼく」 父 親 の 育 児 参 加	育児は母親の役割とっておられない状況の変化について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-54 「ママとぼく」 少 食 ・ 偏 食	少食や偏食とは何かを知り楽しい食事を考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-55 「ママとぼく」 私はこう育てたい	祖父母や姑などと話しあい家族の協力について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-56 「ママとぼく」 外 国 の 子 育 て	海外生活経験者に外国の幼児期の育て方を聞く。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-57 「ママとぼく」 マ マ の 相 談 室	はがき通信や家庭教育110番への質問に答える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者

ビデオ番号・題名	内 容	時 円	対 象
B-58 「ママとぼく」 育 児 グ ル ー プ	若い母親が集まって学習する育児グループを紹介する。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-60 63年度 3 歳 児 と は	こどもの成長にとって3歳期はなぜたいせつかについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-61 反 抗 期	幼児の反抗の理由はなにか親のかかわりかたはいかにあるべきかについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-70 「ママとぼく」 ママおしっこ！	3歳期は、排せつ習慣が自立するころといわれる。おしっこを自分でできるようになるためのてだてや、生活のなかでのしつけについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-71 「ママとぼく」 小児科相談室 1	幼児がかかりやすい病気はなにか？またその予防法などを学び冬にむけての健康づくりを考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-72 「ママとぼく」 小児科相談室 2	同 上	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-73 「ママとぼく」 芽をのばそう	それぞれの長所を発見し、その長所をのばすにはどうすればよいかについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-74 「ママとぼく」 あそびのすすめ	遊びは、幼児の生活のすべてである。遊びに夢中になっているとき、幼児の知恵は活発にはたらくといわれる。遊びと幼児の知的な活動について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-75 「ママとぼく」 ともだちできたよ	3歳期は友だちを求め、友だち遊びを通して大きく成長しはじめる時である。 日常生活の中で友だち遊びの大切さについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-76 「ママとぼく」 自然とのふれあい	幼児にとって自然は、大事な友だちである。自然の中で草花や小動物とのであいやふれあいを通じて自然に親しむ心や思いやりの心を育てることを考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-77 「ママとぼく」 ママ・パパそっくり	子どもは、親の後ろ姿に学ぶと言われる。幼児の目にうつる親の行動がどう影響を与えるか具体的な例を通して考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者

ビデオ番号・題名	内 容	時 間	対 象
B-78 「ママとぼく」 マ マ の 勉 強 室	テレビモニターを訪問し、育児についてのいろいろな問題について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-79 「ママとぼく」 で き る か な ?	子どもの成長について不安をもつ親は多い。 日常生活の中で具体的な例をもとに、成長・発達の目安について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-80 「ママとぼく」 こ う 育 て た い	育児は、ママとパパの共同の役割であり大事業である。わが子をいちばんよく知っている両親が、一貫性のある家庭教育をどう進めるかについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-81 「ママとぼく」 ほ め る ・ し か る	ほめるにしても、しかるにしてもはっきりした親の信念が大切である。この時期の上手なほめ方・しかり方のくふうについて考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-82 「ママとぼく」 お父さんあそぼう	幼児たちは父親との楽しい遊びを期待している。遊びを通して父親は、子どもとどうつきあったらよいか考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-83 「ママとぼく」 絵 本 は と も だ ち	幼児の感覚や感情をゆすぶるものの一つとして絵本は極めて大切な役割を果たす。幼児のものの考え方を育む絵本について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-84 「ママとぼく」 マ マ の 質 問 箱	はがき通信や家庭教育110番への質問等について回答する。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-85 「ママとぼく」 発 達 の お く れ	子どもの発達の遅れに対する親の不安は大きい。それを克服するためには、子どものほんとうの姿をみつめることが大切である。親のあり方について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-86 「ママとぼく」 弟 ・ 妹 の 誕 生	弟や妹が生まれると、急に甘えっこ、なき虫、わからずやになって困らせることがある。この時期の親のあり方について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-87 「ママとぼく」 お て つ だ い	幼児には、おてつだいに興味を示し、進んでおてつだいをしたがる時期がある。たびたび失敗が起こってもこの時期に身につけておきたいおてつだいの方向について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-88 「ママとぼく」 歯 は だ い じ ょ う ぶ	3歳児は、約80%がむし歯もちといわれる。歯みがきの習慣化と、健康な歯を育てる方法について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者

ビデオ番号・題名	内 容	時 間	対 象
B-89 「ママとぼく」 こ だ も の 絵	この時期は、画用紙を与えると円や十字など、自分の気持ちを思いのまま表現する。絵を描く遊びを通して子どもの創造性を考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-90 「ママとぼく」 ど う す る 偏 食	食べ物の豊富な今日の生活の中で幼児の偏食傾向を明らかにし、偏食をなくすため工夫について考える。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-91 「ママとぼく」 4 歳 時 に む か っ て	学習をまとめ、4 歳児へ向かって家庭教育のあり方についてアドバイスをする。	15 分 カラー	幼児期 の 保護者
B-92 「ママとぼく」 子 育 て っ て ど う す る の ？	ユニークな子育て論争と育児の基本を学ぶ	15 分	幼児期 の 保護者
B-93 「ママとぼく」 勉 強 大 好 き ！ ？	幼児期からのつめこみ教育は必要なのか	15 分	幼児期 の 保護者
B-94 「ママとぼく」 お 母 さ ん や り す ぎ で す ！	すぐに母親が手出しする過保護の影響は	15 分	幼児期 の 保護者
B-95 「ママとぼく」 ほ め る ・ し か る	どんな時どのようにほめ叱ったらよいか	15 分	幼児期 の 保護者
B-96 「ママとぼく」 自 然 に ふ れ よ う	フォーラムの1 日から親と子とのふれあい	15 分	幼児期 の 保護者
B-97 「ママとぼく」 こ だ も か ら の メ ッ セ ー ジ	幼い子供たちは親をどうみているか	15 分	幼児期 の 保護者
B-98 「ママとぼく」 親 が 気 が つ か な い 信 号	反抗など子どもからのひそかな信号とは	15 分	幼児期 の 保護者
B-99 「ママとぼく」 小 児 科 相 談 そ の 1	乳幼児のかかりやすい病気と親の注意	15 分	幼児期 の 保護者

ビデオ番号・題名	内 容	時 間	対 象
B-100 「ママとぼく」 小児科相談その2	乳幼児の思いかけない病気と親の対応は	15 分	幼児期 の 保護者
B-101 「ママとぼく」 おねしょ・爪かみ・ 指 し ゃ ぶ り	なかなか直しにくい子供のクセと対応	15 分	幼児期 の 保護者
B-102 「ママとぼく」 こどもの指は生きている	ボタンかけなど大切な指と手足のはたらき	15 分	幼児期 の 保護者
B-103 「ママとぼく」 小 さ な 好 奇 心	すべてが新しい世界・好奇心ウオッチング	15 分	幼児期 の 保護者
B-104 「ママとぼく」 幼児のころの思い出から	思い出の中に見るスキンシップの大切さ	15 分	幼児期 の 保護者
B-105 「ママとぼく」 お父さんの役割	子育ての中で大きな父親のはたらきは	15 分	幼児期 の 保護者
B-106 「ママとぼく」 絵本たのしいね	成長にあった絵本の選び方と読み聞かせ	15 分	幼児期 の 保護者
B-107 「ママとぼく」 親子でつくろう	こどもの夢を生かして一緒に作る絵本	15 分	幼児期 の 保護者
B-108 「ママとぼく」 リズムにのって	幼児期に大切なリズム感と童謡について	15 分	幼児期 の 保護者
B-109 「ママとぼく」 きょうだいげんか	弟妹が誕生して変化するこどもへの対応	15 分	幼児期 の 保護者
B-110 「ママとぼく」 友だちをつくろう	すぐに友達ができる子とできない子	15 分	幼児期 の 保護者

ビデオ番号・題名	内 容	時 間	対 象
B-111 「ママとぼく」 遅れをみまもる	幼い障害児の自立と周りからのはげまし	15 分	幼児期 の 保護者
B-112 「ママとぼく」 いい歯してますか	健康な歯を保つための努力と工夫と情報	15 分	幼児期 の 保護者
B-113 「ママとぼく」 偏食していませんか？	乳幼児の偏食少食の原因と対応について	15 分	幼児期 の 保護者
B-114 「ママとぼく」 困ったな！登園拒否	行きたくないと泣く子供の原因を探る	15 分	幼児期 の 保護者
B-115 「ママとぼく」 入園入学前のしつけ	集団生活に必要な社会的なしつけの基本	15 分	幼児期 の 保護者
A-105 子どもをむしばむ 食生活	子供たちの、過食や栄養のアンバランス、そして運動不足などの原因で生じる肥満、高血圧、高脂血症など子供の成人病についてとらえるとともに、バランスのとれた食生活の大切さについて説明している。	24 分 カラー	成 人
A-101 やる気を育てる	「お母さん、ぼく塾へ行かなくても大丈夫なの」やる気が育つまでの多くの問題点を提示しながら、ソフトな映像でゆれ動く母親の心情をとらえながら子育ての一つのあり方を描いている。	34 分	成 人
A-104 わが子を伸ばす 親の一言	子どもの「やる気」を育てるのも、摘んでしまうのも親の態度や言葉ではなかろうか。本作品は日常生活で子どもに接する機会が多い母親に焦点を当て、ちょっとした工夫や言葉のニュアンス・態度を改めることで、子どもの「やる気」が引き出せることを具体例を通して考えます。	34 分	成 人
A-108 子どもの心知っていますか	級友からも仲間はずれにされ、万引きに興味をもつ三人の少年、子どもの万引き事件を知り、ショックを受ける親と、それぞれの家庭の様子を描き、子どもの非行問題と親の責任についてとらえている。	30 分 カラー	成 人

ビデオ番号・題名	内 容	時 間	対 象
A-102 子供だけの食卓	一人で食卓に向かう子どもが多いという。親たちは一人ぼっちの食卓が子供に与える栄養面、心理面、健康面のひずみに気づいているのだろうか。今や「子供の非行は食生活の乱れから」と言われている。家庭教育における食事のもつ意味とともに子供の人間形成にとって大切な、楽しく豊かな一家団らんの食卓の実現を訴える。	30 分 カラー	成 人
A-220 子供の失敗を生かす	子どもの失敗を叱ることはやさしいが、それは子どもの心を傷つけるだけ。それよりも失敗を生かすことによって、やる気にさせるにはどうしたらよいか。鍵を握っているのは親の態度である。こうしたテーマを日常生活の中で考える。	30 分	成 人
A-221 おかあさんの勉強机	生涯教育にとって、子どもの人生最初である母親の教育が最も重要である。こういう観点から母親が、絶えず学ぶことの大切さを描く。	30 分	成 人
A-223 いじめは誰の責任 ーある事例からー	いじめられ、ついに自殺を決意するまでに至った中学2年生の木村少年が、なぜそうなったか・・・を、ドキュメンタリータッチで探りながら、いじめの真の原因について考える。	29 分	成 人
A-224 がんばったねお母さん	働く母に不満を持っていた小学校4年生の女の子が、母の会社勤め10周年を機に、母の立場を理解していく姿を描き家庭が互いに助け合って生きていくことの尊さを訴える。	39 分	小学生 中学生 成 人
A-225 ばく学校はきらい ーひよわな心ー	様々な社会のひずみを直接にうけることによって、自殺、登校拒否、家庭内暴力と、子どもたちの心の病気が頻発するようになってきた。そのような極端な行為に走らないまでも、現代っ子の心は一般的に抵抗力に乏しく、ひよわになったといわれている。何故そうなのか、小学3年生の子どもに起こった登校拒否の実例を再現しながら、その原因をさぐっていく。	30 分	成 人

(資料5) 家庭教育関係資料一覧 (福岡県立社会教育総合センター保有)

資 料 ・ 教 材 名	作 成 者	規格・ページ数	作成年月日
家庭教育学級事例集	福岡県教育委員会	B 5 判・P159	S43.3
家庭教育学級の現状	〃	B 5 判・P 61	S43.3
家庭教育学級事例集	〃	B 5 判・P124	S44.3
家庭教育学級の現状と実験学級研究報告集	〃	B 5 判・P168	S44.3
家庭教育学級事例集	〃	B 5 判・P115	S45.3
家庭教育学級事例集	〃	B 5 判・P 97	S46.3
家庭教育学級の現状と方向 (その2) ーカリキュラムをめぐるー	〃	B 5 判・P 69	S46.3
家庭教育学級の現状と方向 (その3) ーカリキュラムをめぐるー	〃	B 5 判・P 84	S47.3
家庭における幼児教育の現状と課題	〃	B 5 判・P128	S48.3
家庭における幼児教育のあり方 ー家庭における幼児教育の現状と課題 (その2) ー	〃	B 5 判・P104	S49.3
親の養育観と幼児教育 ー家庭における幼児教育の現状と課題 (その3) ー	〃	B 5 判・P112	S50.3
親の養育態度と子どもの園における行動 ー家庭における幼児教育の現状と課題 (その4) ー	〃	B 5 判・P119	S51.3
望ましい家庭教育をめざして	〃	B 5 判・P 56	S55.3
福岡県における小学生をもつ父親・母親の養育態度 行動の実態	〃	B 5 判・P 82	S58.3
福岡県における小学生をもつ父親・母親の養育態度 行動の実態 (その2)	〃	B 5 判・P 85	S58.3
福岡県における中学生の意識・行動と父親・母親の 養育態度・行動の実態	〃	B 5 判・P 56	S58.3
福岡県における中学生の意識・行動と父親・母親の 養育態度・行動の実態 (その2)	〃	B 5 判・P 56	S59.3
小学生をもつあなたの子育てのために	〃	B 5 判・P 36	S58.3
中学生をもつあなたの子育てのために	〃	B 5 判・P 32	S59.3
家庭教育の指導のために ー今、親に求められているものー	〃	B 5 判・P 64	S60.3
家庭教育の指導のためにⅡ ー今、親に求められているものー	〃	B 5 判・P137	S61.3
子どもが見ていますよお父さん お母さん	〃	B 5 判・P 52	S62.2
市町村の家庭教育事業の現状とその考察	〃	B 5 判・P 62	S62.3
家庭教育について ちょっとひとこと	〃	B 5 判・P 88	S63.1
家庭教育の活性化のために ー地域とのつながりをもとめてー	〃	B 5 判・P134	S63.3
見つめよう地域と家庭のつながり	〃	B 5 判・P 58	H 1.3
家庭教育の活性化のために ー家庭教育学級の現状と課題ー	〃	B 5 判・P102	H 2.3
家庭教育 (幼児期) 相談事業報告書	〃	B 5 判	S48～S63
すこやか家庭教育事業報告書 ーすこやかな子どもの成長を願ってー	〃	B 5 判	H 1～H 2
3歳児 育児のしおり	〃	A 6 判	S57～S63
いたずらざかり	〃	A 6 判	H 1～H 2
わんぱくざかり	〃	A 6 判	S57～H 2

(資料6)

平成2年度家庭教育総合推進事業の概要

1 事業の趣旨

家庭をとりまく社会環境等の状況が急速に変化するなかで、青少年の健全育成が極めて重要な課題となってきました。

その基盤となる家庭教育の当面している課題に対処するため、総合的見地から家庭教育の充実振興方策の企画・推進を図るために実施するものです。

2 事業の内容

(1) 家庭教育企画推進委員会

総合的な視点から家庭教育の充実方策を推進するために、学識経験者等で構成する委員により、当面する家庭教育上の諸問題の原因や背景を明らかにし、その対策について調査研究をすすめるとともに、家庭教育指導者研究協議会の企画・立案や家庭教育指導資料の作成を行うものです。

(年間7回実施)

・研究主題「家庭教育学級の手びき～学級の企画・運営にあたって～」

平成2年度家庭教育企画推進委員名簿（アイウエオ順）

氏 名	所 属
天 野 恭 子	福岡市立和白幼稚園
鬼 丸 市 朗	筑穂町教育委員会社会教育課
坂 本 徹	志摩町立可也小学校
中 原 厚 子	大牟田市社会福祉部婦人青少年課
奏 政 春	福岡教育大学
浜 田 宏 司	NHK福岡放送局事業部
萩 尾 忠 男	久山町立山田小学校
百 留 隆 男	県教育庁京築教育事務所社会教育課
森 紘	九州大学

(2) 家庭教育指導者研究協議会

家庭の教育力を補完する地域活動の活性化を図るために、指導的立場にある人を対象に、今日の家庭教育の課題に対するため、地域の実情に即した具体的・実践的な方策等を研究協議するものです。

平成2年度は、次の3会場で実施しました。

・研究主題「家庭教育の活性化をはかるために～地域における学習の広がり」と深まりを求めて～」

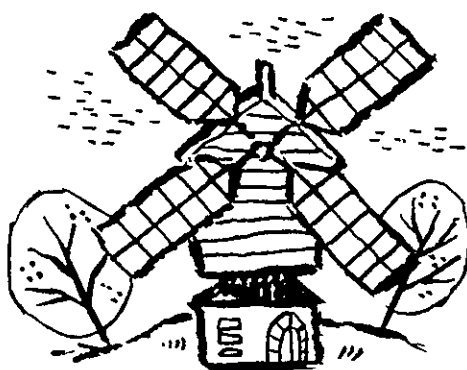
期 日	会場及び主管	参加者数	学 習 の 方 法 及 び 内 容
平成3年 1月27日 (日)	粕屋町 中央公民館 福岡 教育事務所	194 名	1. 基調提案 「家庭教育学級の現状と課題」 坂本 徹(企画推進委員) 2. 講演 「家庭教育学級で学ぶもの」 松尾 祐作(福岡教育大学) 3. シンポジウム 「家庭教育学級の広がり」と深まりを求めて」
平成3年 2月14日 (木)	行橋市 中央公民館 京築 教育事務所	160 名	1. 基調提案 「家庭教育学級の現状と課題」 鬼丸 市朗(企画推進委員) 2. 講演 「地域における学習のひろがり」と深まり」 森 紘(九州大学) 3. シンポジウム 「地域における学習のひろがり」と深まりを求めて」
平成3年 2月17日 (日)	八女市 文化会館 福祉会館 市町村会館 南筑後 教育事務所	370 名	1. 基調提案 「家庭教育学級の現状と課題」 中原 厚子(企画推進委員) 2. 講演 「いま、親に求められているもの」 横山 正幸(福岡教育大学) 3. 分科会 ① 地域の教育力を高めるための推進体制のあり方を考える ② 人々の多様なニーズに対応する家庭教育学級のあり方を考える ③ 家庭・学校・地域の連携のあり方を考える

(3) 家庭教育指導資料の作成・配布

各事業の成果を企画委員会がとりまとめて資料を作成し、関係行政機関、関係団体、家庭教育学級等に配布して、その活用を図るものです。

指 導 資 料 一 覧

年 度	資 料 名
60	・家庭教育の指導のためにⅡ — 今、親に求められているもの — ～ 親の後ろ姿を求めて ～
61	・子どもが見ていますよ お父さん お母さん ・市町村の家庭教育事業の現状と課題
62	・家庭教育の活性化のために～地域とのつながりをもとめて～
63	・見つめよう地域と家庭のつながり
元	・家庭教育の活性化のために ～ 家庭教育学級の現状と課題～
2	・家庭教育学級の手びき ～ 学級の企画・運営にあたって～



平成2年度
家庭教育指導資料「家庭教育学組の手びき」

平成3月3月発行

福岡県立社会教育総合センター（事業課）

福岡県粕屋郡篠栗町大字金出3350-2

TEL (092) 947-3511

家庭教育 110 番 (092-947-3515)

福岡県立社会教育総合センターでは、幼児期及び少年期のお子さんをお持ちの家庭を対象に家庭教育一般に関する電話相談を実施しています。お気軽な気持ちでダイヤルしてください。

また、医学や心理学等に関する専門的なことがらについても、適切な相談窓口を紹介しています。

★曜 日／毎週月曜から土曜まで

(ただし毎月第2月曜と国民の祝日及び
年末年始はお休みです)

★時 間／9時30分から12時00分まで及び
13時00分から17時00分まで

★電話番号／092-947-3515

